岩手県文化財調査報告書　第129集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成20年度）

平成22年３月

岩　手　県　教　育　委　員　会

序　　文

埋蔵文化財は、私たちの祖先より培われてきた貴重な歴史的財産であり、国民共有の財産であります。先人の残したかけがえのない財産である埋蔵文化財を、文化財保護法の理念に基づき活用し、後世に伝えていくことは現代に生きる私たちの重大な責務です。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の大規模な開発事業等により現状保存をすることが難しくなっております。このような状況のなかで、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との円滑な調整を図るためには、遺跡の性格や所在地、範囲を正確に示す必要があることはいうまでもありません。そして、一つ一つの遺跡に対する地道な取り組みが、その後の埋蔵文化財の保存と活用につながると考えております。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年度より遺跡の分布調査を実施しており、現在、県内で確認されている遺跡数は約１万３千近くにも上ります。これらの遺跡を広く周知する必要があるとともに、開発事業との調整の中で行った発掘調査の記録や、遺跡の範囲及び内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにする必要があると考え、平成元年度からこれらの調査の報告書を刊行しています。

本報告書は、平成20年に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果をまとめたものです。本報告書が県内遺跡の内容把握に活用され、埋蔵文化財の保護に寄与することがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導と御協力をいただきました多くの方々に対し心より感謝申し上げます。

平成22年３月

岩手県教育委員会

教育長　法　貴　　敬

目　　次

例言

Ⅰ　発掘調査

1　一般国道45号宮古道路建設事業（八木沢駒込Ⅰ遺跡）……3
2　馬淵川沿岸農業水利事業（火行塚遺跡）……4
3　経営体育成基盤整備事業中寺林地区（八坂遺跡）……7
4　経営体育成基盤整備事業黒岩第１地区（三坊木遺跡）……9
5　新農業水利システム保全整備事業稲瀬地区（樺山遺跡）……13
6　経営体育成基盤整備事業江刺西部地区（北天間Ⅰ遺跡）……17
7　経営体育成基盤整備事業和賀中部六原地区（北長根道合遺跡）……19
8　中山間地域総合整備事業野田地区（中新山遺跡）……21
9　松園養護学校校舎整備事業（松屋敷遺跡）……23
10　県南青少年の家キャンプ場第２炊事場流し配水管改修工事（柏山館遺跡）……27
11　66kv送電線「宮釜線補償金工事」事業（隠里Ⅲ遺跡）……29

Ⅱ　試掘調査

1　一般国道４号バイパス改築工事（芋田沢田Ⅳ遺跡）……33
2　一般国道４号改築事業（武道Ⅴ遺跡）……34
3　一般国道４号北上拡幅改築工事（滝ノ沢遺跡）……35
4　一般国道４号北上拡幅改築工事（丸子館遺跡）……36
5　東北横断自動車道釜石秋田線建設事業（羽黒田遺跡）……38
6　東北横断自動車道（釜石秋田線）新直轄事業（新田Ⅱ遺跡）……39
7　胆沢ダム建設事業（下嵐江Ⅰ遺跡）……40
8　農用地総合整備事業下閉伊北区域（二升石大根遺跡）……41
9　農用地総合整備事業下閉伊北区域（田代タテ遺跡）……42
10　農用地総合整備事業下閉伊北区域（田代タテ遺跡）……43
11　農用地総合整備事業下閉伊北区域（田代タテ遺跡）……44
12　農用地総合整備事業下閉伊北区域（田代タテ遺跡）……45

13　農用地総合整備事業下閉伊北区域（田代小幡遺跡隣接地）……46
14　農用地総合整備事業下閉伊北区域（田代イクアエ沢遺跡隣接地）……47
15　地方特定道路整備事業（大宮北遺跡）……48
16　緊急地方道路整備事業（成田岩田堂館遺跡）……49
17　緊急地方道路整備事業（鵜ノ木南台地遺跡）……50
18　国道397号道路改良事業（高屋敷Ⅱ遺跡）……51
19　津付ダム建設事業（子飼沢高炉跡）……52
20　花巻空港建設事業（上ノ山遺跡隣接地）……53
21　花巻空港建設事業（石持Ⅰ遺跡）……54
22　経営体育成基盤整備事業徳田第二地区（徳丹城跡隣接地）……55
23　経営体育成基盤整備事業南日詰地区（下川原Ⅰ遺跡）……56
24　中山間地域総合整備事業中居地区（西部遺跡）……57
25　経営体育成基盤整備事業古城２期地区（水尻遺跡）……58
26　経営体育成基盤整備事業古城２期地区（古城方八丁遺跡）……59
27　経営体育成基盤整備事業古城２期地区（四反田Ⅱ遺跡）……60
28　経営体育成基盤整備事業古城２期地区（高殿Ⅰ遺跡）……61
29　経営体育成基盤整備事業白山地区（小林繁長遺跡）……62
30　経営体育成基盤整備事業白山地区（八幡遺跡）……63
31　経営体育成基盤整備事業都鳥・都鳥２期地区（川端遺跡）……64
32　経営体育成基盤整備事業夏川第２期地区（石崎貝塚）……65
33　経営体育成基盤整備事業夏川地区（貝鳥貝塚）……66
34　骨寺村荘園景観保全農地整備事業（骨寺村荘園遺跡）……67
試掘調査出土遺物……71
試掘調査・分布調査・発掘調査一覧表……75

Ⅲ　写真図版……87

例　　言

1　本書は、岩手県教育委員会が平成20年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。

2　本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。

3　遺跡位置図は国土地理院発行の１／2.5000地形図を、原寸大を原則として、改変したものである。遺構及びトレンチ位置図は、各事業者より入手した地形図を原図として作成したものである。なお、遺物実測図については、図中に縮尺を示してある。遺物写真については縮尺不同である。

4　発掘調査については、概略を示している。

5　試掘調査に係る遺跡の推定範囲をアミ掛けで示し、試掘トレンチは実線で示している。

6　本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が担当した。

平成21年度　　斎藤邦雄　　吉田　充　　千葉正彦　　戸根貴之

平成20年度　　斎藤邦雄　　吉田　充　　菅　常久　　櫻井友梓

7　本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。

Ⅰ　発掘調査

1　一般国道45号宮古道路建設事業

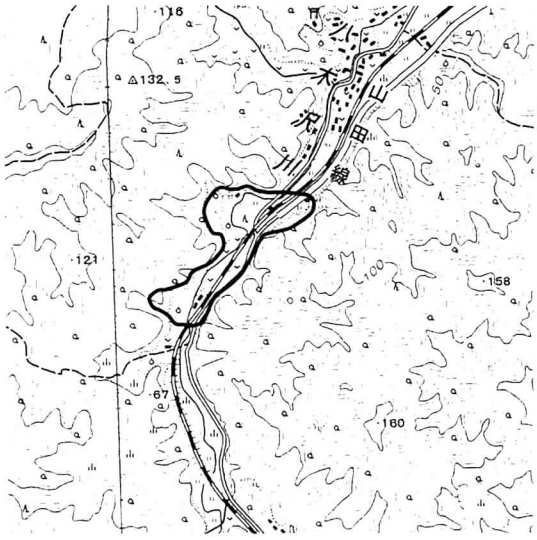
八木沢駒込Ⅰ遺跡（ＬＥ43－1206）

所在地：宮古市大字八木沢第８地割字駒込地内

事業者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

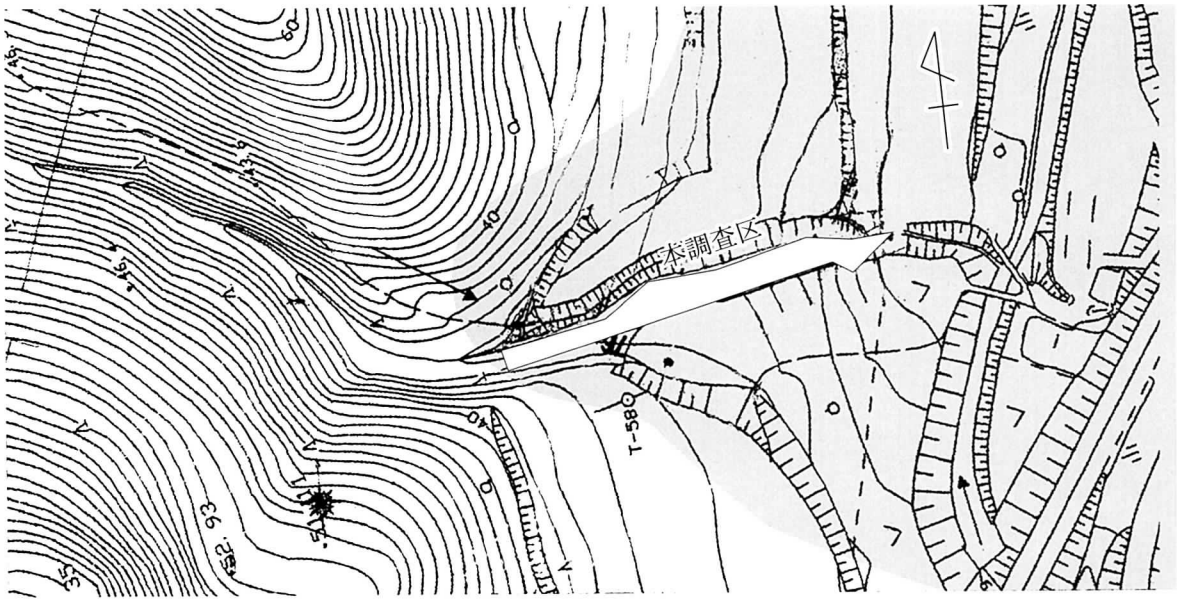
調査期日：平成21年２月19日

遺跡は、ＪＲ磯鶏駅の南西，約3.6㎞に位置し、宮古湾に向かって北流する八木沢川西岸の標高32ｍ前後に立地している。現況は原野である。今回の調査は、H21年度に本調査を実施する箇所であったが、山麓部から八木沢川西岸に注ぐ沢地形部分に急遽排水路の設置が計画がされたことから、本調査を実施したものである。今回、本調査範囲とした部分は埋設管設置に伴い掘削される沢沿いの斜面地である。



第１図　八木沢駒込Ⅰ遺跡位置図

調査箇所は、平成20年度に本調査が実施された沢を挟んだ南側に隣接した所である。沢の侵食により失われた部分にマサ土の再堆積層、その下位に旧表土と思われる黒色土が部分的に認められた。重機による表土除去後に人力により遺構検出を行ったが、遺構遺物とも検出されなかった。



第２図　八木沢駒込Ⅰ遺跡調査区位置図

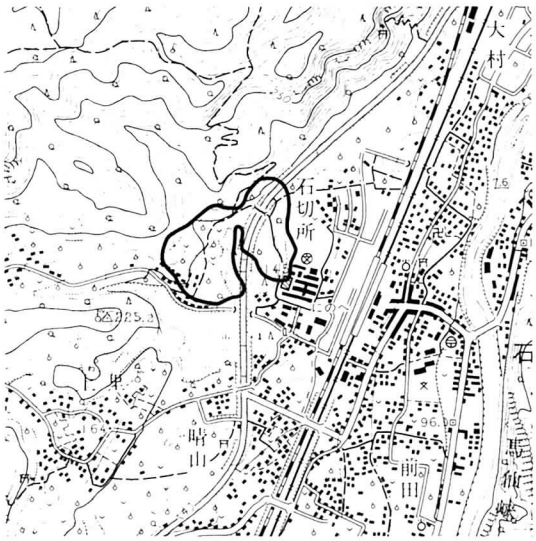
2　馬淵川沿岸農業水利事業

火行塚遺跡（JE09－1211）

所在地：二戸市石切所字火行塚地内

事業者：農林水産省東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所

調査期日：平成20年７月７日～７月10日

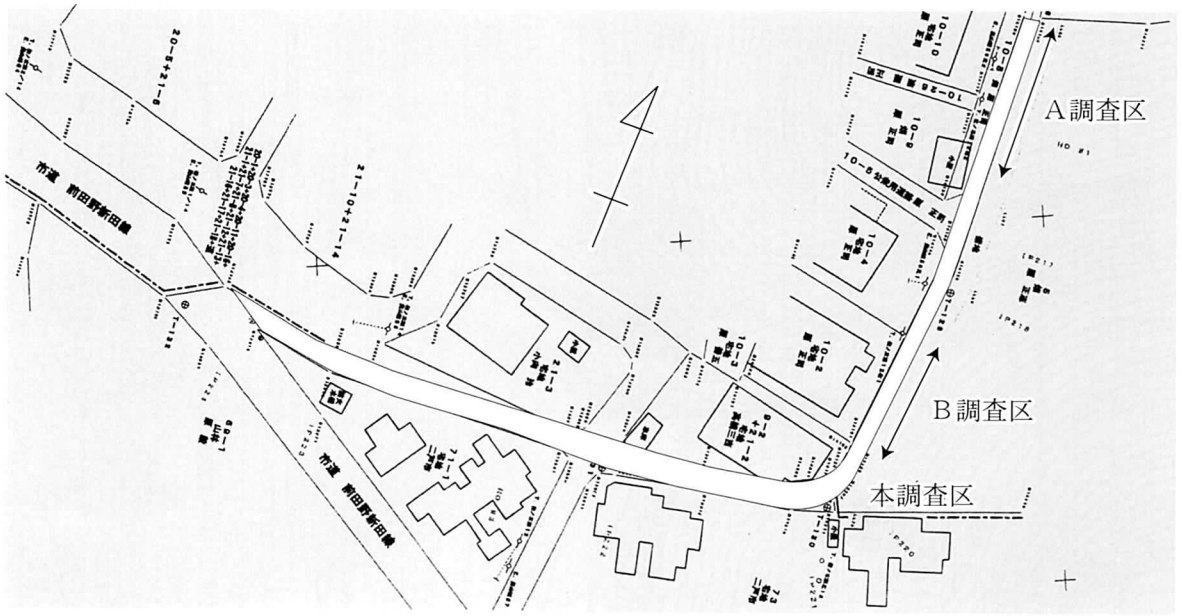


第３図　火行塚遺跡位置図

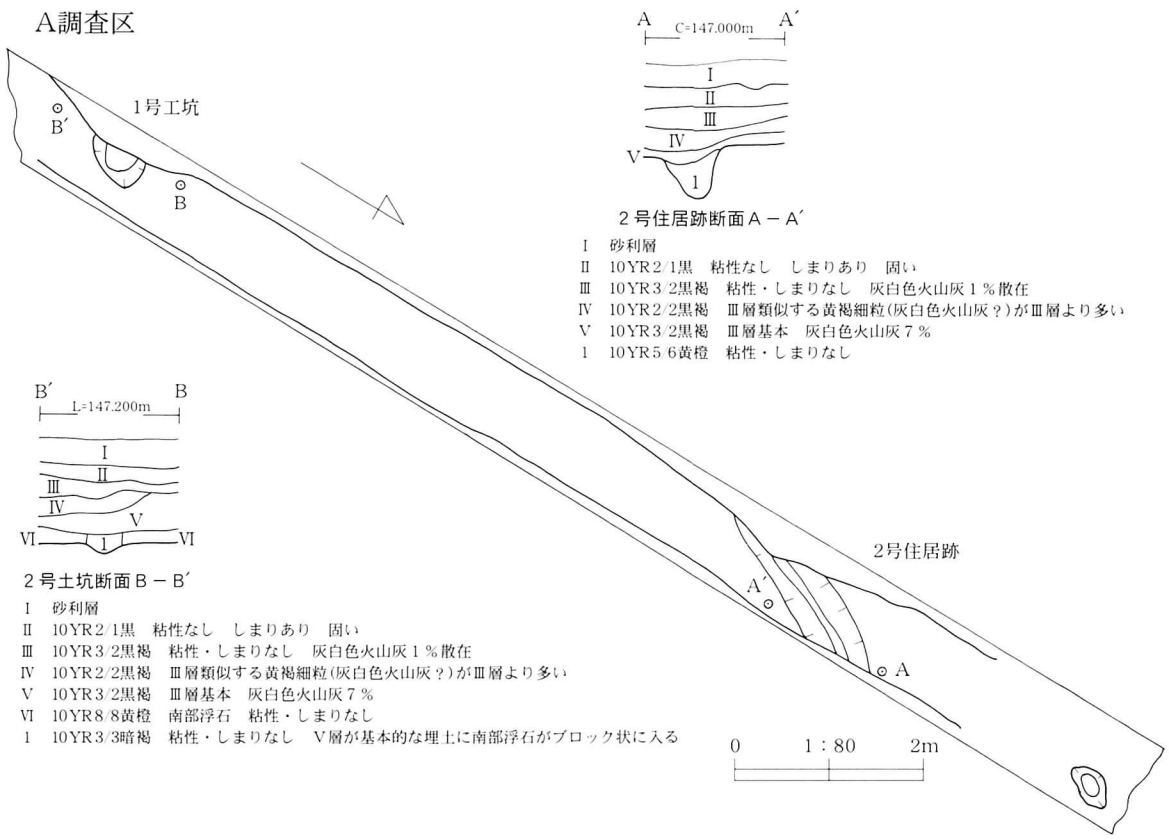
遺跡はＪＲ東北新幹線二戸駅から西へ約1.4㎞に位置し、馬淵川支流により開析された標高147ｍ±の丘陵地上に立地している。今回の発掘調査は、「国営馬淵川沿岸農業水利事業男神支線用水路工事」の施工に伴うパイプラインの敷設に伴い実施したものである。従前、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが本調査を実施した箇所であるが、住宅地が沿道に林立した狭小な市道でありまた、市道下の上下水道幹線から各住宅に支線が引き込まれていることなど、支障物件が多いことから工事立会で対応したものである。埋蔵文化財センターが調査した南側に相当する。幅0.8m、延長約160ｍにわたって調査した。遺構が検出された箇所を便宜上Ａ調査区、Ｂ調査区とする。Ａ調査区では、竪穴住居跡の一部、土坑１基、柱穴１口、Ｂ調査区では竪穴住居跡１棟を検出した。

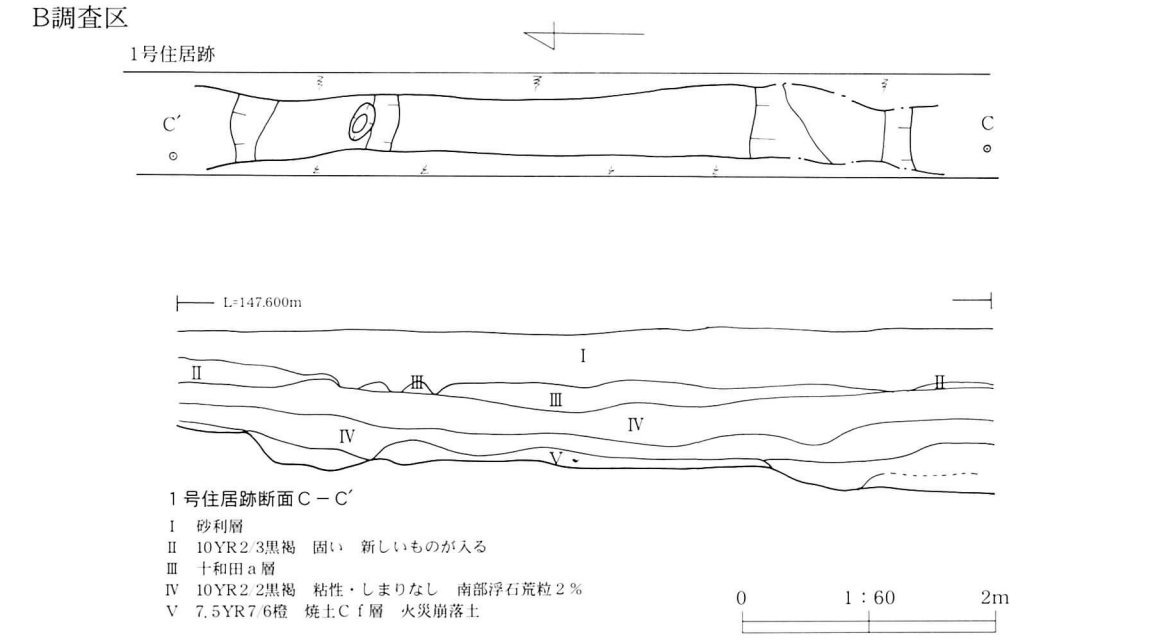
Ａ調査区の土坑及び柱穴は、検出状況から古代の遺構と思われる。また、幅60㎝、深さ10㎝、長さ約100㎝で底面が彼熱を受けた溝状の遺構が検出されており、古代の住居跡の一部、カマドの煙道の可能性が高い。当遺構から、内面黒色処理された有段の非ロクロ成形の坏が出土している。

Ｂ調査区では、古代の竪穴住居跡１棟を検出した。埋土の上部に十和田ａ火山灰と推定される灰白色の火山灰が厚くレンズ状に堆積している。南辺及び北辺を検出した、調査区の東壁から遺物が多く出土していること焼土が多く見られることなどから、カマドの周辺部と推定される。カマドは東壁で中央よりやや南によった場所に構築されものと考えられる。床面には、現地性の焼土や炭化した部材がブロック状に散在しており焼失を受けた住居跡である。壁沿いに幅100㎝、深さ20㎝の落ち込みが見つかっており壁溝が巡っていたと思われる。遺物はカマドの周辺部と考えられる当遺構の南側から集中して見つかっている。口縁部が短く外反する非ロクロ成形の小型～中型の甕類が出土している。ロクロ成形の甕類は出土していない。

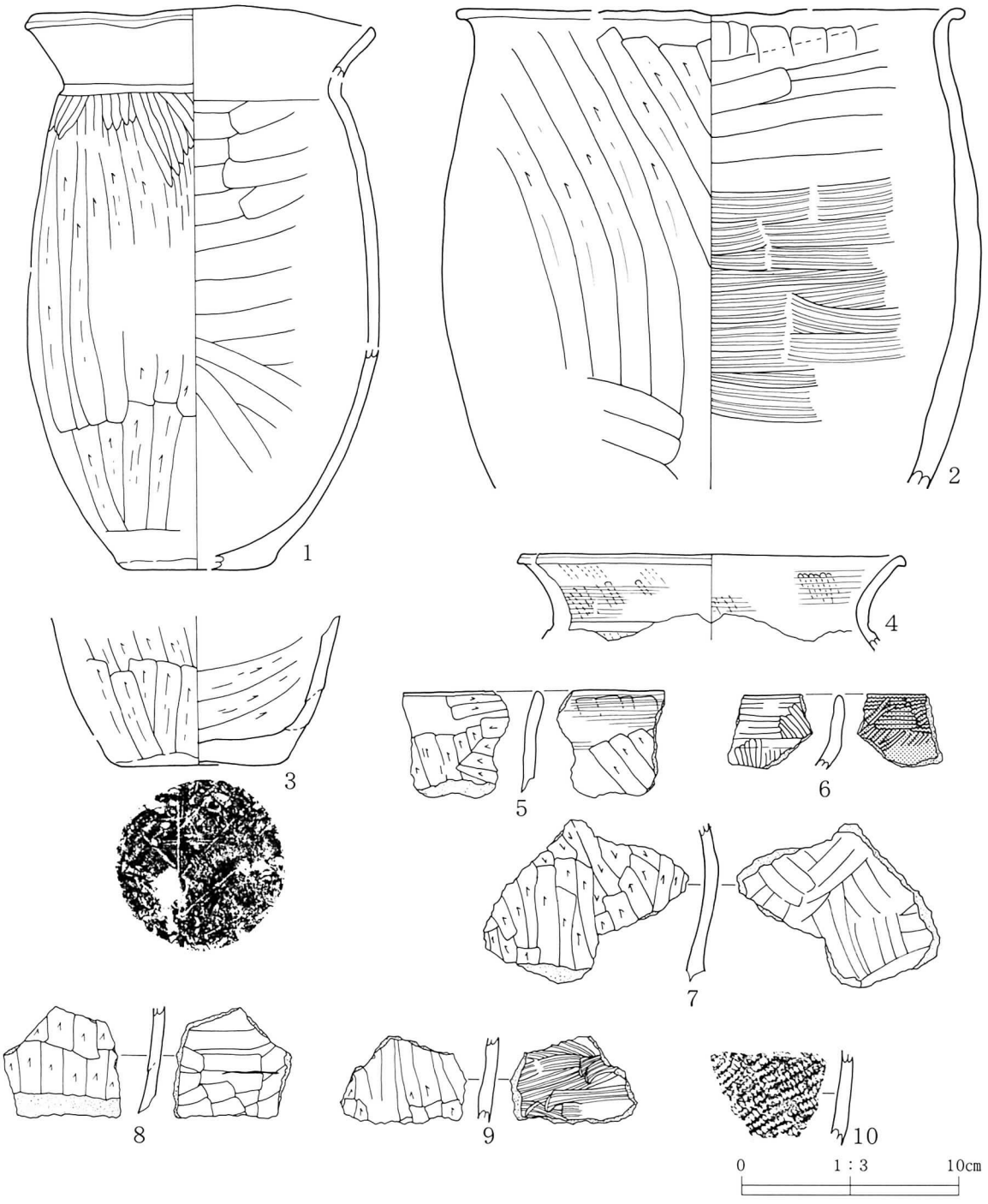


第４図　火行塚遺跡調査区位置図





第５図　火行塚遺跡検出遺構



火行塚遺跡掲載遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特　　徴
1	1号住居跡	床面直上	土師器	甕	外面ケズリ、ミガキ　内面ナデ
2	〃	〃	〃	〃	口縁～胴部片
3	〃	〃	〃	〃	底部片　内外面ケズリ
4	〃	〃	〃	〃	口縁部片　内面に煤付着部有り
5	〃	〃	〃	〃	口縁部片　内外面ケズリ
7	〃	〃	〃	甕	胴部片　外面ケズリ　粘土紐接合痕
8	〃	〃	〃	〃	〃　　〃
9	〃	〃	〃	〃	〃　　〃
6	1号焼土遺構	直上	〃	坏	口縁部片　内面内黒処理
10	A調査区遺構外		縄文	〃	〃　　〃

第6図　火行塚遺跡検出遺構

3　経営体育成基盤整備事業中寺林地区

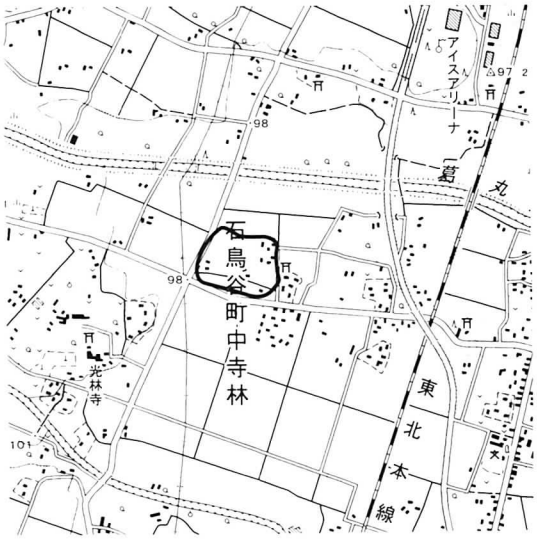
八坂遺跡（ＬＥ96－1159）

所在地：花巻市石鳥谷町中寺林

事業者：県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成21年３月25日

八坂遺跡は花巻市役所の北方約9.6kmに位置し、更新世の中位段丘面上に立地する。調査地は民家の北側で、現況は排水路である。今回の調査は平成19年12月12日～13日に実施された試掘調査を受け、遺構が確認されていた箇所について本調査を行ったものである。

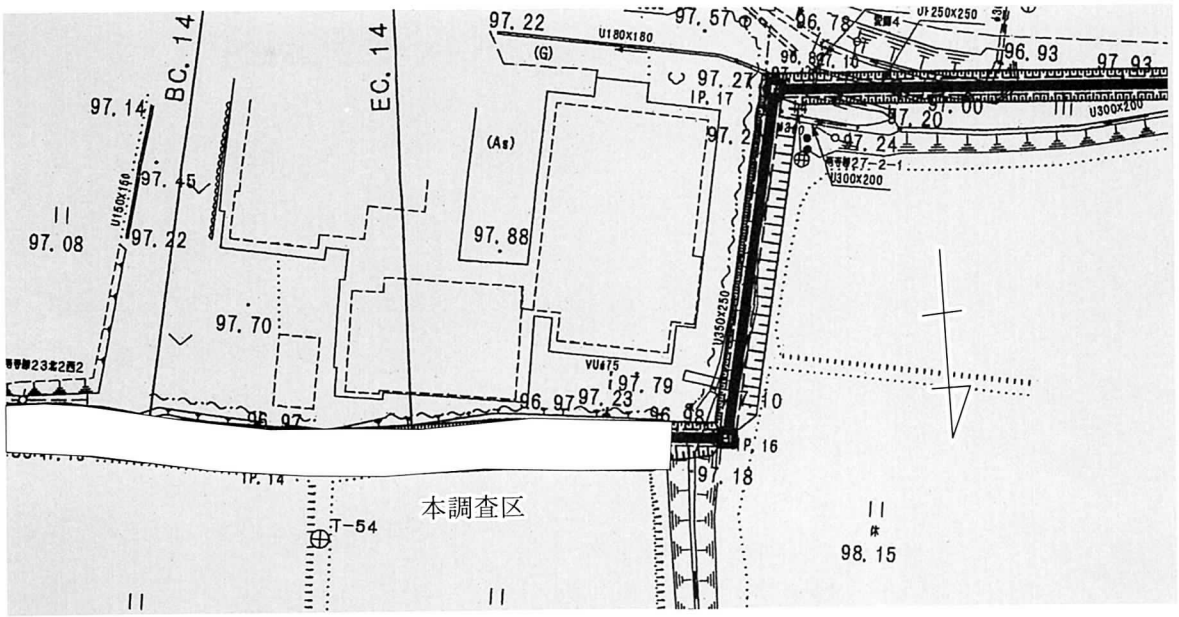


第７図　八坂遺跡位置図

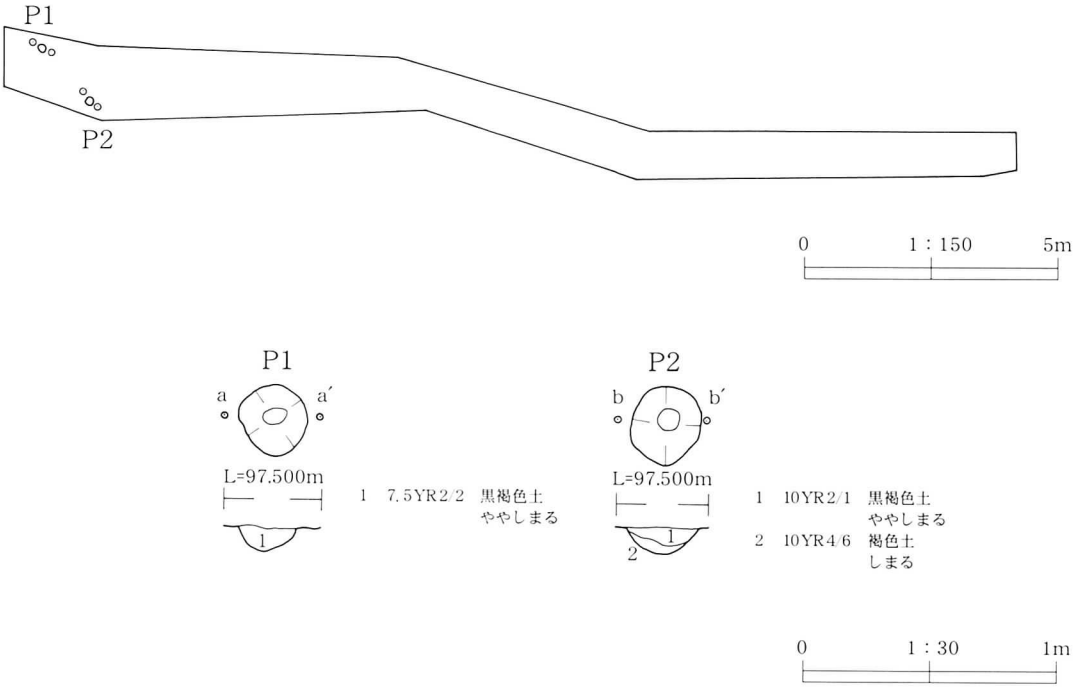
基本土層は、Ⅰ層暗褐色・褐色・明黄褐色土の混合土（盛土）106cm、Ⅱ層黒褐色土（旧表土）８cm、Ⅲ層褐色土（地山・層厚不明）である。

調査箇所は現在の水田畦畔部分で、過去の造成工事で残存するⅡ層旧表土上に盛土されている。遺構はⅢ層地山上面で検出された。重機により粗掘りを行いその後人力で遺構検出を行った。大小合わせて４個の柱穴状遺構が検出された。このうち東側の２個は、精査した西側の遺構よりもプランが明瞭で新しい時期の遺構と判断した。このことから東側の調査対象範囲については、調査の必要がないと判断した（７本の試掘調査トレンチで遺構が検出されない）。西側で検出された２個の遺構は規模が30～35cmで深さが約10cmの規模で、ともに浅い隅丸円形状を呈する。２個の柱穴状遺構間の距離は約2.3mで、北西－南東方向に並ぶ。これら２基の遺構埋土からは遺物は出土しない。

調査結果から検出された２個の柱穴状遺構の所属時期は判断できないが、周知遺跡として登録されている平安時代に属する可能性がある。検出状況から調査範囲南側に位置する現屋敷側に遺跡が広がる可能性がある。



第８図　八坂遺跡調査区位置図



第９図　八坂遺跡検出遺構

4　経営体育成基盤整備事業黒岩第１地区

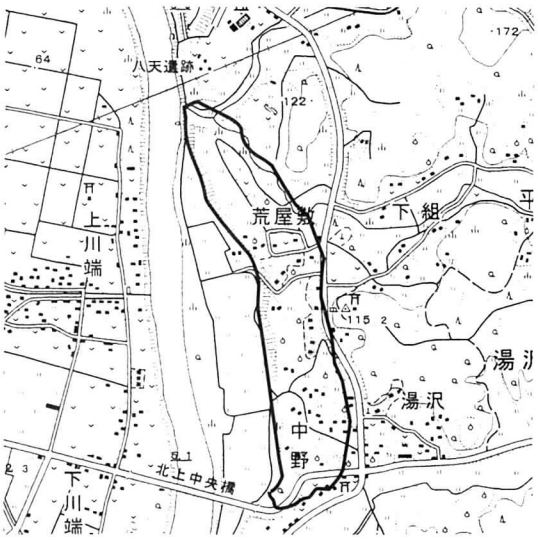
三坊木遺跡（ME57－0055）

所在地：北上市黒岩、平沢荒屋敷地内

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成21年1月6日㈫～9日㈮、13日㈫～14日㈬

本遺跡は、北上市役所の北東方向約5.7㎞に位置し、北上川左岸の標高は76～81ｍの河岸段丘上に立地している。現況は主に宅地・水田及び畑地となっている。



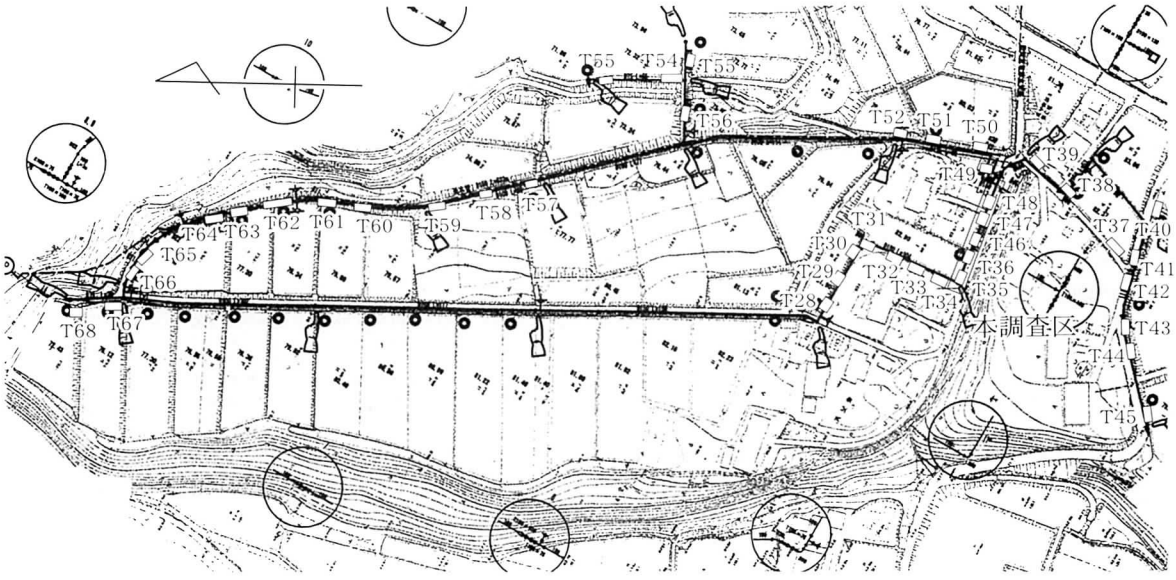
第10図　三坊木遺跡位置図

今回の発掘調査は、今年度従前に当課が実施した試掘調査で遺構が確認されていた箇所である。試掘調査の時点で柱穴状土坑と焼土遺構が確認されていた。柱穴状土坑については精査の結果、近現代の穴であることが判明した。焼土遺構は、古代の竪穴住居跡のカマドであることが判明した。新たに、陥し穴状遺構が１基検出された。基本層序は、第Ⅰ層：表土（耕作土）・層厚20～40㎝、第Ⅱ層：黒色土層・層厚０～20㎝、第Ⅲ層：地山・褐色土層である。

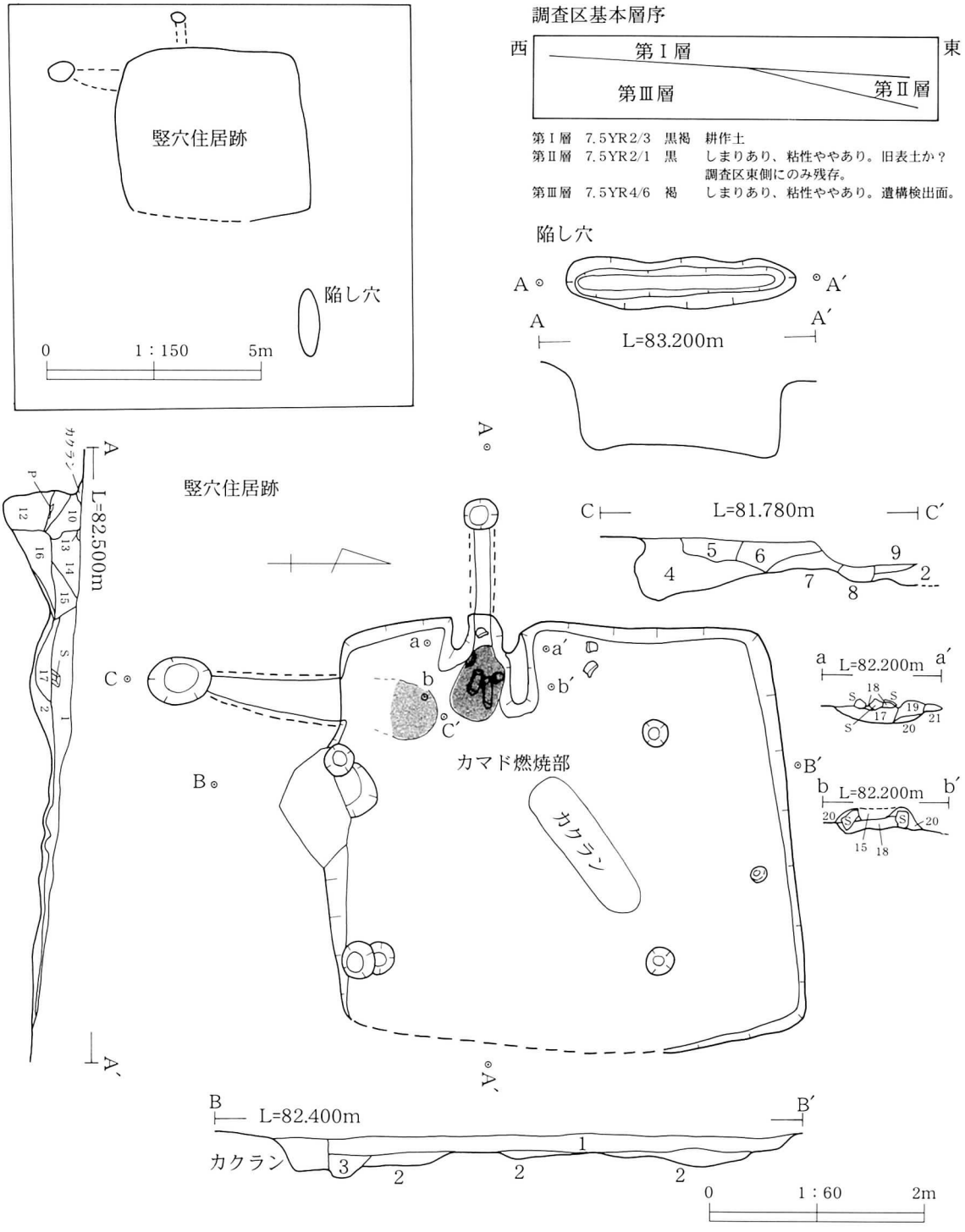
陥し穴状遺構は東西に長い溝状のもので、開口部で長さ2.9m・幅0.7m・深さ1.2mの規模である。埋土は黒色土で構成され、遺物は出土していない。

古代の住居跡は、南北6.0m、東西5.5m、壁高0.2mの規模で平面形はほぼ正方形である。カマドのつくりかえが認められ、当初は南壁の中央からやや西よりの部分に構築されていた。新規のカマドは西壁の中央から南によった場所に構築されている。カマドの両袖は黄褐色ロームを掘り残して構築されている。調査区が削平を受けており、竪穴構築時の壁高は不明であるが、煙道の縦断面がマドロスパイプ状であることから刳りぬきの煙道であった可能性がある。柱穴は６個見つかっており、４個で主柱穴を構成している。西壁にカマドを新たに構築した際に、住居の手直しも同時に行ったのか、古いカマドが新しい柱穴により破壊されている。柱位置が極端に住居の中央部から片側にずれる傾向があり、カマドの構築と連動しているものと考えられる。遺物の多くは新規のカマドの袖周辺から出土している。

遺物の構成は、底部回転糸切り無調整の須恵器坏、底部回転糸切り無調整の内面黒色処理された土師器坏、口縁部が短く外反するロクロ調整の中型の土師器甕、手づくねの土師器の小型甕、須恵器の壺で構成されている。坏類では須恵器が、甕類では土師器が卓越している。判読は不能であったが１の須恵器の外面底部に墨書が認められる。13の土師器甕の底部外面に砂の付着が認められる。土器群の構成から、当住居跡は平安時代９世紀後半代頃と推定される。



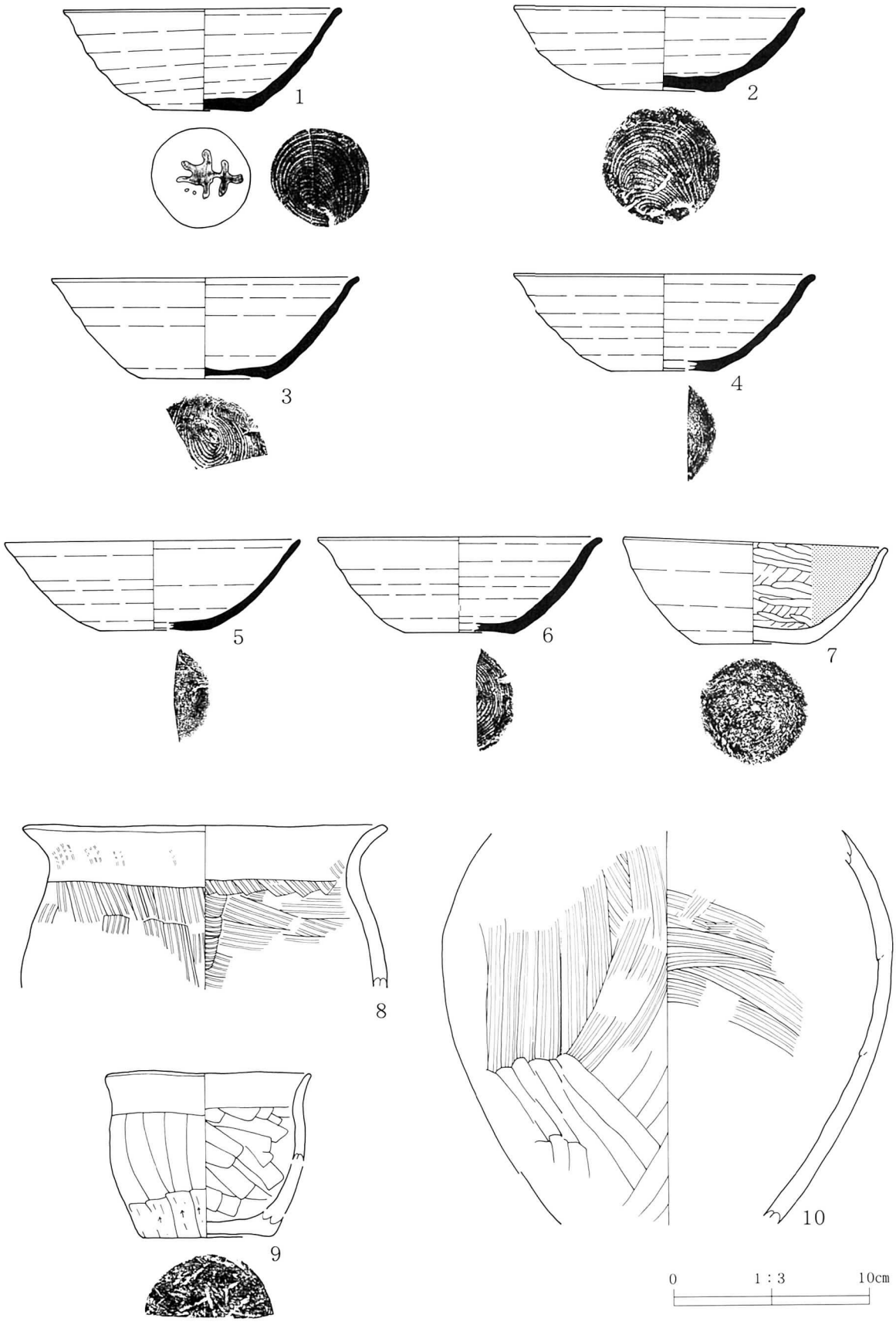
第11図　三坊木遺跡調査区位置図



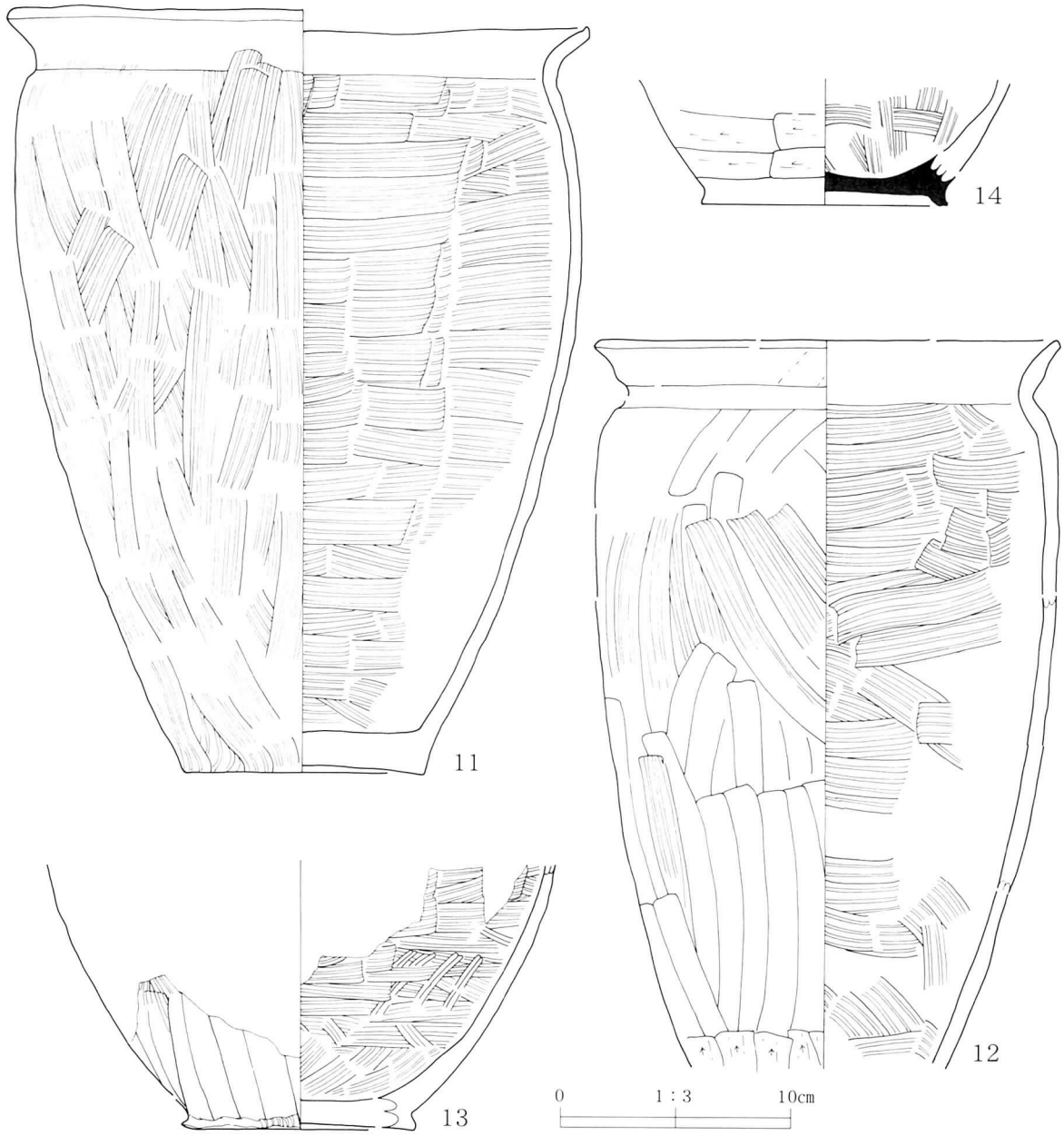
竪穴住居跡断面　A－A′　B－B′　C－C′　a－a′　b－b′

1　7.5YR1.7/1　黒色　しまりややあり、粘性ややあり。遺物を含む。竪穴住居跡埋土
2　7.5YR3/2　極暗褐　固くしまっている。粘性ややあり。7.5YR4/6褐色の地山ブロックを多く含む。
3　7.5YR2/2　黒褐　しまりややあり、粘性あり。地山崩落土をわずかに含む。柱穴埋土。
4　2.5YR3/3　暗赤褐　しまりなし、粘性なし。10㎝大の焼土ブロックを含む。
5　2.5YR4/6　赤褐　しまりあり、粘性なし。煙道天井部分か。
6　7.5YR4/3　褐　しまりややあり、粘性なし。焼土ブロック及び焼土粒、炭化物を多く含む。煙道天井部崩落土。
7　7.5YR4/3　褐　しまりなし、粘性なし。2.5YR4/6の焼土ブロック(1～3㎝大)を含む。
8　7.5YR3/2　黒褐　しまりややあり、粘性ややあり。2.5YR4/6の焼土ブロックを含む。
9　2.5YR4/6　赤褐　固くしまっている。南カマド燃焼部の一部。
10　2.5YR3/2　暗赤褐　しまりあり、粘性あり。煙出部。
11　2.5YR4/8　極暗赤褐　しまりややなし、粘性なし。10層より2.5YR2/1黒色土を含む。
12　7.5YR3/2　黒褐　しまりややなし、粘性なし。遺物を含む。
13　7.5YR4/6　褐　しまりあり、粘性なし。地山
14　2.5YR3/2　暗赤褐　しまりなし、粘性なし。煙道天井部崩落土。
15　7.5YR2/1　赤黒　しまりややあり、粘性なし。地山崩落土を含む。
16　7.5YR4/6　褐　しまりなし、粘性なし。地山崩落土
17　2.5YR4/6　赤褐　固くしまっている。西カマド燃焼部。
18　2.5YR3/4　暗赤褐　しまりなし、粘性あり。火を受けた地山崩落土。遺物を含む。
19　7.5YR4/6　褐　しまりあり、粘性なし。炭化物を多く含む。カマドソデの一部。
20　2.5YR3/4　暗赤褐　しまりなし、粘性あり。焼土を多く含む。カマドソデの一部。
21　7.5YR4/4　しまりあり、粘性ややあり。ソデ崩落土。

第12図　三坊木遺跡検出遺構



第13図　三坊木遺跡出土遺物（1）



三坊木遺跡掲載遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特　　徴
1	住居跡２号カマド南		須恵器	坏	底部に墨書有り
2	〃　　〃		〃	〃	ロクロ　回転糸切り痕
3	〃　西カマド脇	床面直上～埋土下部	〃	〃	〃
4	〃	床面	〃	〃	〃
5	〃　西カマド脇	床面直上～埋土下部	〃	〃	〃
6	B区畑		〃	〃	〃
7	〃	埋土上部	土師器	〃	〃
8	〃　西カマド脇	床面直上	〃	甕	内外面ハケメ
9	〃　〃	床面直上～埋土下部	〃	小型甕	外面ナデ、ケズリ　内面ナデ
10	〃　２号カマド	煙道部	〃	甕	内外面ハケメ
11	〃　西カマド煙道周辺	床面直上～埋土下部	〃	〃	ほぼ完形　内外面ハケメ
12	〃　２号カマド南	煙道部	〃	〃	外面ハケメ、ケズリ　内面ハケメ
13	〃	床面直上	〃	〃	内外面ハケメ
14	〃	埋土上部	須恵器	壷	外面ケズリ、内面ハケメ

第14図　三坊木遺跡出土遺物（2）

5　新農業水利システム保全整備事業稲瀬地区

樺山遺跡（ME86－0242）

所在地：北上市稲瀬町大谷地

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期間：平成20年２月23日～25日

樺山遺跡は北上市役所の約5.4㎞南南東の北上川左岸段丘上に立地している。これまで縄文時代中期の住居跡や配石遺構等が確認されており、縄文時代の集落跡として国史跡に指定されている。

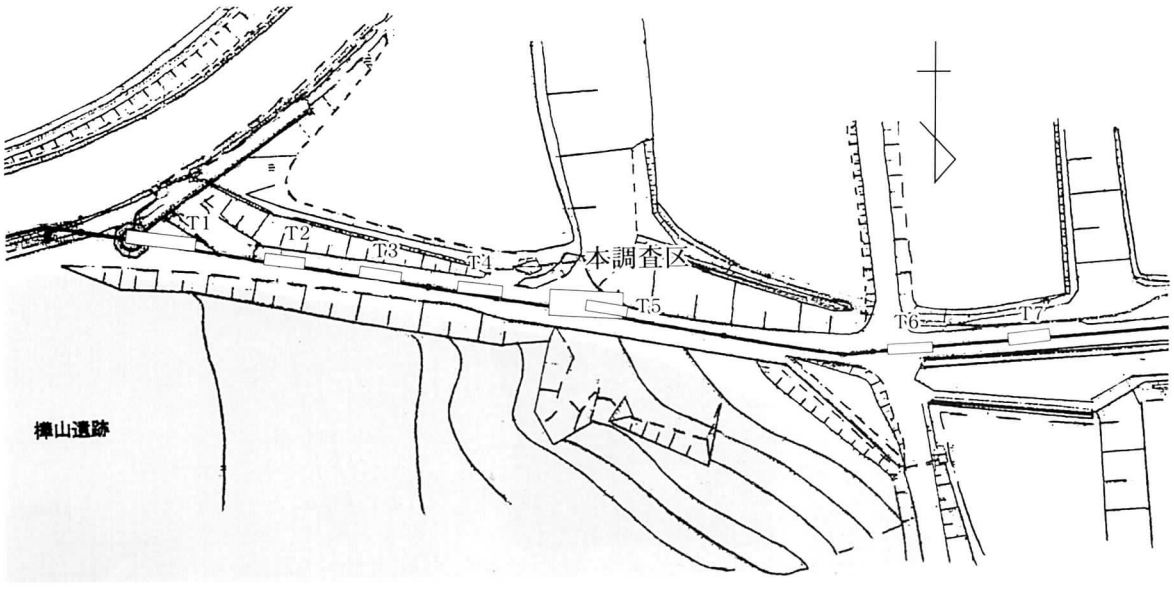
第15図　樺山遺跡位置図

当発掘調査は史跡指定地の南側に隣接する市道におけるパイプライン埋設工事に係るものである。事前調査として当課が実施した試掘調査において東西約100ｍの範囲で遺物包含層が検出されたため、事業者と当課の間で工法変更の協議を行い、掘削が及ぶ東西５ｍの範囲を対象として発掘調査を実施した。

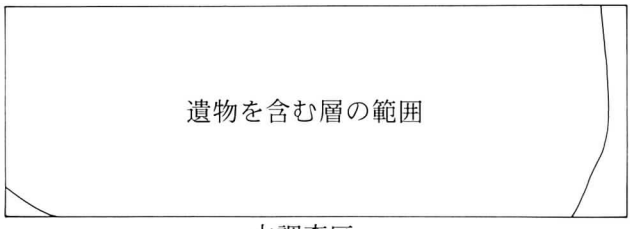
調査地には現道の砕石・盛土が厚さ100㎝以上なされている。盛土下の土層は、概ね３層に大別される。第Ⅰ層：暗褐色土、厚さ10㎝。第Ⅱ層：褐色土、縄文時代の遺物を多量に含む。厚さ20㎝。第Ⅲ層：黄褐色粘土、厚さ不明。黒沢尻火山灰～前沢火山灰相当の火山灰層。地山。なお、調査地は東から西へと向斜して下る道路であるが、斜面上方では削平により第Ⅰ・Ⅱ層が消失しており、盛土直下で地山が露出する状況であった。

調査の結果、遺構は検出されなかったが、調査地西側のⅡ層中から縄文土器および石器が多量に出土した。土器には縄文時代前期後葉～中期中葉のものが含まれる。１は球胴形の深鉢、２は浅鉢。５～14は口縁部破片、15～27は胴部破片、28は底部破片である。半截竹管状工具を用いた沈線文が見られ、５・11・13は工具外面による太く窪んだ沈線、10・12・14・15・19・23は内面による平行沈線、18は工具端部による沈線文、をそれぞれ施している。７・16・20・22・26は単軸絡条体による撚糸文。25には細い粘土紐の貼付け、６・13・17・18は頸部に隆帯貼付がなされる。28の底部外面には網代痕が見られる。器形・文様の特徴から、前期末葉の大木６式に比定されるものが主体である。石器29～35はいずれも削掻器である。

調査の結果、調査地周辺の原地形は斜面地で遺構はきわめて希薄な状況にあると思われるが、史跡隣接地で縄文時代前期を主体とする遺物包含層が検出された。多量の遺物は段丘面上に占地する集落中心部から流入ないしは投棄に起因するものと解される。

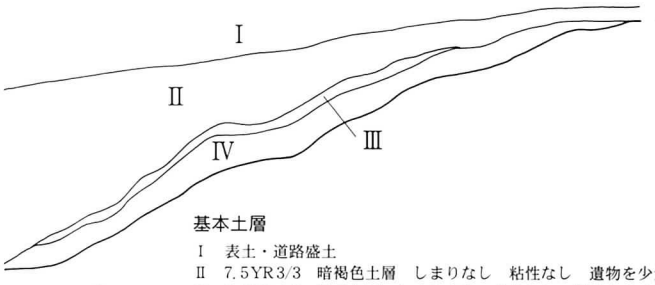


第16図　樺山遺跡調査区位置図



本調査区

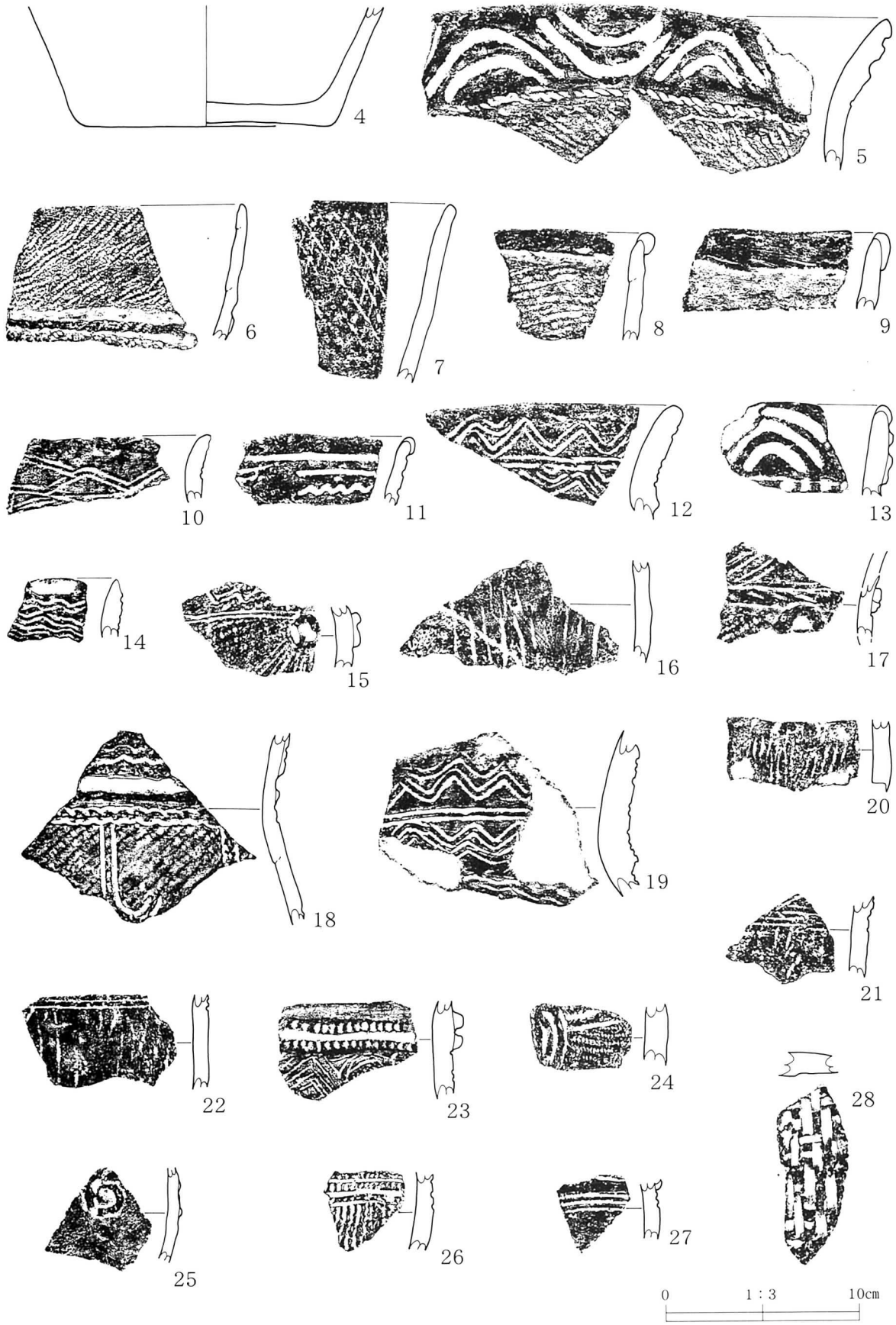
0　1：60　2m



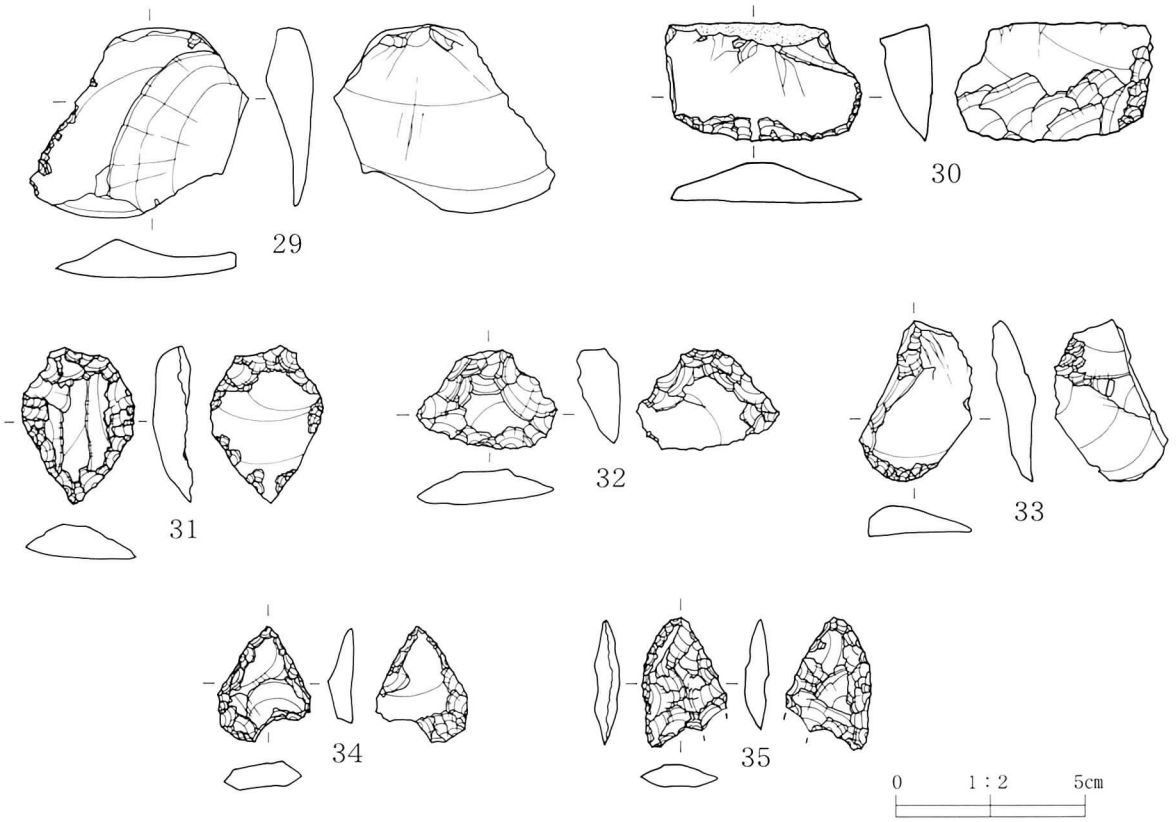
基本土層

Ⅰ　表土・道路盛土
Ⅱ　7.5YR3/3　暗褐色土層　しまりなし　粘性なし　遺物を少量含む
Ⅲ　7.5YR4/4　褐色土層　しまりあり　粘性なし　遺物を多く含む層
Ⅳ　暗褐色粘土層　地山　礫を一部含む

第17図　樺山遺跡検出遺構・出土遺物（1）



第18図　樺山遺跡出土遺物（2）



樺山遺跡掲載遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特　　徴
1	東斜面	暗褐色土	深鉢	縄文	口縁叉状突起４単位
2	〃	〃	浅鉢	〃	無文
3	〃	〃	深鉢	〃	口縁平縁　胴部ＬＲ縦位，斜位
4	〃	〃	〃	〃	胴部下無文
5	〃	〃	鉢	〃	口縁部片　沈線文　ＬＲ圧痕
6	〃	〃	〃	〃	〃
7	〃	〃	〃	〃	〃　　網目状撚り糸文
8	〃	〃	〃	〃	〃
9	〃	〃	〃	〃	〃
10	〃	〃	〃	〃	〃　　沈線文
11	〃	〃	〃	〃	〃　　沈線文
12	〃	〃	〃	〃	〃　　波状沈線文
13	〃	〃	〃	〃	〃
14	〃	〃	〃	〃	〃　　沈線文
15	〃	〃	〃	〃	胴部片
16	〃	〃	〃	〃	〃　　撚糸文
17	〃	〃	〃	〃	〃　　隆帯文
18	〃	〃	〃	〃	〃　　隆帯、沈線文
19	〃	〃	〃	〃	〃　　沈線文
20	〃	〃	〃	〃	〃
21	〃	〃	〃	〃	〃
22	〃	〃	〃	〃	〃　　撚糸文
23	〃	〃	〃	〃	〃　　隆帯文
24	〃	〃	〃	〃	〃
25	〃	〃	〃	〃	〃　　渦状隆帯文
26	〃	〃	〃	〃	〃
27	〃	〃	〃	〃	〃　　沈線文
28	〃	〃	〃	〃	底部　網代痕
29	〃	旧表土～漸移層	不定形	石器	剥片　27.5ｇ
30	〃		〃	〃	〃　22.1ｇ
31	〃	暗褐色土	〃	〃	〃　9.8ｇ
32	〃	旧表土～漸移層	〃	〃	〃　4.3ｇ
33	〃	暗褐色土	〃	〃	〃　9.1ｇ
34	〃		〃	〃	〃　4.3ｇ
35	〃		〃	〃	〃　4.3ｇ

第19図　樺山遺跡出土遺物（3）

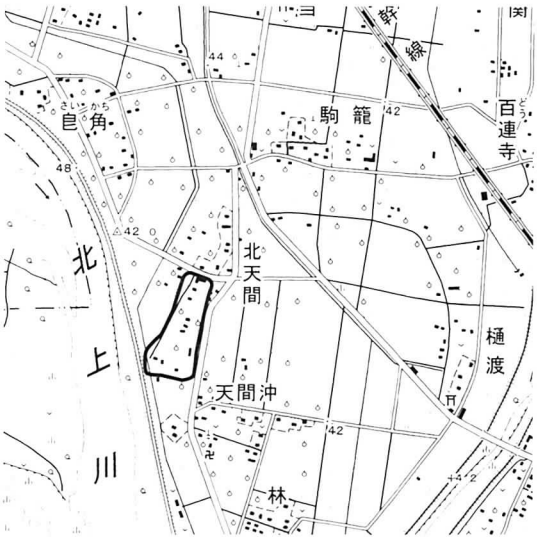
6　経営体育成基盤整備事業江刺西部地区

北天間Ⅰ遺跡（ME96－2372）

所在地：奥州市江刺区愛宕字北天間地内

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成21年１月21日㈬～22日㈭

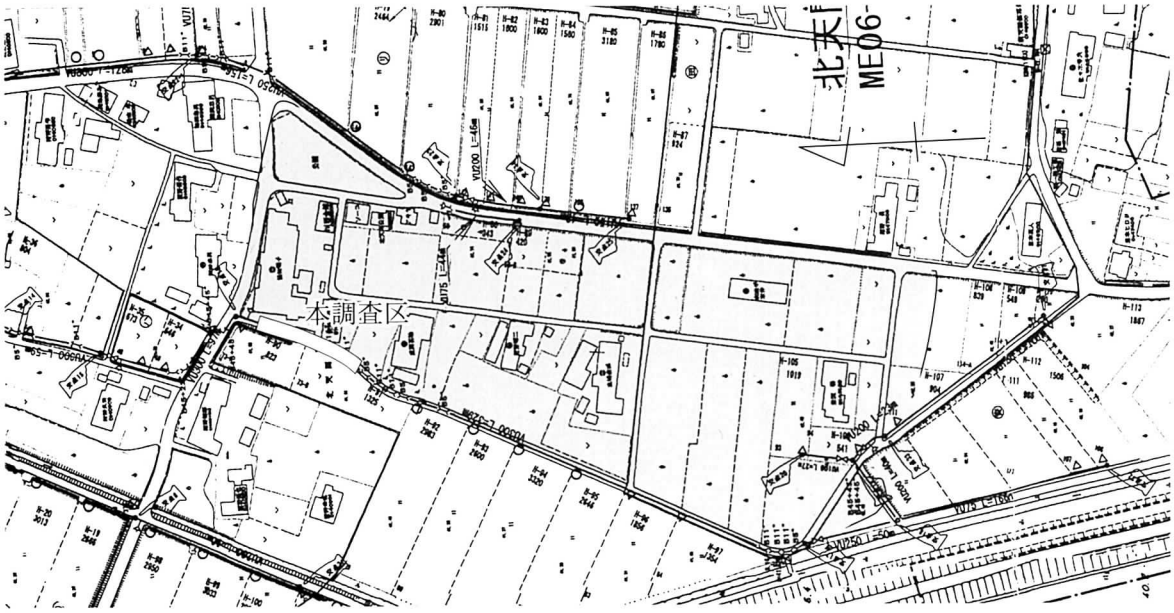


第20図　北天間Ⅰ遺跡位置図

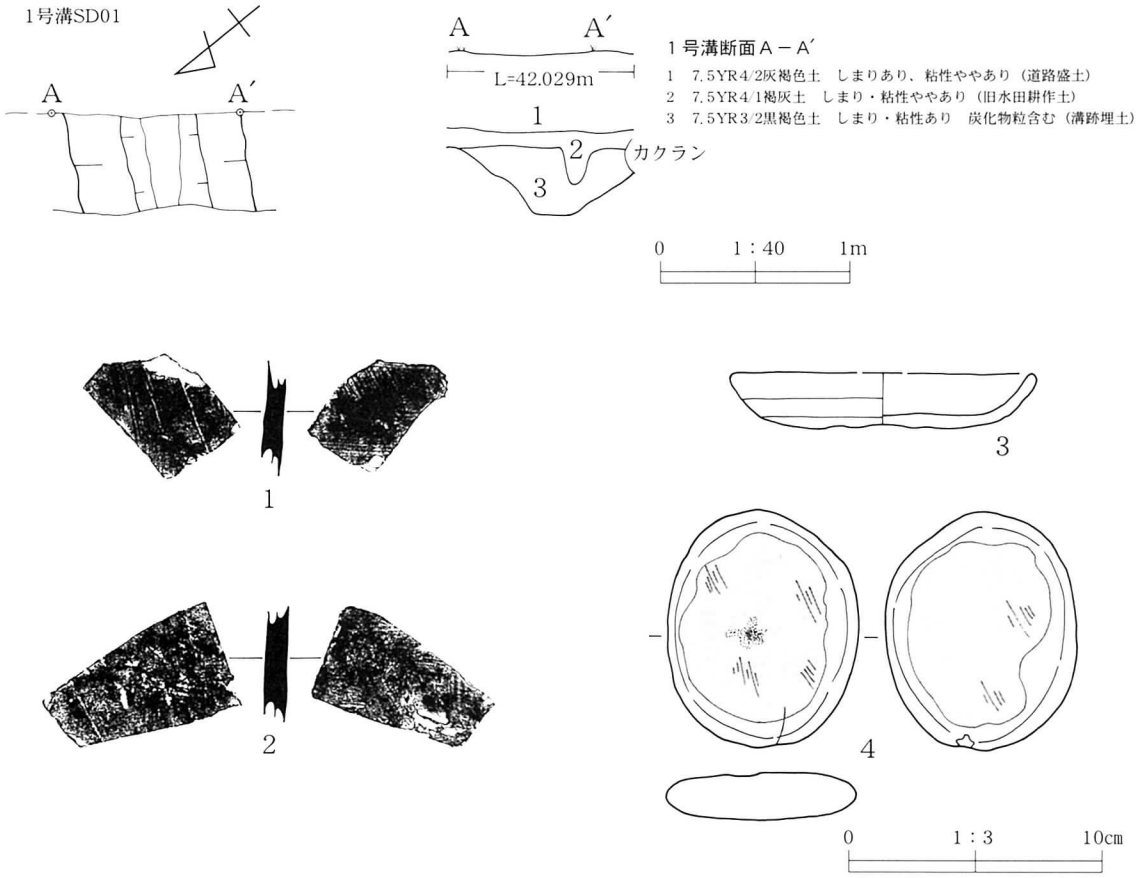
遺跡は、奥州市役所の北方向約5．5kmに位置し、北上川左岸の自然堤防上に立地している。今回の調査は、平成20年10月に実施した試掘調査において、埋蔵文化財が確認された区域の発掘調査であり、１ｍ幅で述べ50ｍにわたって実施したものである。基本層序は４層に区分される。第Ⅰ層：表土（耕作土）・層厚15～20㎝、第Ⅱ層：盛土・層厚０～20㎝、第Ⅲ層：暗褐色土・層厚０～50㎝、第Ⅳ層：地山・褐色土である。

精査の結果、古代に構築されたと推測される溝跡１条が検出された。この溝跡は、上幅60～70㎝、深さ50㎝の規模で、埋土からは土師器片が出土している。試掘調査において、土坑と推定したものについて精査したところ、人為的に堀り込んだ形跡が全体的に見られなかったことから、自然の凹んだ地形面に雨水等の自然作用により土師器等の遺物が流れ込んだものと判断した。溝跡と推定したものについては、風倒木痕であることがわかった。この風倒木痕の埋土からは遺物が十数点出土しており、調査区外に遺構が所在している可能性が高いと思われる。

今回の調査区において、遺物は９号のビニール袋で１袋分ほど出土したが、大半は、第Ⅱ層、第Ⅲ層からの出土であり、遺構に伴うものは少なかった。水田造成等による地形改変により、周囲から混入した遺物も少なくはないと思われる。竪穴住居跡等については、調査区外の微高地上に所在しているものと推測した。



第21図　北天間Ⅰ遺跡調査区位置図



北天間遺跡掲載遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特　　徴
1		旧表土・暗褐色土	須恵器	甕	ロクロ　外面ケズリ　内面ハケメ
2	風倒木		〃	〃	ロクロ　外面ケズリ　内面ナデ
3			かわらけ	皿	手づくね　二段なで　口唇部面取りなし
4	風倒木		石器	敲磨器	207.1ｇ

第22図　北天間Ⅰ遺跡検出遺構・出土遺物

7　経営体育成基盤整備事業和賀中部六原地区

北長根道合遺跡（ME75－2065）

所在地：金ヶ崎町六原地内、北上市相去町中大谷地地内

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成21年１月22日㈭～23日㈮

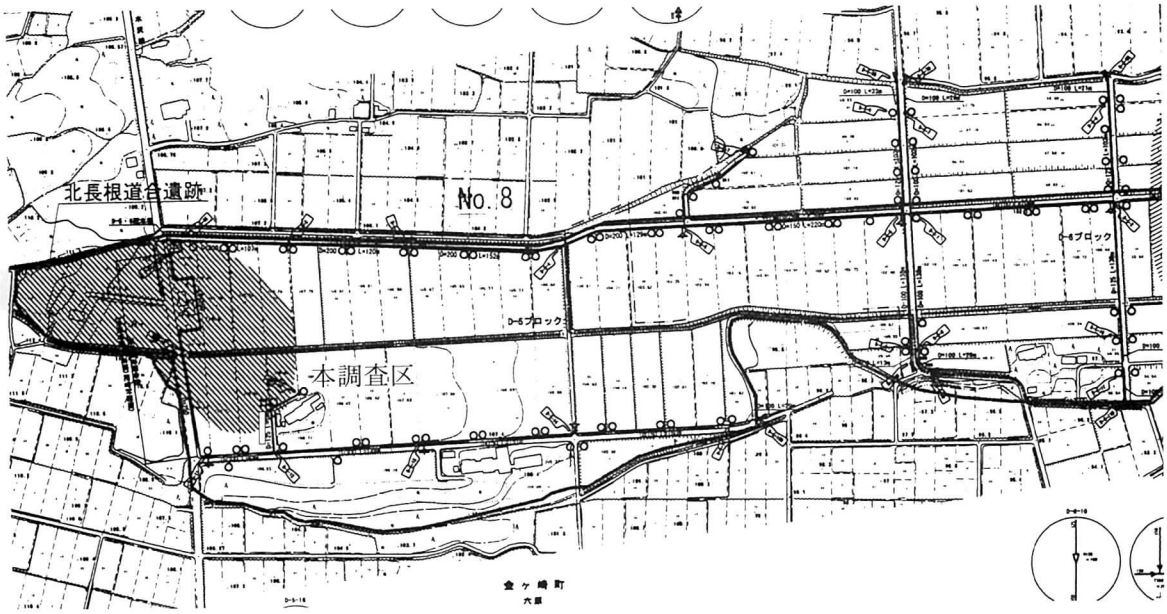
本遺跡は金ヶ崎町役場の北西方向約5．7㎞に位置し、六原扇状地内の中位段丘面上にある。現況は民家侵入路沿い水田の排水路である。本調査は平成20年12月19日付教生第1222号で回答した試掘調査結果を受けて、本発掘調査を実施したものである。

第23図　北長根道合遺跡位置図

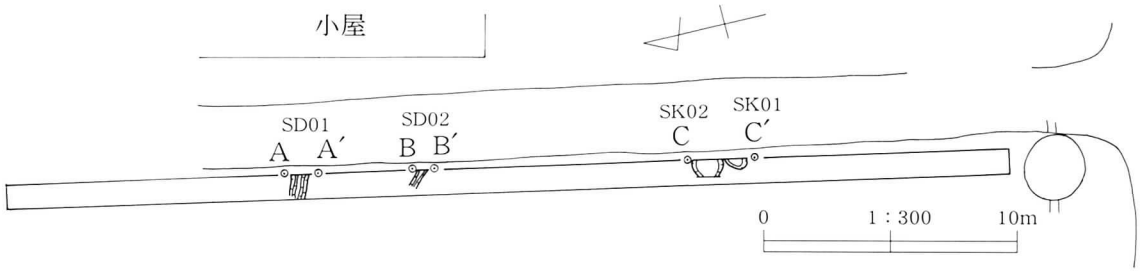
基本土層は４層に区分される。第Ⅰ層：表土（耕作土）・層厚15～20㎝、第Ⅱ層：盛土・層厚０～140㎝、第Ⅲ層：黒色土層厚０～50㎝、第Ⅳ層：漸移層・暗褐色土・層厚０～10㎝、第Ⅴ層：地山・褐色土である。過去の民家侵入路構築及び排水路工事により撹乱を受けているため、本来の土層の下部層のみ残存する。各遺構はⅣ層で検出された。

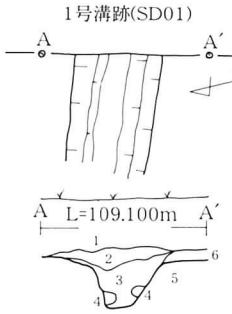
精査の結果、溝跡２条（SD01、SD02）、土坑２基（SK01、SK02）が検出された。溝跡SD01については、幅50～60㎝、深さ40～50㎝の規模で、埋土は黒色土層、暗褐色土層の順で堆積しており、遺物は主に黒色土から多く出土した。SD02については、幅30～40㎝、深さ15～20㎝の規模であり、ほぼ東西方向に延びている。埋土は黒色であった。SD01及びSD02とも、ほぼ同時期のものと思われる土師器片、須恵器片が出土した。SK01は、長楕円形のプランを示し、長軸は約80㎝程であった。埋土に焼土粒、炭化物粒を多く含み、遺物も出土している。調査区が狭小であるため、SK01全体を掘り上げることは不可能であったが、埋土の状況から、廃棄物を埋めた土坑であると推定した。SK02は、SK01に隣接して掘られており、新旧関係は、SK02はSK01よりも新しいことがわかった。SK02は、SK01に比較して規模は大きく、深さも50～60㎝程あった。埋土は、焼土粒、炭化物を多く含み、遺物量も多く出土している。堆積状況から、SK01と同様の機能を有しているものと推測されるが、今回の調査区全体が、地形改変を受けていることから、竪穴住居跡がかつて所在していたが、水田造成により竪穴住居跡のプランは消滅し、それに伴う土坑のみ残存していた可能性もある。

遺物は、粗掘及び遺構内のものを含めて古代に属する土師器坏破片や須恵器甕破片で調査区周辺一帯に集落跡があったものと推測されるが、過去のほ場整備で失われ、現況では隣接する宅地周辺に一部残存しているものと考えられる。



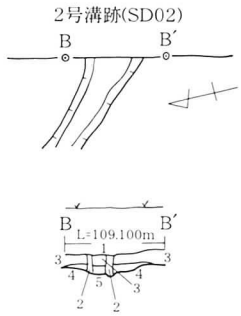
第24図　北長根道合遺跡調査区位置図





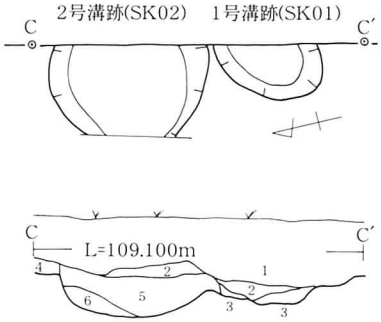
1号溝跡断面Ａ－Ａ′

1 7.5YR3/3暗褐色土
2 7.5YR2/2黒褐色土　土器片含
3 7.5YR3/2黒褐色土　6/6橙色土ブロック含　土器片含
4 7.5YR3/4暗褐色土　6/6橙色土ブロック含　土器片含
5 7.5YR3/4暗褐色土
6 7.5YR6/6橙色土　固く締まる



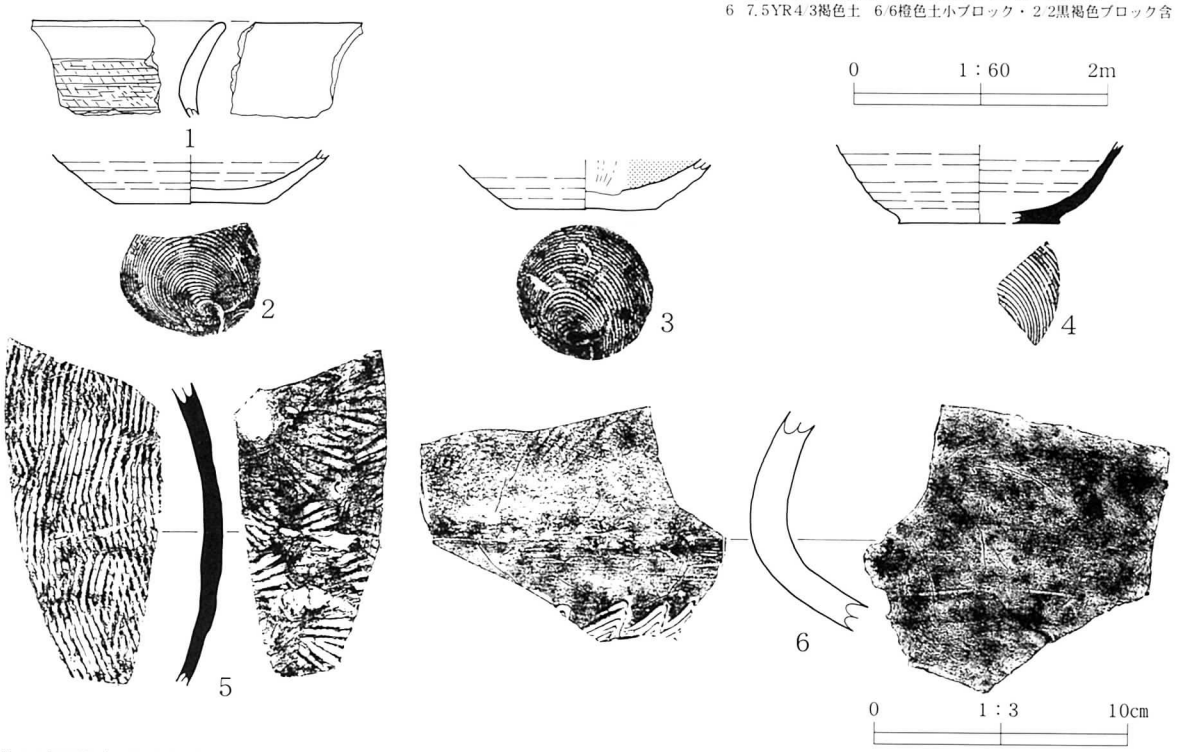
2号溝跡断面Ｂ－Ｂ′

1 7.5YR3/3暗褐色土
2 7.5YR3/3暗褐色土　6/6橙色土小ブロック含
3 7.5YR2/2黒褐色土
4 7.5YR3/2黒褐色土
5 7.5YR6/6橙色土　固く締まる



1号・2号工坑断面Ｃ－Ｃ′

1 7.5YR3/2暗褐色土
2 7.5YR3/3暗褐色土　焼土粒・炭化物片含
3 7.5YR4/4褐色土　6/6橙色土小ブロック含
4 7.5YR3/2黒褐色土
5 7.5YR3/3暗褐色土　6/6橙色土ブロック含・土器片含
6 7.5YR4/3褐色土　6/6橙色土小ブロック・2/2黒褐色ブロック含



北長根道合遺跡掲載遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特徴
1	遺構外		土師器	甕	口縁部片
2	SK02	埋土	〃	坏	ロクロ　底部回転糸切り痕
3	SD01	埋土	〃	〃	ロクロ　底部回転糸切り痕　内面黒色処理
4		黒褐色土〈粗堀〉	須恵器	〃	ロクロ　底部回転糸切り痕
5	SK02	黒褐色土〈粗堀〉	〃	甕	胴部片　外面タタキ目平行文　内面蓮ぐう文
6		黒褐色土〈粗堀〉	須恵器系陶器	〃	頸部　外面タタキ目波状文

第25図　北長根道合遺跡検出遺構・出土遺物

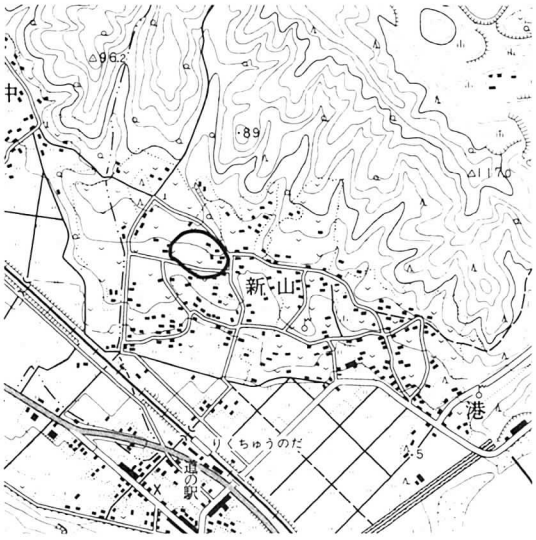
8　中山間地域総合整備事業野田地区

中新山遺跡（JG51－1032）

所在地：九戸郡野田村大字野田字中新山地内

事業者：久慈地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成20年６月23日～27日

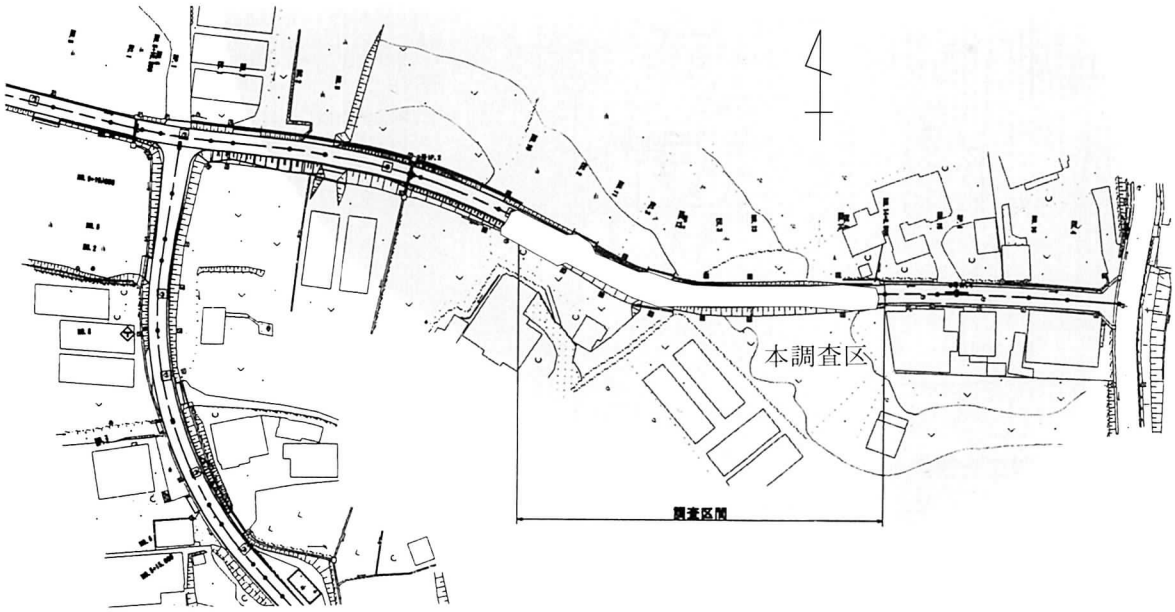


第26図　中新山遺跡位置図

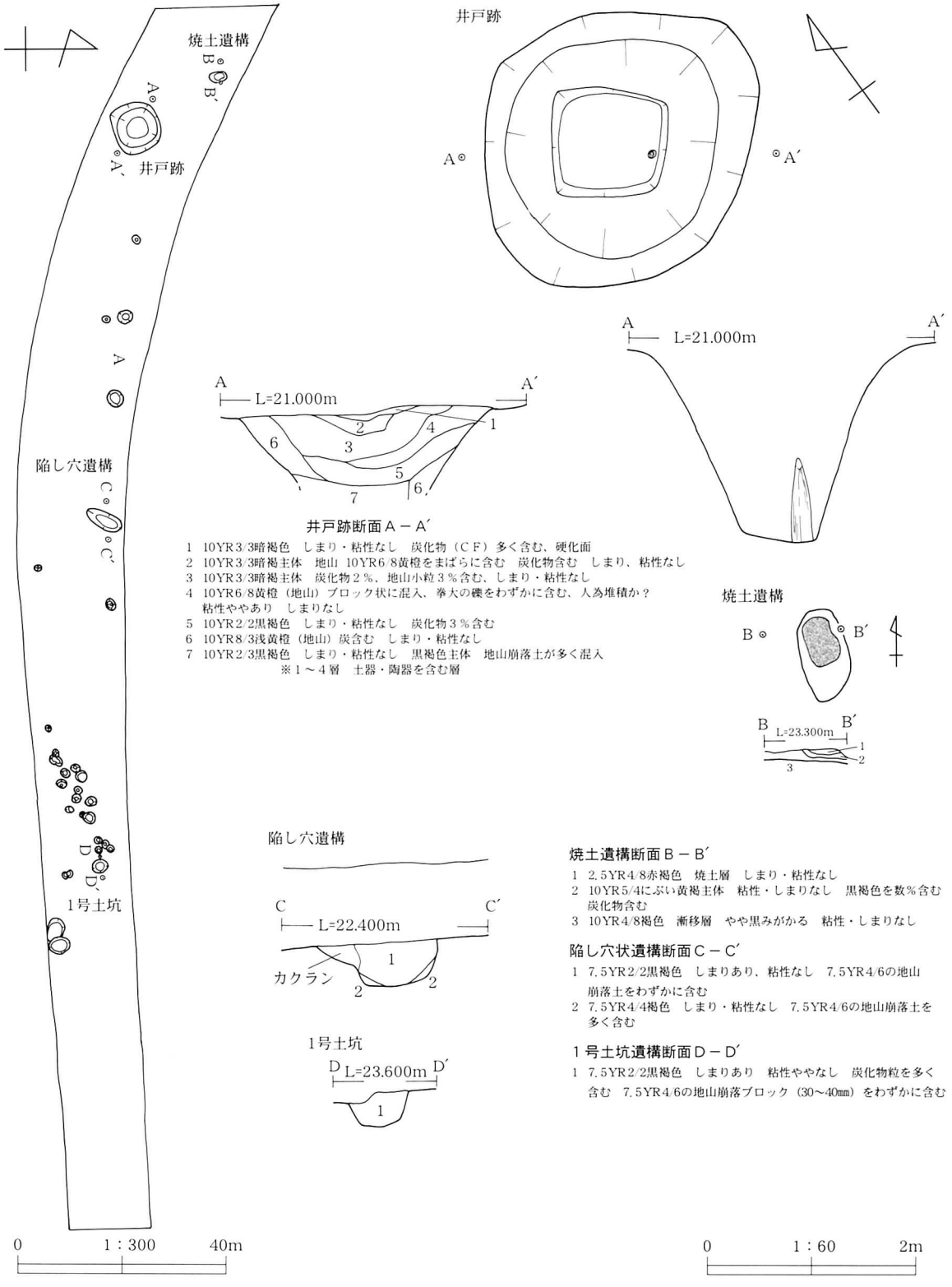
調査区は、野田村役場の北方向約1.3㎞に位置し、南向きに緩やかな傾斜地に立地している。今回の調査は道路改築事業に伴うもので、平成19年度実施の試掘調査によって埋蔵文化財が確認された区域が対象である。

精査の結果、柱穴状土坑23基、土坑２基、陥し穴状遺構１基及び井戸跡１基が検出された。柱穴状土坑については、列をなすものも認められることから、建物跡の一部を構成するものと思われる。建物跡については、調査範囲が比較的狭小であることから、確認できなかった。陥し穴状遺構については、縄文時代のものと思われるが、村道築造等による地形改変により、遺構の底部のみ残存している状態であった。これら遺構に伴う遺物は出土していないため、構築時期は不明である。

井戸跡については、井戸枠を支える支柱と推測される木柱の先端部が井戸底面に直立にささった状態で残存していた。引き上げたところ、金属器によるものと思われる工具痕が先端部で認められたことから、井戸跡は、近世以降に構築されたものと思われる。遺物は井戸の最上部の埋土から近世陶器片が出土したのみである。



第27図　中新山遺跡調査区位置図



中新山遺跡掲載遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特　　徴
1	井戸	埋土上部	甕	近世陶器	常滑　　写真掲載
2	〃	〃	杭	木製品	井戸枠支柱？　写真掲載

第28図　中新山遺跡検出遺構

9　松園養護学校校舎整備事業

松屋敷遺跡（ＫＥ86－2378）

所在地：盛岡市上田字松屋敷11－25ほか

事業者：岩手県教育委員会事務局教育企画室

調査期日：平成20年４月８日㈫、４月14日㈪～18日㈮

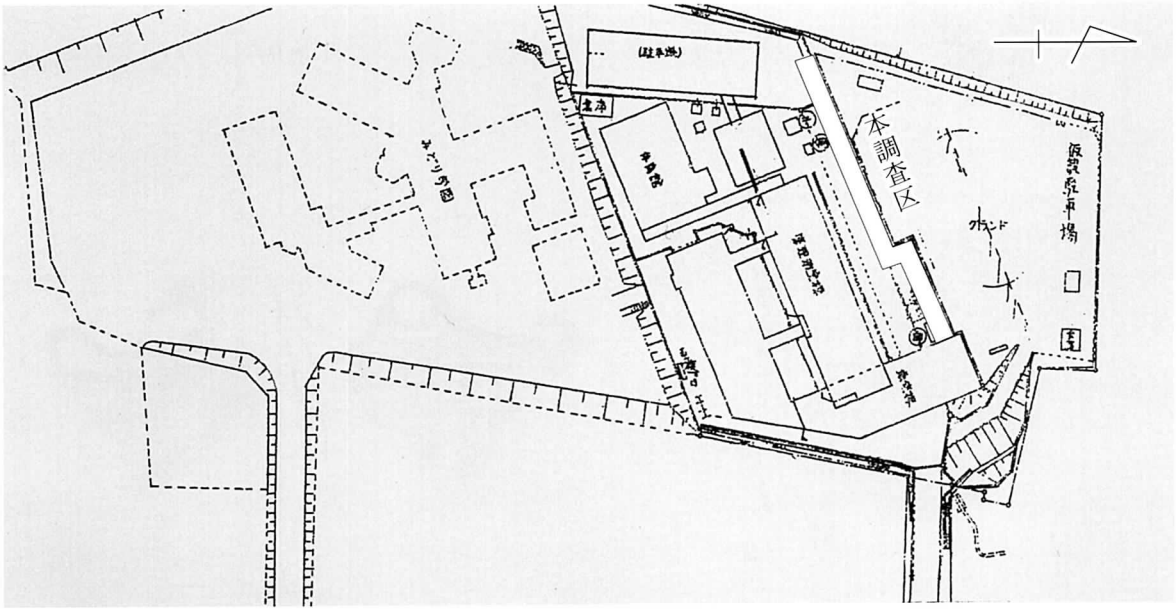
第29図　松屋敷遺跡位置図

本遺跡は、市内中心街の盛岡市役所から北へ約6.5㎞に位置し、北上山地西縁にあたる標高185ｍ前後四十四田丘陵上に立地している。現況は校庭として使用されている。

今回の調査は、当校舎整備事業にあたり平成19年度に（財）岩手県文化振興事業団が発掘調査を受託し実施したが、バックネットの支柱及び校庭境界部分フェンス部分については、安全対策上発掘調査が困難であることから、当該部分については当課が工事立会で調査を実施したものである。

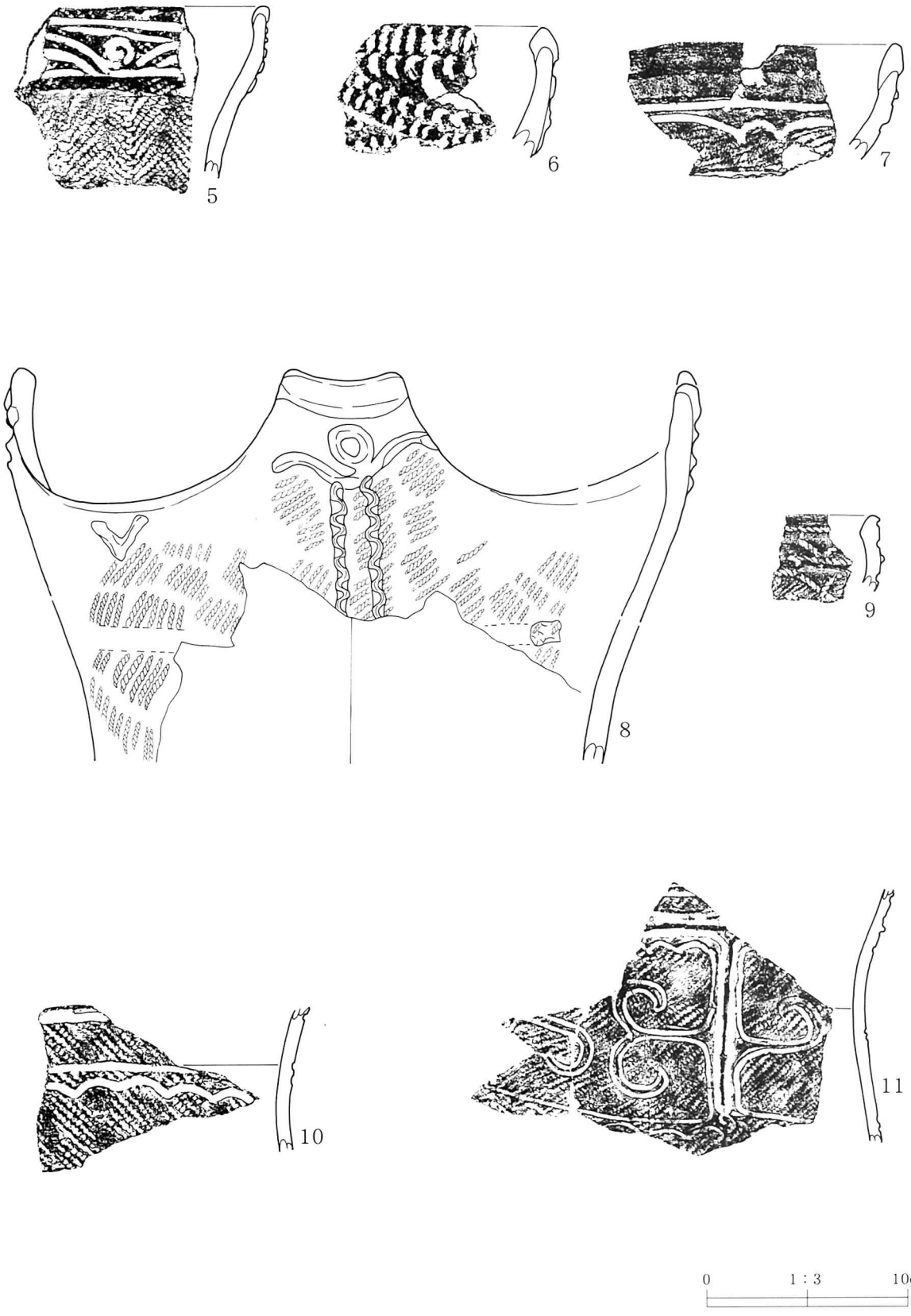
調査対象となった部分は遺跡の東側に向かって傾斜する部分を対象として実施した。埋蔵文化財センターの調査で検出されていた竪穴住居跡が分布する東側部分に相当する。当該部分はグランド造成時に２～３ｍ盛土されている部分であり。その下位から縄文時代の包含層が検出されている。遺構は検出されなかった。

土層は基本的に第Ⅰ層：盛土・層厚２ｍ前後、第Ⅱ層：褐色土層・層厚20㎝、第Ⅲ層：黄褐色土～暗褐色土層・層厚50㎝前後、第Ⅳ層：黄褐色土層で構成されており、土器は主に第Ⅲ層を中心に出土している。これらの土器は、住居などが位置する斜面上方から廃棄されたものと思われる。１・２は四波状の深鉢で口縁部に波状の隆帯が貼り付けられその両脇には原体圧痕が施文されている。同じく８も四波状を呈する深鉢で突起の頂部から波状の隆帯の懸垂紋が貼付されている。出土する土器に共通して見られる、隆帯の貼付、縄文原体の圧痕、キャリパー型の口縁部、胴部中央部への横方向に展開する区画文など、縄文時代中葉の土器群の特徴を示す一群が出土している。従前、財団法人岩手県文化振興事業が行った調査で同時期の住居跡が検出されており、同時期の土器である。



第30図　松屋敷遺跡調査区位置図

第31図　松屋敷遺跡出土遺物（1）



第32図　松屋敷遺跡出土遺物（2）

松屋敷遺跡掲載遺物観察表

番号	出土地点	層位	種別	器種	特　　徴
1		第Ⅲ層	縄文	深鉢	口縁叉状突起4単位　ＬＲ圧痕　ＬＲ縦位
2		〃	〃	〃	〃　　No.1と同一個体
3		〃	〃	鉢	口縁部ＬＲ圧痕　胴部ＬＲ縦位　隆帯文
4		〃	〃	〃	口縁破片　沈線文
5		〃	〃	〃	口縁破片　隆帯文
6		〃	〃	〃	口縁破片　ＬＲ圧痕
7		〃	〃	〃	口縁破片　波状沈線文
8		〃	〃	深鉢	口縁叉状突起4単位　ＬＲ横位
9		〃	〃	鉢	口縁破片　ＬＲ圧痕
10		〃	〃	〃	胴部破片　波状沈線文
11		〃	〃	〃	胴部破片　渦状沈線文

10　県南青少年の家キャンプ場第２炊事場流し配水管改修工事

柏山館遺跡（ＮＥ05－1263）

所在地：胆沢郡金ヶ崎町永沢下館地内

事業者：岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課

調査期日：平成20年10月16日～17日

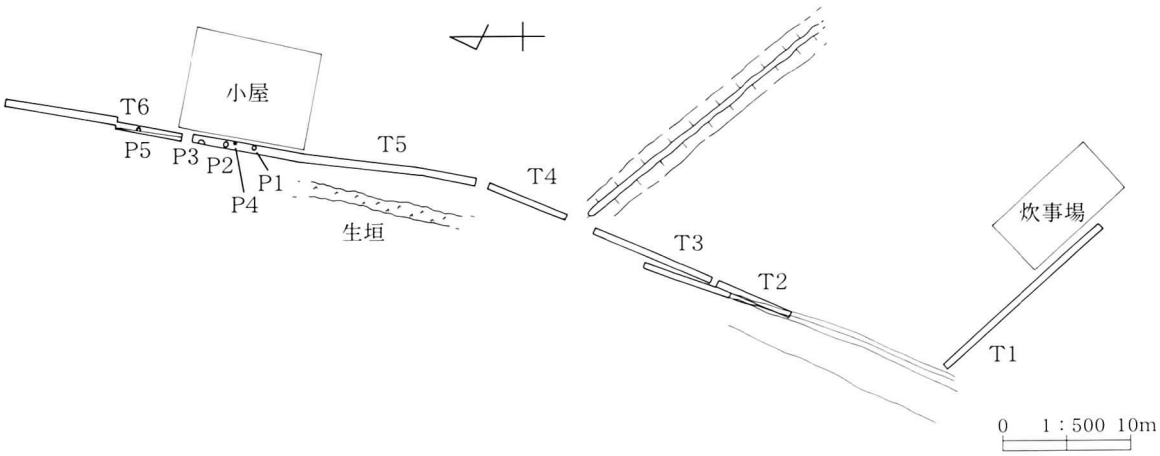
調査区域はＪＲ東日本金ヶ崎駅の南西方向約3.6㎞に位置し、胆沢川左岸の標高は約80ｍの中位段丘上に立地している。本調査は、平成20年５月に実施した試掘調査を受けて、記録保存の発掘調査を行ったものである。

第33図　柏山館遺跡位置図

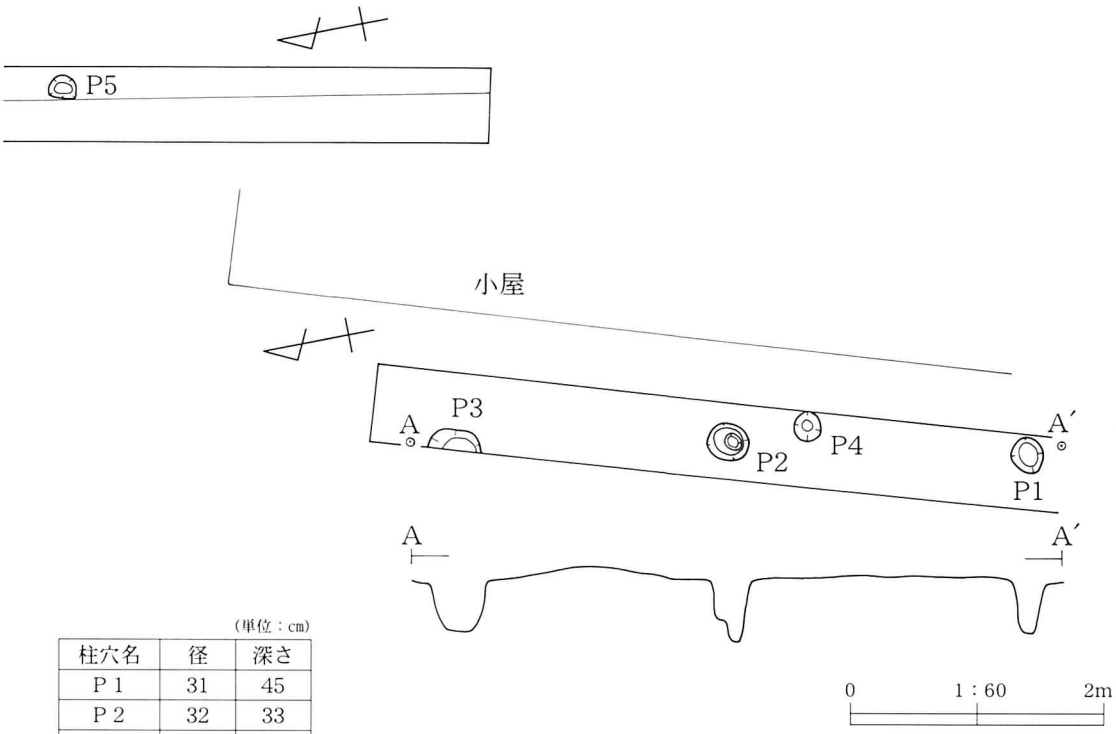
基本土層は３層に区分される。グランド・炊事場の建設時に旧地形が改変されているため、地山（Ⅲ層）上には本来の土層が堆積していない。Ⅰ層は現表土、Ⅱ層は造成による盛土、Ⅲ層は明黄褐色の地山である。

調査は、試掘調査時のＴ５及びＴ６で検出された柱穴状遺構５基を中心に精査行った。Ｔ５とＴ６間の前回調査未掘部分は過去の工事で撹乱を受け、遺構がないことが確認された。Ｐ１～Ｐ３埋土は黒褐色土と明黄褐色土の混合土で硬く締まっている。Ｐ１とＰ３埋土からは土師器細片が出土した。規模は径31～40㎝、深さは33～45㎝である。Ｐ２では径約15㎝の柱痕跡が確認された。Ｐ１－Ｐ２、Ｐ２－Ｐ３の柱間は約2.3ｍでほぼ南北方向にならぶ。Ｐ４は黒褐色の埋土である。これら４基の平面形は円形～楕円形である。Ｔ６で検出されたＰ５は蒲鉾状の平面形で、規模は21×20㎝、深さは約23㎝である。埋土はＰ１～Ｐ３と同様である。Ｐ２、Ｐ４、Ｐ５からは遺物は出土していない。これら検出された柱穴で、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３は埋土が類似していること、柱間が同じ数値を示すこと、ほぼ一直線上に並ぶことなどから、同一の掘建建物跡を構成する柱穴と考えられる。Ｐ１の南側及びＰ３の北側で延長を追跡したが確認できなかった。このことから、これらの柱穴が構成する建物は、東西に長い建物であることが想定される。

平成４年から７年にかけて行われた県埋蔵文化財センターの調査結果を踏まえると、これらの遺構は古代から中世にかけての遺構の一部とみられる。



第34図　柏山館遺跡調査区位置図



（単位：cm）

柱穴名	径	深さ
P 1	31	45
P 2	32	33
P 3	40	41
P 4	25	29
P 5	21	23

P 1
7.5YR3/2黒褐色
土と6/6明黄褐色
土の混合土

P 2
7.5YR2/2黒褐色
土・5/6明褐色土・
灰褐色土の混合土

P 3
7.5YR3/2黒褐色
土と6/6明黄褐色
土の混合土

P 3
7.5YR3/1黒褐色
土

第35図　柏山館遺跡検出遺構

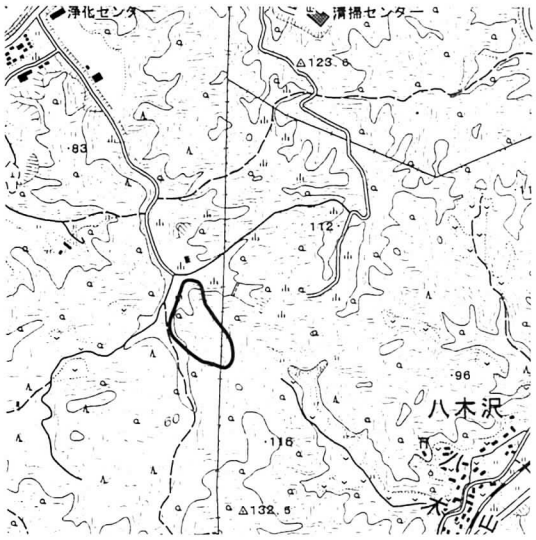
11　66kv送電線「宮釜線補償金工事」事業

隠里Ⅲ遺跡（LG33－2292）

所在地：宮古市八木沢第３地割中村地内

事業者：東北電力株式会社岩手支店

調査期日：平成20年４月21日～25日

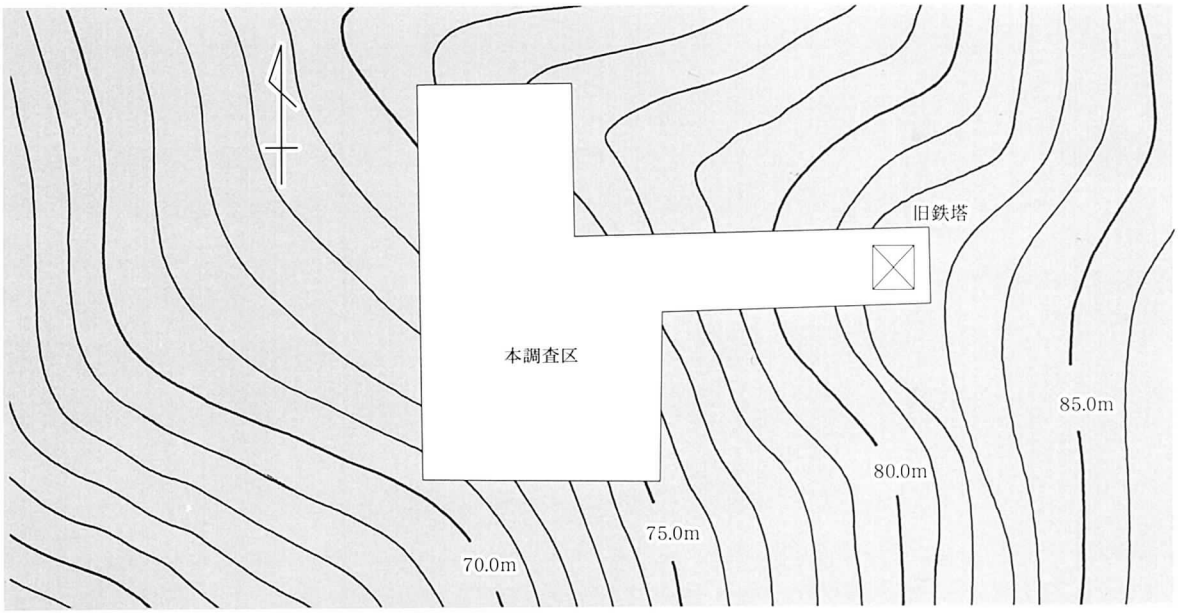


第36図　隠里Ⅲ遺跡位置図

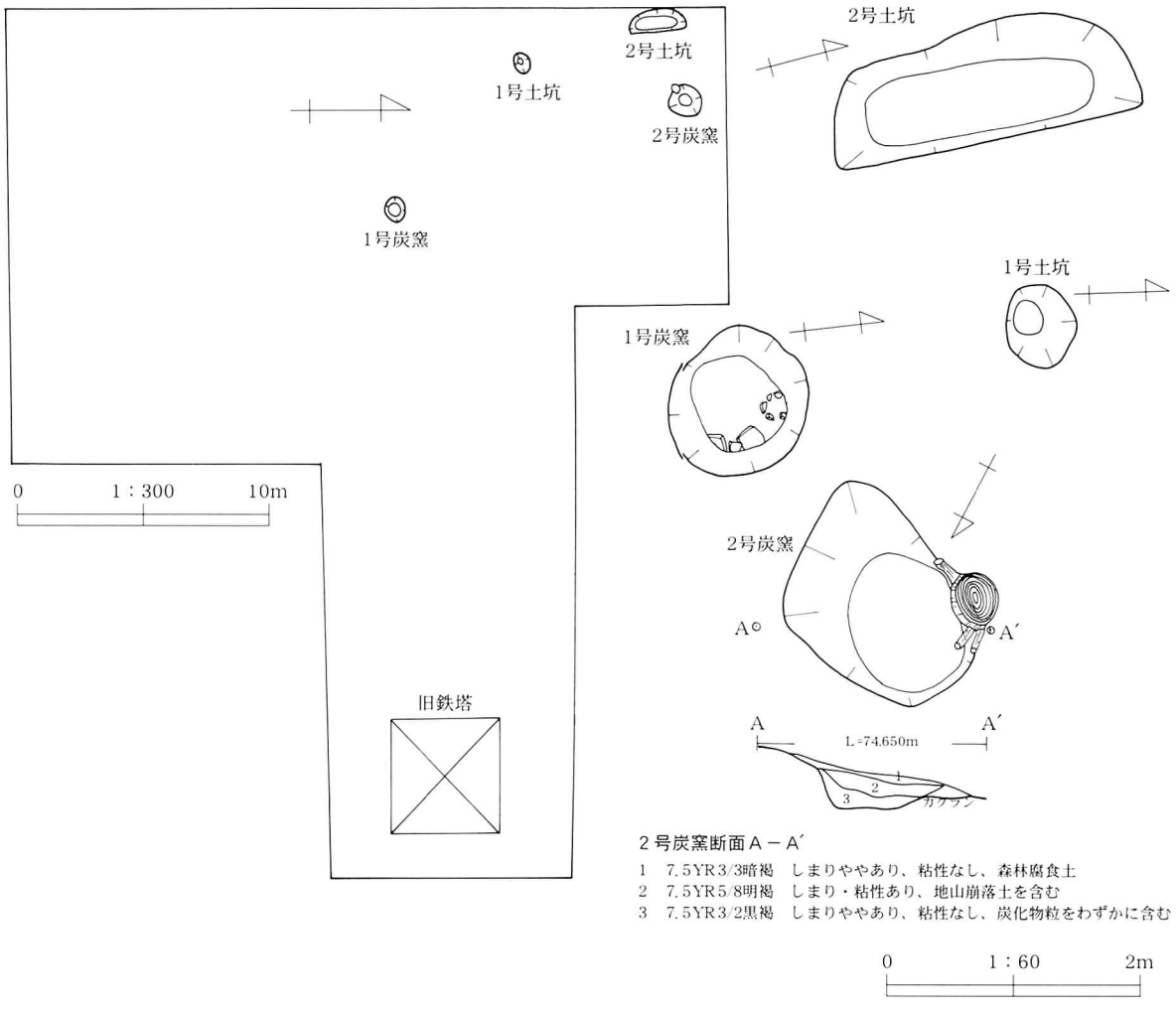
遺跡は、宮古市役所の南西方向約3. 4kmに位置し、山から伸びる尾根の先端部周辺に立地しており、調査区は南向きの傾斜地である。調査区の標高は71～83m前後を測り、現況は山林となっている。今回の調査は、三陸縦貫自動車道宮古道路建設事業に伴う高圧線鉄塔移設に伴うもので、平成19年度に実施された試掘調査において、遺構及び遺物が確認されている。

精査の結果、時期不明の土坑２基、近代遺構の炭窯２基が検出された。１号土坑は、約70cm×50cmの幅のある楕円形を示し、深さは20cmであったが、遺物は出土していない。２号土坑は、250cm×70cmの長楕円形を示し、深さは40cm程であったが、遺物は出土していない。１号炭窯は、径１m前後の円形を示し、傾斜のきつい斜面に構築されているものの、底面はほぼ水平に築かれており、地山面にある礫は、燃焼時に火を受けていることが伺えた。埋土には大量の炭化物、炭及び焼土が含まれていた。２号炭窯は、一辺が150cm程の方形を示し、一部は木根によるカクランを受けていた。底面にも木根によるカクランが多く見られたが、底面は円形に掘り込まれていた。埋土の第３層にはわずかに炭化物が含まれていたが、焼土粒等は確認できなかった。

遺物は、遺構の検出された区域より、約１m～1.5m程標高の高い箇所で、木根周辺の第Ⅰ層あるいは第Ⅱ層から出土し、その出土量は９号のビニール袋約半分ほどであった。出土した土器は、平安時代の土師器甕と推測される胴部片、口縁部片であった。摩滅が見られるものも多く、その出土状況から流れ込んだものと推測される。以上のことから、今回の調査区は遺跡の縁辺部にあたるものと推測した。



第37図　隠里Ⅲ遺跡調査区位置図



第38図　隠里Ⅲ遺跡検出遺構

Ⅱ　試掘調査

1　一般国道４号バイパス改築工事

芋田沢田Ⅳ遺跡（ＫＥ47－2243）

所在地：盛岡市玉山区芋田字沢田４－10他

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

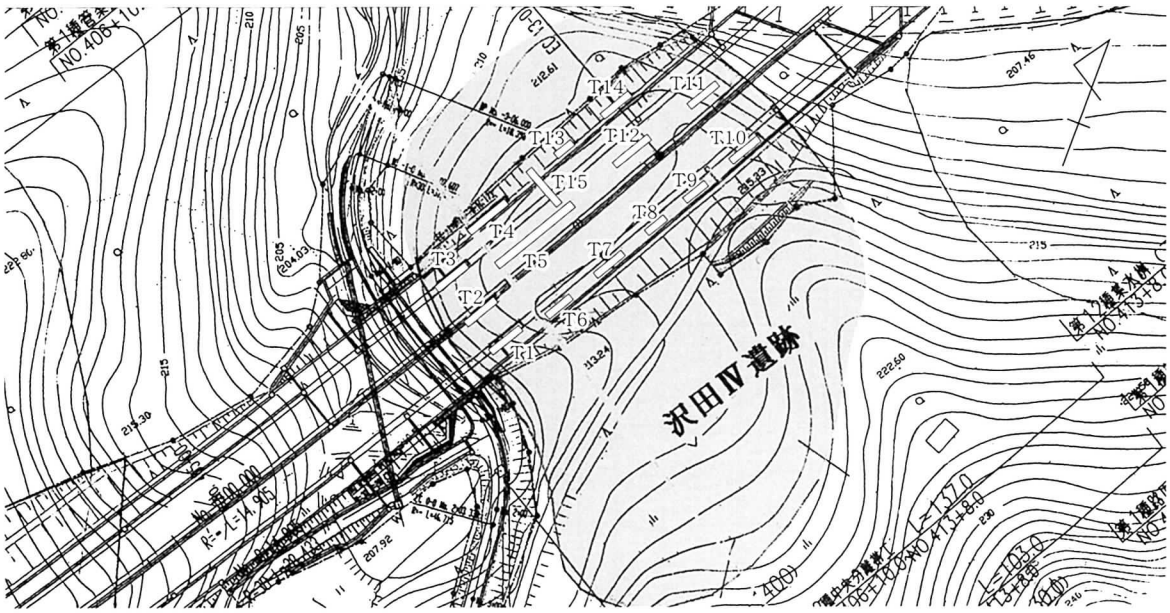
調査期日：平成20年10月27日

第39図　芋田沢田Ⅳ遺跡位置図

本遺跡はＩＧＲいわて銀河鉄道好摩駅の東方向約１㎞に位置する。調査区域は北上川左岸の低平な標高は約210ｍの丘陵上に立地する。南側は小谷に、西と北側は低位面（沖積面）に接している。試掘調査は芋田沢田Ⅳ遺跡内の道路事業予定地内で行った。基本土層は、第Ⅰ層黒褐色土層（表土）、第Ⅱ層黒褐色土と黄褐色土の混合土層、第Ⅲ層黒色土、第Ⅳ層漸移層、第Ⅴ層黄褐色土層（地山）の５そうに区分される。第Ⅲ層の黒色土はおよそ調査区西側半分に分布し、縄文時代の遺物を包含している。Ⅱ層黒褐色土と黄褐色土の混合層は全域に広がっている。調査区全域は牧草地等で利用されていたこともあり、Ⅰ層黒褐色土は幾分撹乱を受け、斜面堆積を除けば北側に向い厚くなる傾向がある。Ⅲ層に由来する遺物を含むことがある。

トレンチは調査区内に15本設定した。Ｔ４は西端の南寄部に設定した。Ⅲ層が40㎝と厚く堆積し、竪穴状住居跡１棟と性格不明遺構１基を検出した。住居跡は検出時の規模が径が約６ｍで円形と思われる。中央部に地床炉が設置される。縄文土器片が出土している。性格不明遺構は幅1.2ｍで東西方向にのびる溝状で、中央に焼土を伴っている。Ｔ５中央付近のⅡ層上面で径約１ｍの焼土遺構を検出した。遺物は出土せず、詳細な時期については不明である。この焼土遺構南側ではⅣ層上面で径約30㎝の柱穴状遺構４基、北側のⅣ層上面で径50㎝の土坑を検出した。西端の北寄部に設定したＴ14では、Ⅳ層上面で径４～５ｍの住居跡と推定される円形状のプランを検出した。東側山体寄に設定したＴ６～Ｔ10では、遺構遺物とも検出されなかった。

遺構・遺物の検出状況、土層の形成状況からⅢ層が分布する調査区西側半分に遺跡が広がると推測される。また、Ｔ５で検出された焼土遺構がⅡ層で検出されていることから、異なる時期の遺構が確認される可能性がある。（平成21年度以降本発掘調査予定）



第40図　芋田沢田Ⅳ遺跡調査区位置図

2　一般国道４号改築事業

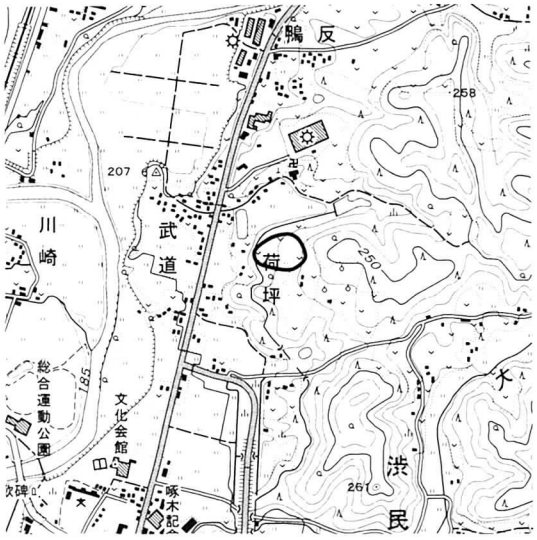
武道Ｖ遺跡（ＫＥ57－1125）及び可能性有

所在地：盛岡市玉山区芋田字武道地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成20年10月27日、11月20日

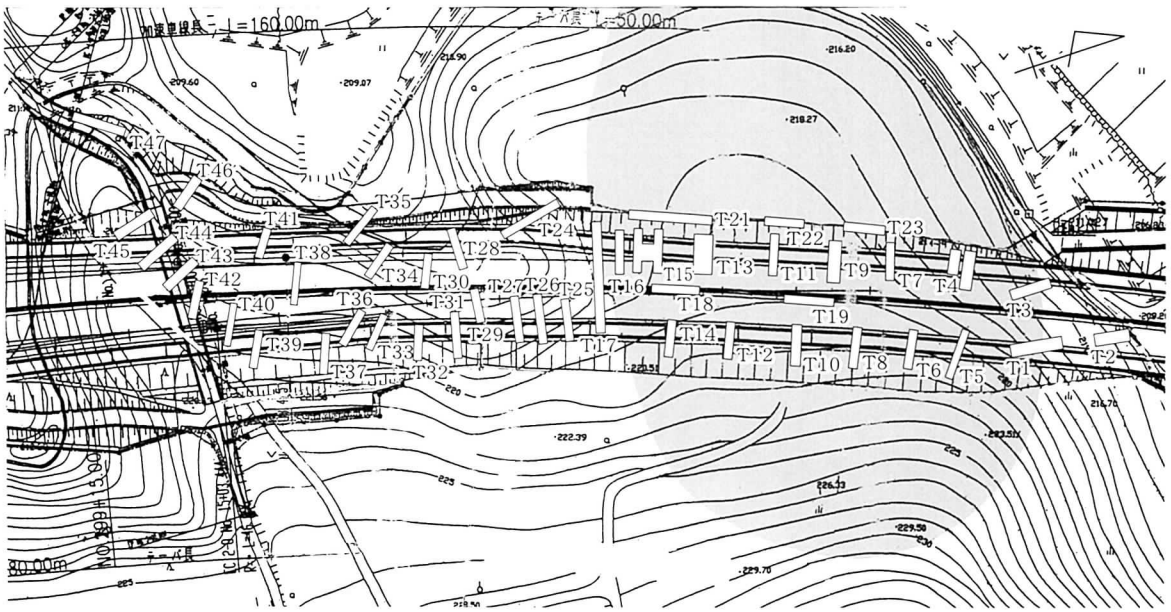
本遺跡は、盛岡市玉山区の中心部から北東約１㎞に位置している。北上川左岸の標高約215ｍ前後の河岸段丘縁辺部に立地する。現況は山林及び畑地である。今回の調査は、渋民バイパス建設に伴い武道Ｖ遺跡及び隣接地の事業用地内で試掘調査を実施したものである。



第41図　武道Ｖ遺跡位置図

調査区の北側から南側に向かいＴ１～Ｔ47のトレンチを設定した。Ｔ１からＴ23までの地区はほぼ平坦面となっており本遺跡の主体部である。当該地区のＴ７・13・15・20・21・23から縄文時代の溝状の陥し穴及び時期不明の小規模な土坑が検出された。また、Ｔ24～47の調査区の南側はすり鉢状の凹地となっているところであり、地山まで数ｍの深さを測る部分もある。斜面上方からの遺物の廃棄等も想定されることから、斜面及び谷の最深部分までトレンチを設定したが遺構・遺物とも確認されなかった。南西側に面するＴ26から陥し穴が検出されている。

今回の調査により、当遺跡から縄文時代の陥し穴が検出された。遺物がまったく発見されていないことからも、当該地域は縄文時代の狩場の跡と考えられる。今回の調査区で、陥し穴や小土坑が分布する範囲は、西側に張り出した緩斜面及び南西に面する斜面部である。事業予定地外の西側にさらに遺構が分布することが考えられる。（平成21年度以降本発掘調査予定）



第42図　武道Ｖ遺跡調査区位置図

3　一般国道４号北上拡幅改築工事

滝ノ沢遺跡（ME75－0373）

所在地：北上市鬼柳町下鬼柳

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

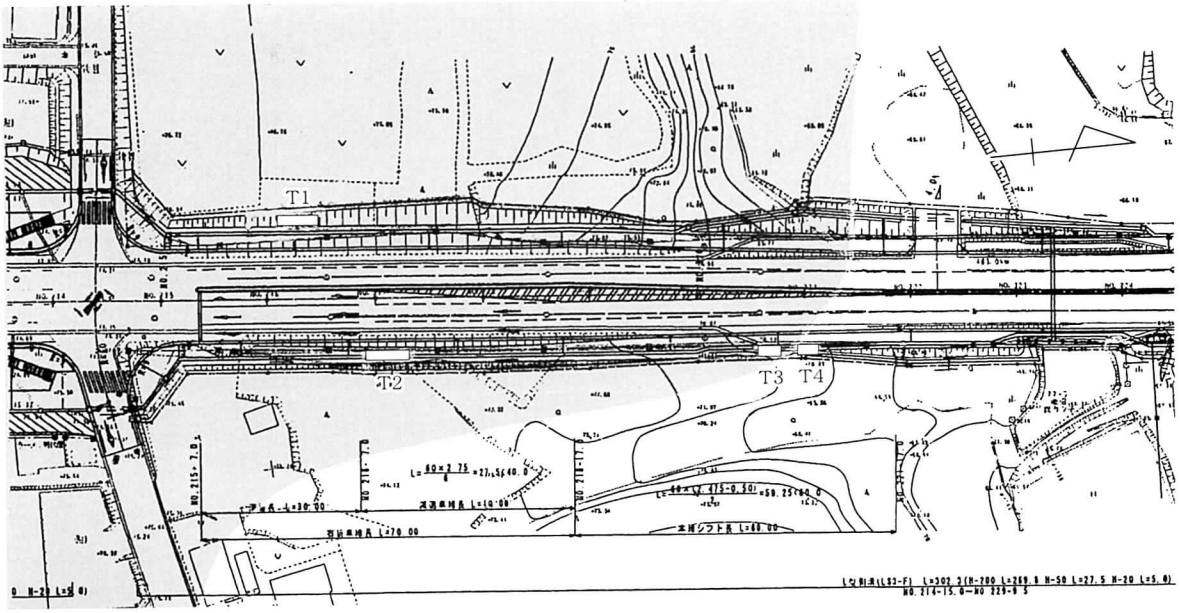
調査期日：平成20年７月24日㈭、25日㈮

第43図　滝ノ沢遺跡位置図

滝ノ沢遺跡は、北上市役所の南南西約2.5㎞に位置し、和賀川右岸の段丘上に立地している。過去に北上市教育委員会や岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査を行っており、縄文時代中期を中心とした集落跡として知られている。今回の調査は国道４号の拡幅事業に伴うもので、今回の調査範囲の南側は同事業に伴って岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが調査を行っている。現況は緩やかな傾斜地となっており、周囲の畑地からは現在でも多くの土器が表採されている。

調査範囲に４本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ４）。Ｔ１では、第Ⅱ層に縄文土器を多く含み、一部掘り下げた第Ⅲ層上面で40×50㎝程度の土坑を確認した。土坑の埋土には縄文土器が多く含まれていた。このトレンチを設定した国道４号の西側部分では、遺跡範囲の北端にあたる沢にいたる傾斜地でも縄文土器が表採されており、沢に下るまでの台地部分には縄文時代を中心とした遺構及び遺物が広範囲に分布するものと考えられる。Ｔ２～Ｔ４は国道４号東側部分に設定した。これらのトレンチでも第Ⅱ層に縄文土器を多量に包含していた。また周囲から、石斧なども表採している。隣接する丸子館跡の調査結果とあわせて北端部分は西側と同様に沢へと下っており、この部分までの台地部分に遺跡が分布するものとみられる。

これらの結果から、今回の調査範囲では縄文時代の遺構及び遺物が確認された。トレンチ内でも多量の土器が確認されており、トレンチ周囲からも遺物が確認されていることから、今回の調査範囲に滝ノ沢遺跡で確認されている縄文時代の集落跡が広がるものと考えられる。また、北端部分は沢へと下る傾斜地となっており、この沢に下る部分まで遺物等を包含するものと考えられる。（平成21年度以降本発掘調査予定）



第44図　滝ノ沢遺跡調査区位置図

4　一般国道４号北上拡幅改築工事

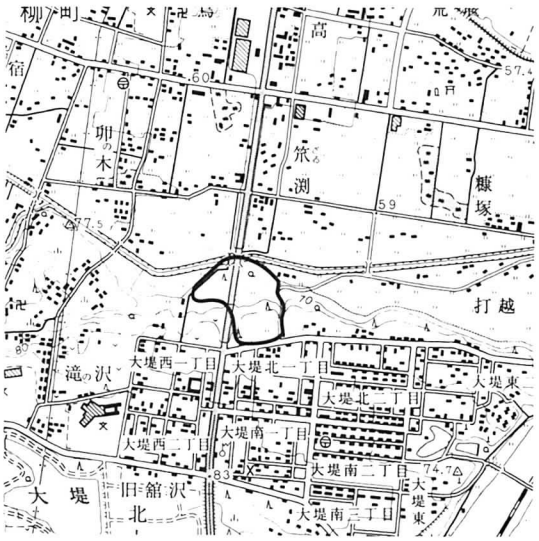
丸子館遺跡（ME75－0363）

所在地：北上市鬼柳町下鬼柳15地割

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成20年６月24日(火)、25(水)

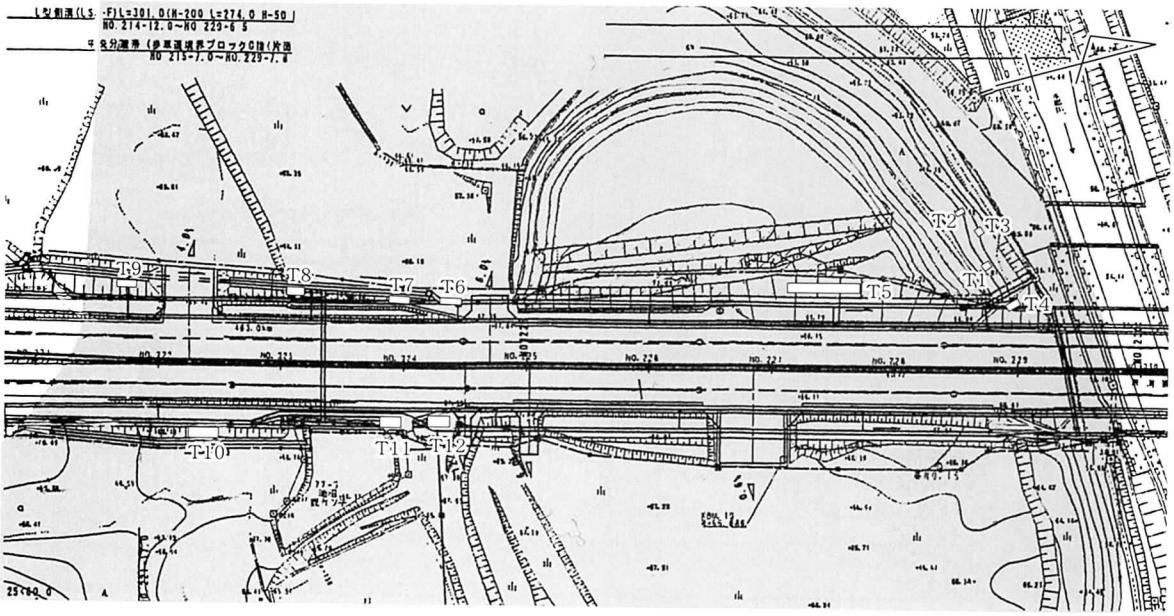
丸子館遺跡は、北上市役所の南南西約2.5kmに位置し、和賀川右岸の段丘上に立地している。北側が本郷川の笊渕へ下る崖面となっている。丸子館後は鬼柳氏の城館跡として知られており、過去に岩手大学や北上市教育委員会によって発掘調査が行われている。これらの調査では、14～15世紀代の城館跡や、縄文時代～弥生時代初頭にかけての土器などの遺物や遺構が確認されている。今回の調査は一般国道４号の拡幅に伴うもので、過去の調査区に隣接する範囲である。



第45図　丸子館遺跡位置図

調査区に９本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ９）。Ｔ５は、北上市教育委員会等で発掘調査を行っている箇所に隣接するⅠの郭の残存部分に設定した。表土と礫の混じる褐色土層下に遺構検出面となる暗褐色土層が確認された。この面で15cm×15cm程度の柱穴状の土坑を５個検出した。この土坑の埋土から土器片が出土している。これらのことから、Ⅰの郭の残存部分には遺構があり、掘立柱建物などを構成する柱穴や遺物等が残されていると考えられる。Ｔ５を設定した箇所の南側平坦面にＴ６～Ｔ９を設定した。これらのトレンチでは、表土下に200cm程度の厚い盛土が確認され、下層には黒褐色土層及び砂礫層が確認された。これらのことから、平坦面は湿地帯の部分を盛土等で改変して形成した平坦面と考えられる。Ｔ１及びＴ２は帯郭状の箇所に設定した。これらの箇所では、過去の地形測量図から館を構成する部分と考えられるが、表土下に上部の館部分からの崩落層が確認され、地山層とみられる土層が確認された。遺構等は確認されなかった。

これらの結果から、今回の調査区の一部から丸子館の一部を構成するとみられる柱穴等が確認された。



第46図　丸子館遺跡調査区位置図

丸子館遺跡（ME75－0363）

所在地：北上市鬼柳町下鬼柳15地割

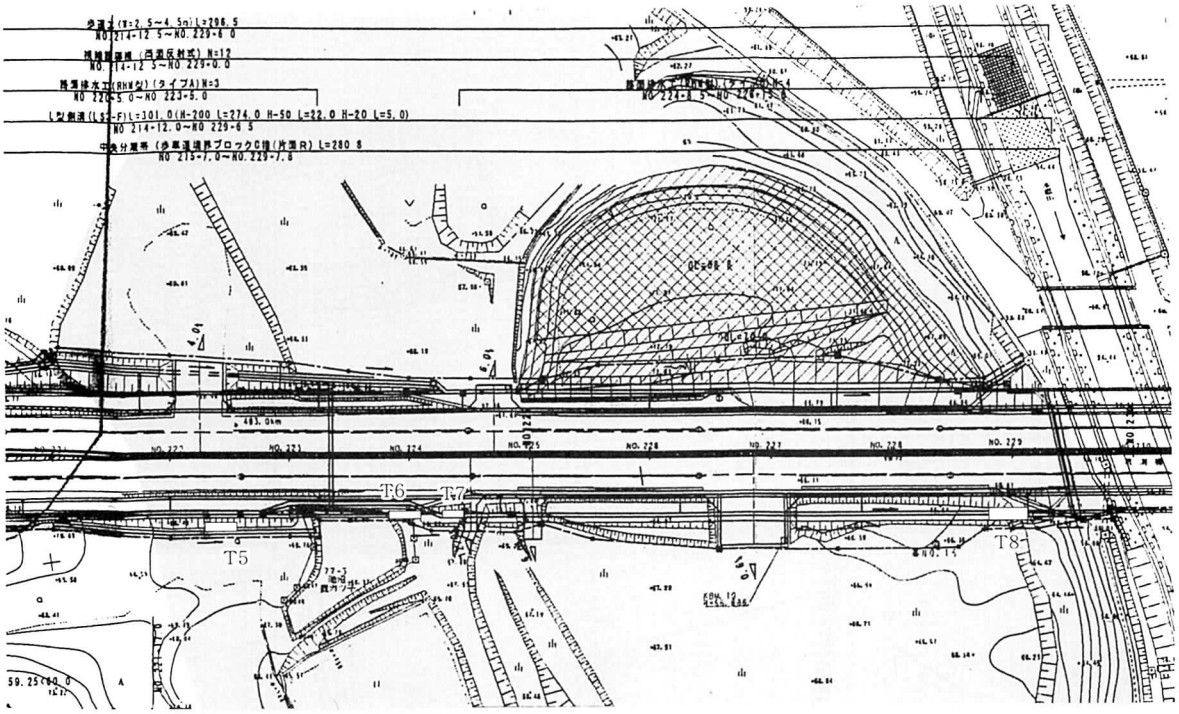
事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成20年７月29日㈫

丸子館遺跡は、北上市役所の南南西約2.5㎞に位置し、和賀川右岸の段丘上に立地している。北側が本郷川の笊渕へ下る崖面になっている。丸子館跡は鬼柳氏の城館跡として知られており、過去に岩手大学や北上市教育委員会によって発掘調査が行われている。これらの調査では、14～15世紀代の城館跡や、縄文時代～弥生時代初頭にかけての土器などの遺物や遺構が確認されている。今回の調査は一般国道４号の拡幅に伴うもので、平成20年６月に試掘調査した箇所の国道４号を挟んだ東側である。

調査範囲に４本のトレンチを設定した（Ｔ５～Ｔ８）。Ｔ５～Ｔ７は、埋没沢が存在すると推測される箇所に設定した。Ｔ６では厚い盛土の下層に以前の水田時のものとみられる暗褐色土層が確認され、さらに下層には砂礫層が確認された。土層の状況からも沢状の湿地帯であると考えられる。Ｔ５及びＴ７は沢の立ち上がる部分に設定したが、Ｔ５では沢状の地形が緩やかな傾斜をもって自然の地形に沿った形でたち上がることが確認された。Ｔ７では郭部分が削平された部分までの傾斜を確認したが、緩やかな傾斜で沢が自然の地形に沿ってあがることが確認された。いずれの端部も同様の状況で、このことから、自然の沢を利用したものと考えられる。Ｔ８は郭の北側の端部に設定したが、平坦部分は既に削平されており、笊渕へと下る急傾斜となることが確認された。

以上の結果、今回の調査範囲では遺構及び遺物は確認されなかった。



第47図　丸子館遺跡調査区位置図

5　東北横断自動車道釜石秋田線建設事業

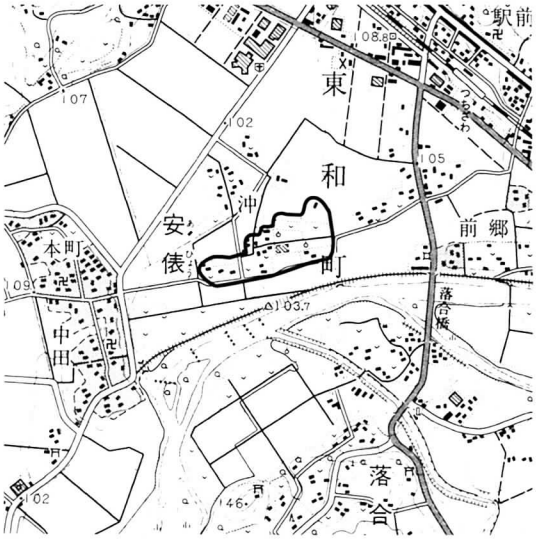
羽黒田遺跡（ME38－0210）

所在地：花巻市東和町安俵11区

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成20年４月16日

羽黒田遺跡は、花巻市役所東和総合支所の南南西方向約1.4㎞に位置し、猿ヶ石川右岸に形成された沖積地上、標高は101ｍ前後の微高地上に立地している。遺跡の南側を猿ヶ石川が東流している。今回の調査は道路建設事業に伴うもので、道路建設予定地が対象である。本遺跡において、当課による平成18年度の試掘調査で、従来の遺跡範囲を超えて埋蔵文化財が確認されたことから、当時調査未了区域となっていた遺跡隣接地の水田部分が試掘調査の対象地である。今回の調査区は周知の遺跡である中嶋遺跡にも北接する区域である。

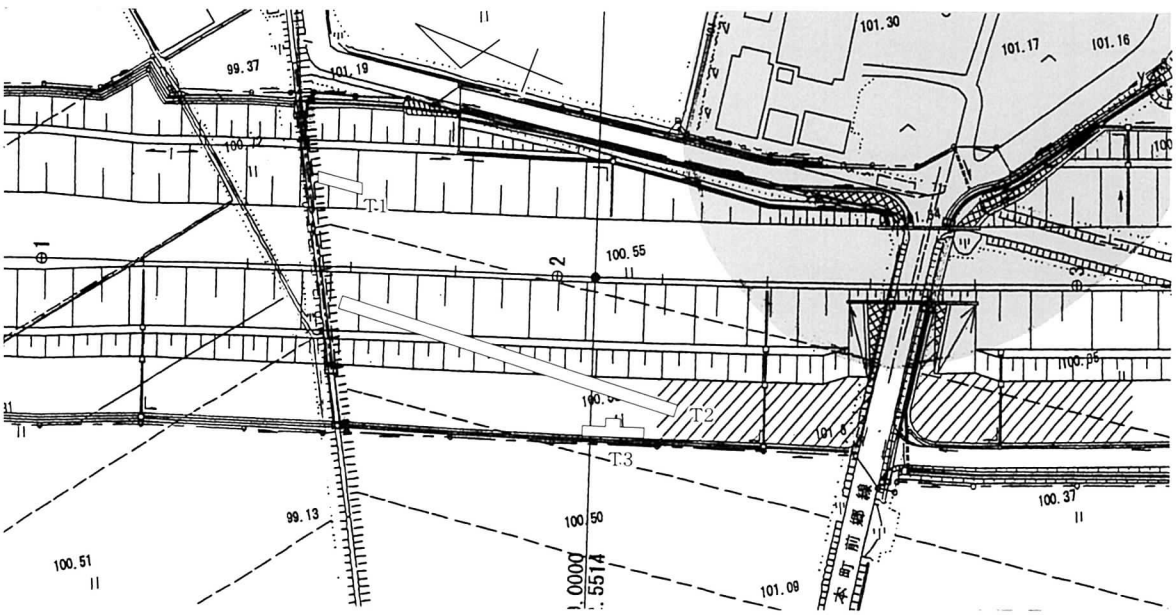


第48図　羽黒田遺跡位置図

調査対象区の水田に３本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ３）。中嶋遺跡に近いところにＴ１を設定した。第Ⅱ層から須恵器片・土師器片が出土した。トレンチを広げて掘り下げたところ、第Ⅲ層下は、褐色砂層、褐色礫層の順であったことから、現在水田として利用されているこの区域は、猿ヶ石川の旧河道にあたる箇所であると推測した。さらに南側へ掘り進めようとしたが、湧水が激しかったため掘り進めることを断念した。

中嶋遺跡近接区域から羽黒田遺跡にかけて、Ｔ２を設定した。耕作土下には、第Ⅱ層が見られ、この層には土師器片が含まれていた。一部掘り下げたところ、第Ⅲ層から縄文時代のものと思われる石篦が出土したほか、この層には大量の木片が含まれていた。南側へトレンチを広げていくと、第Ⅲ層が見られなくなり、第Ⅲ層上部で、大量の焼土粒・炭化物粒及び古代の土師器片（甕の胴部片か）を含む土坑３基が検出された。トレンチの断面から、竪穴住居内に作られたカマド燃焼部、廃棄土坑であると推測した。この竪穴住居状遺構の一辺は、約2.7ｍほどの規模と推測される。Ｔ３においては、耕作土直下で炭化物、焼土粒、土師器片を埋土に含む竪穴住居跡が検出された。トレンチを東側に拡大して検出したところ、煙道及び煙出部分が調査区内に見られなかったことから、調査区外にあり、西向きのカマドを備えていると推測した。

以上のことから、旧河道部分には包含層が所在し、微高地状の区域には古代の集落が営まれていたものと思われる。（平成21年度以降本発掘調査予定）



第49図　羽黒田遺跡調査区位置図

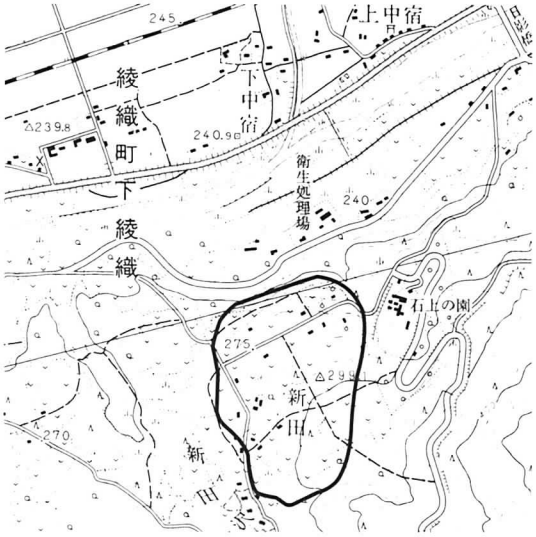
6　東北横断自動車道（釜石秋田線）新直轄事業

新田Ⅱ遺跡（MF53－0391）

所在地：遠野市綾織町下綾織字新田地内

事業者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成20年12月25日



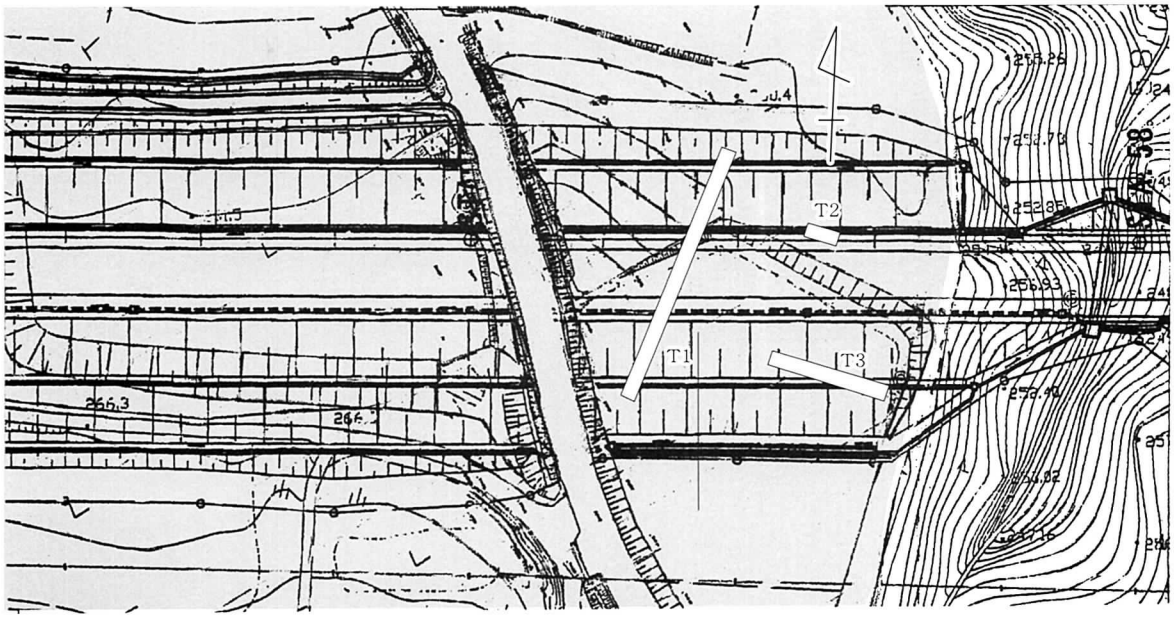
第50図　新田Ⅱ遺跡位置図

遺跡は、遠野市役所の西方向約5.7㎞に位置し、猿ヶ石川左岸の河岸段丘上に立地している。新田Ⅱ遺跡の一部は、縄文時代前期の拠点的集落跡としてその価値が評価され、平成14年度に国指定史跡に指定されている。今回の調査は、東北横断自動車道釜石秋田線工事に伴うもので、道路新設箇所が対象である。基本土層は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層盛土、第Ⅲ層黒色土、第Ⅳ層漸移層となる暗褐色土、第Ⅴ層検出面となる褐色土層で構成される。

調査対象箇所に３本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ３）。Ｔ１はほぼ南北方向に設定した。標高の高い旧水田部分における層序は、第Ⅰ層、第Ⅴ層の下層に相当する礫混じりの粘土層であり、ブルドーザーのキャタピラ痕が見られたことから、水田造成に伴う工事による地形改変を受けていた。北側へトレンチを延ばすにつれて盛土層が厚く施されており、旧水田畦畔付近から黒色土の堆積を確認した。この黒色土には、縄文時代の土器片を含んでおり、旧表土であると推測した。掘り下げたところ、縄文土器片を含む土坑１基、竪穴住居状遺構が検出された。この土坑の平面プランは楕円形で、埋土は黒色土であり、50㎝以上×50㎝の規模であった。竪穴住居状遺構は、埋土に縄文時代中期の土器片をはじめ、多くの土器片を含み、炭化物、焼土粒等も含んでいた他、一部に30㎝×30㎝大の焼土も見られた。遺構が重複している可能性もある。Ｔ２は旧牧草地に設定した。遺構及び遺物は確認できなかったが、第Ⅲ層が耕作土として利用されてはいるものの、基本層序どおりの堆積状況が見られたことから、旧地形が残存しているものと思われた。

遺跡東端を北に流れる小河川に向かって、旧表土の残存状況を確認するためにＴ３を設定した。盛土が約１ｍ施されていたが、その下層は第Ⅲ層であり、遺物が含まれていることから、遺構等が所在しているものと思われる。

以上のことから、今回の調査区は、水田造成に伴う地形改変を一部受けてはいるものの、旧地形が比較的良好に残存している区域が多く、竪穴住居状遺構等も検出されていることから、縄文時代の集落等が所在しているものと思われる。（平成21年度以降本発掘調査予定）



第51図　新田Ⅱ遺跡調査区位置図

7　胆沢ダム建設事業

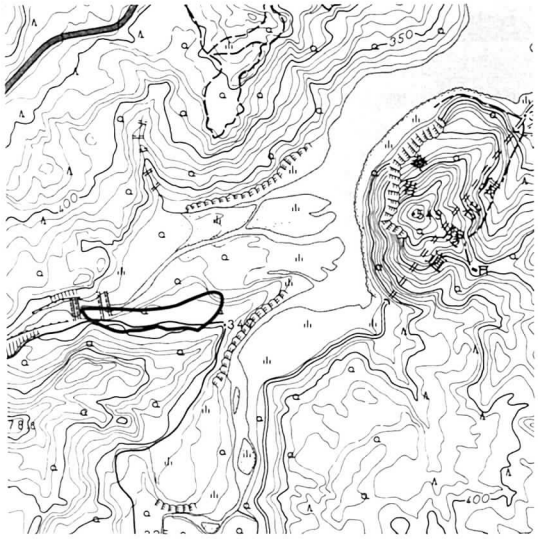
下嵐江Ⅰ遺跡（ＮＥ31－0084）

所在地：奥州市胆沢区若柳字下嵐江

事業者：国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所

調査期日：平成20年４月30日

本遺跡は、奥州市胆沢支所の西南西方向約17㎞に位置し、胆沢川右岸の標高は約350ｍの段丘縁に立地している。本試掘調査はダム建設事業に伴う橋台設置部分を対象として行った。

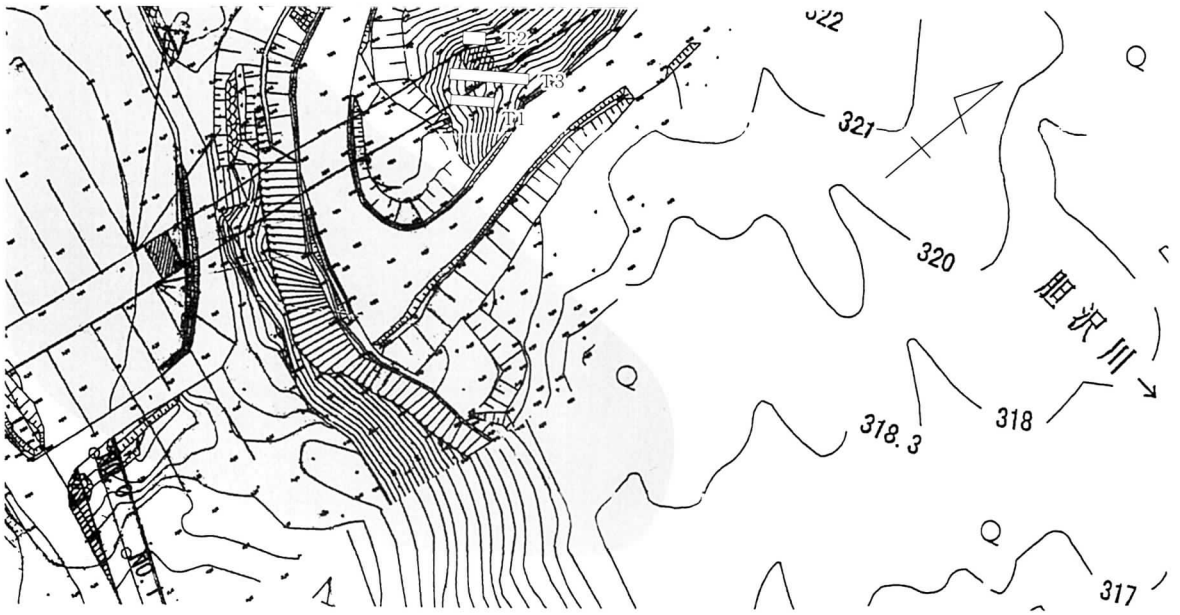


第52図　下嵐江Ⅰ遺跡位置図

基本土層はⅢ層に区分された。Ⅰ層は現代の撹乱層と見られ、旧表土の黒褐色土、砂礫（段丘礫）、基盤の第三系砂質シルトの混合土である。本層は調査区の山対側２／３に広がり、直接Ⅲ層の地山を覆う。Ⅱ層は段丘縁側の道路部分下に僅かに残り、現在調査進行中の下嵐江Ⅰ遺跡で観察される漸移層に続くものである。

トレンチは段丘崖に直行するように調査区東端～Ｔ１、Ｔ３、Ｔ２と３本を設定した。Ｔ１は長さ８ｍで、全般的にⅠ層がⅢ層（地山）を直接覆っている。埋土からは遺物が出土せず、遺構も検出されなかった。Ｔ２は長さ４ｍで、Ｔ１同様の埋土で、遺物遺構とも検出されなかった。Ｔ３はＴ１の西側に長さ15ｍで設定した。本トレンチは段丘縁に沿って西に延びる道路部分から山体側に設定した。道路下部分ではⅠ層下約10㎝の漸移層（Ⅱ層）が観察された。本層には炭化物片が混入し、その土質及び層序から隣接する下嵐江Ⅰ遺跡調査区の漸移層に連続していることから、隣接調査区で出土している旧石器時代の遺物を包含する可能性が非常に高いと判断した。道路部分以外はＴ１、Ｔ２と同様で、遺物遺構とも検出されなかった。

以上の調査結果から、段丘縁道路部分は旧石器時代の遺物を包含する漸移層の残りが良く、同時期の生活の痕跡を検出できる可能性がある。（21年度以降本発掘調査予定）



第53図　下嵐江Ⅰ遺跡調査区位置図

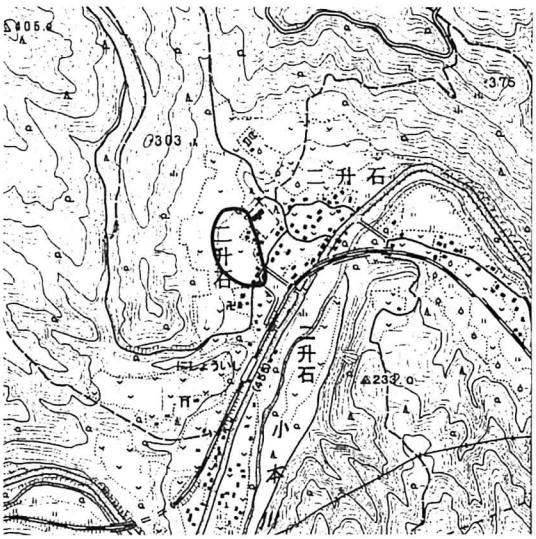
8　農用地総合整備事業下閉伊北区域

二升石大根遺跡（ＫＦ59－2262）

所在地：下閉伊郡岩泉町尼額字長畑地内

事業者：独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター東北北海道整備局下閉伊北建設事業所

調査期日：平成20年12月12日㈮、平成21年１月15日㈭



第54図　二升石大根遺跡位置図

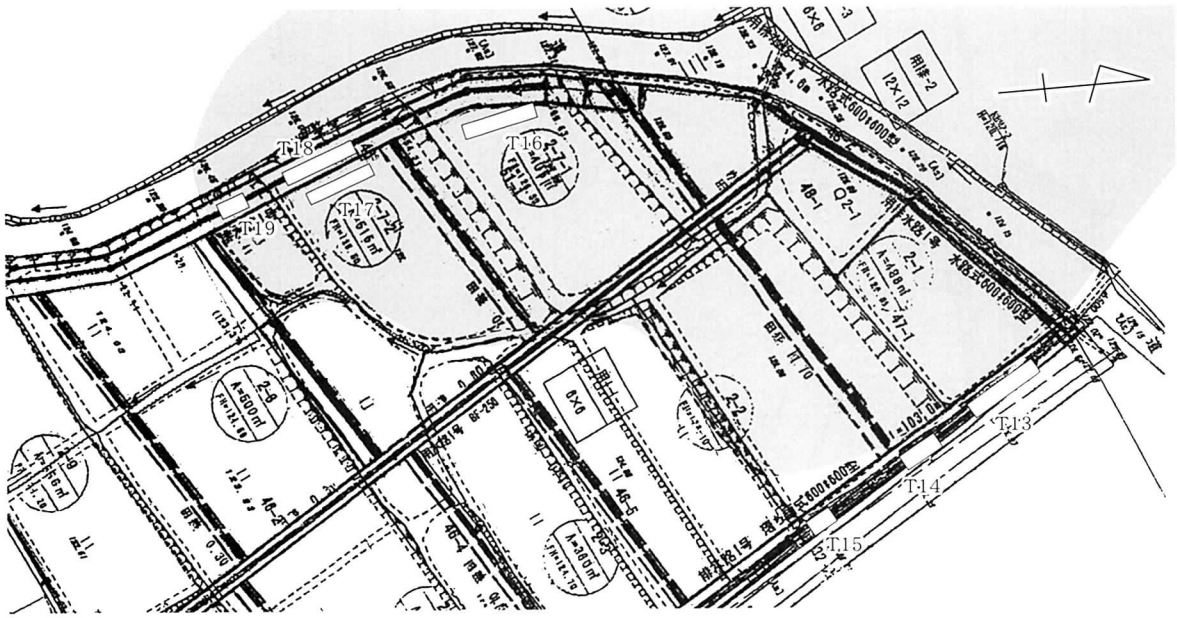
遺跡は、岩泉町役場から西方向約3.5kmに位置し、山から小本川まで延びた標高138～156ｍの尾根状の丘陵地上に立地している。今回の調査は、平成18年度試掘調査で埋蔵文化財が確認された区域において、当初計画設計が変更され、新たに排水路を設置する予定箇所が対象である。調査対象区域に７本のトレンチを設定した（Ｔ13～Ｔ19；トレンチ番号は平成18年度調査に連続させてある。）。

排水路１号設置予定箇所にＴ13～Ｔ15を設定した。トレンチを設定した範囲は、平成18年度試掘調査で本発掘調査が必要であると判断した区域を含む箇所である。Ｔ13～Ｔ15とも第Ⅵ層の存在は確認されたものの、いずれのトレンチでも遺構遺物は確認されなかった。特にＴ14では第Ⅵ層の黒色土は厚く、第Ⅷ層までの深さは、現表土から180cm～200cm下であり、涌水が激しい箇所である。これらトレンチを設定した箇所は沢筋であるものと思われる。

排水路２号設置予定箇所にＴ16～Ｔ19を設定した。Ｔ16及びＴ17を設定した箇所は、仮排水路が設置されていたため（平成20年12月12日調査時）、やむを得ず排水路設置予定箇所の隣接区域に設定した。Ｔ17において、表土から95cm下で第Ⅵ層が確認され、多量の縄文土器を含む包含層を検出した。この田区は、前回調査においても包含層が確認されている箇所であり、要本発掘調査範囲として示した区域にあたる。

本来の排水路設置予定箇所において、改めて試掘調査を実施した（Ｈ21.１.15）。包含層の拡がりを確認するために、Ｔ17に近接した箇所にＴ18を設定した。第Ⅵ層は確認できたが、遺物等は含まれておらず、包含層はこの箇所までは拡がらないものと思われる。平成18年度調査で包含層が確認されたＴ７に近接した工事予定箇所にＴ19を設定した。第Ⅳ層から摩擦した縄文土器片１点が出土したが、本来の包含層にあたる第Ⅵ層には遺物は含まれていなかったことから、Ｔ19から出土した土器は周囲から流れ込んだものと思われる。

以上のことから、過去の試掘調査で確認された包含層は、今回の水路設置予定箇所までは拡がらないものと思われる。



第55図　二升石大根遺跡調査区位置図

9　農用地総合整備事業下閉伊北区域

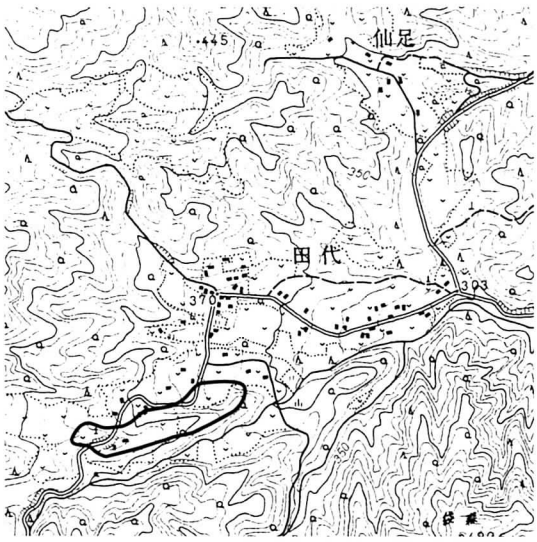
田代タテ遺跡（ＫＧ10－2323）隣接地⑪

所在地：田野畑村田代地内

事業者：独立行政法人森林総合研究所農地整備センター東北北海道整備局下閉伊事業所

調査期日：平成20年７月２日

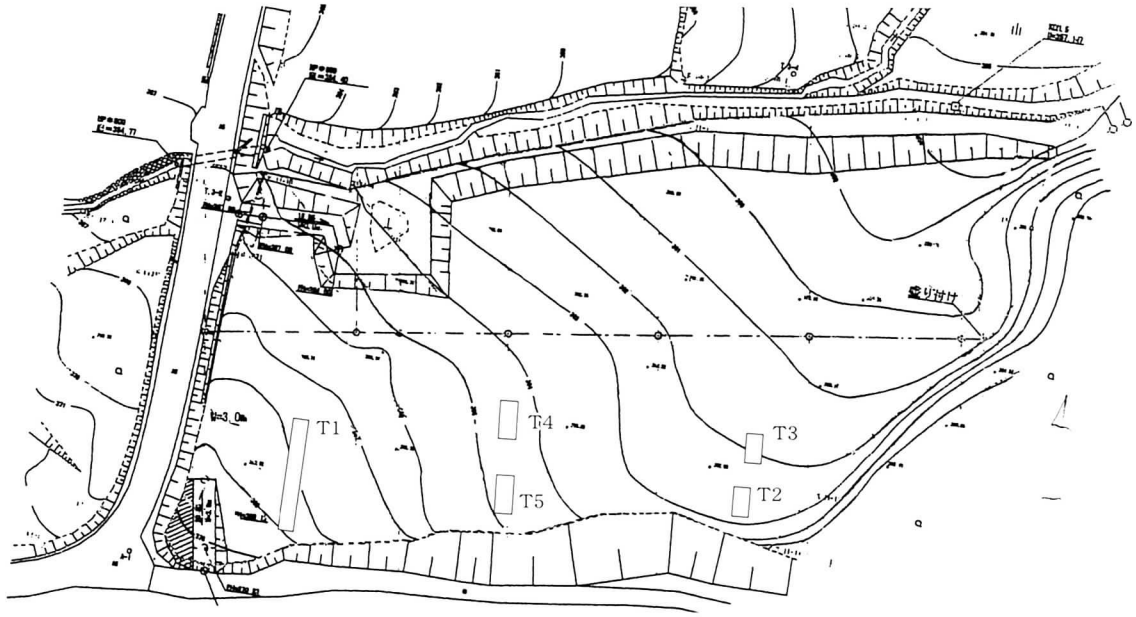
※試掘調査後、範囲拡大



第56図　田代タテ遺跡位置図

調査区は、田野畑村役場西北西約７㎞に位置し、南北方向に連なる標高700ｍ級の山地の東側緩斜面地に立地している。普代川支流からの堆積物や後背山地からの崩落土の影響を受けるような堆積環境にあり、後背山地裾付近ではマサ土起源の黄白色土が厚く堆積し、支流付近では花崗岩の巨礫を含む砂礫層が広がっている。基本土層は、第Ⅰ層・第Ⅱ層・黒色土層・第Ⅲ層・第Ⅳ層暗褐色土層

今回の調査区の５箇所にトレンチを設定した。地形傾斜方向に平行に設定したＴ１の第Ⅳ層上部から縄文土器が出土した。Ｔ２は後背山地裾付近で地形の傾斜に直交するように設定した。崩落土の影響を最も受けている箇所である。遺構遺物とも検出されなかった。Ｔ３では、Ⅰ層下位にⅡ層黒色土層を確認したが、下位層には数十㎝以上の礫を含む層が広がっており、状況からⅣ層は分布しないと判断した。遺構遺物とも出土しなかった。Ｔ４では、Ⅳ層を確認したが支流側では砂礫層（同時異層）に侵食されていることが判明した。Ⅳ層から縄文土器片が出土している。遺構は検出されなかった。Ｔ５はⅣ層の広がりを確認するために山体側にトレンチを設定した。Ⅰ層が厚くはなるが、Ⅳ層は分布することが確認された。遺構遺物とも検出されなかった。



第57図　田代タテ遺跡調査区位置図

10　農用地総合整備事業下閉伊北区域

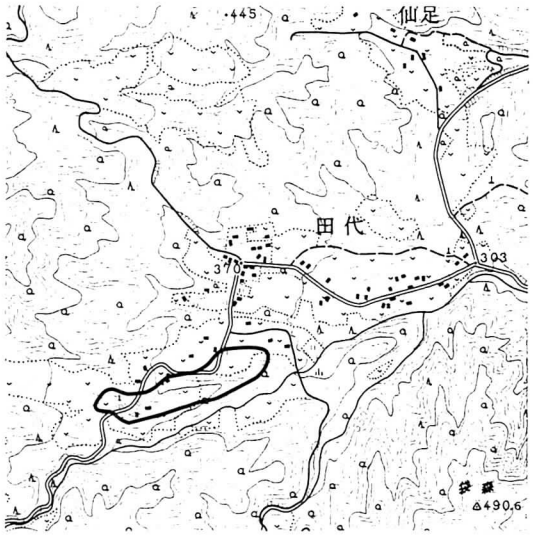
田代タテ遺跡（ＫＧ10－2323）隣接地⑫

所在地：田野畑村田代地内

事業者：独立行政法人森林総合研究所農地整備センター東北北海道整備局下閉伊事業所

調査期日：平成20年７月２日㈬

※試掘調査後、範囲拡大

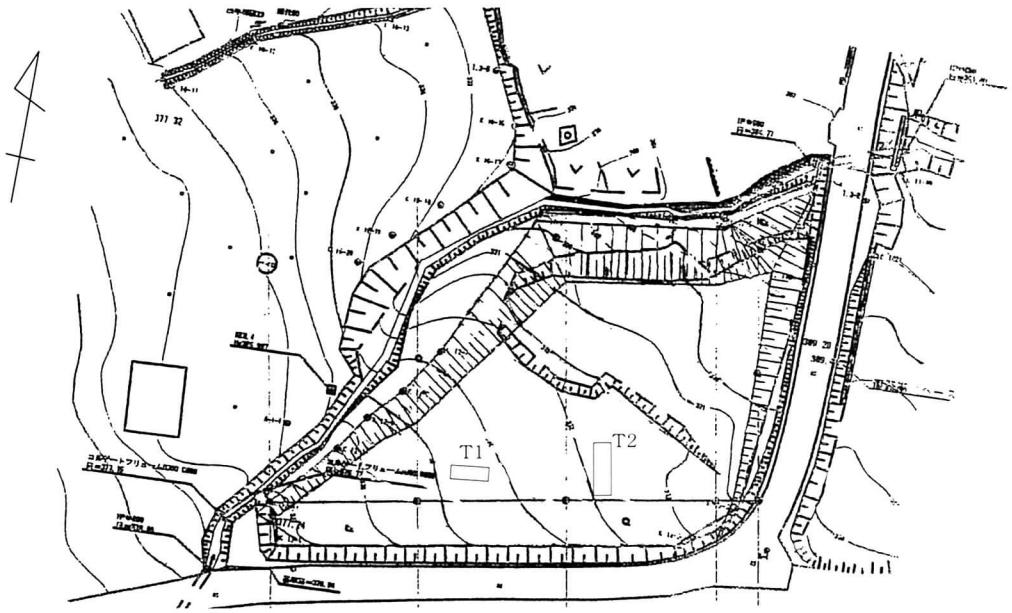


第58図　田代タテ遺跡位置図

調査地は、田野畑村役場の西北約７㎞に位置し、南北方向に連なる標高700ｍ級山地の東側緩斜面地上に位置している。普代川支流からの堆積物や後背山地からの崩落土の影響を受けるような堆積環境にある。後背山地裾付近ではマサ土起源の黄白色土が厚く堆積し、支流付近では花崗岩の巨礫を含む砂礫層が広がっている。基本土層は３層に大別される。第Ⅰ層表土、第Ⅱ層は旧表土、第Ⅲ層は花崗岩小礫を含む暗褐色砂質シルト質土で構成される。

樹木や雑物など調査の障害にならない部分２箇所にトレンチを設定した。Ｔ１では、旧表土（Ⅱ層）下をⅢ層の花崗岩小礫を含む暗褐色砂質シルトが広がっている。縄文土器片が出土している。遺構は検出されなかった。地形の傾斜に平行なＴ２の南北トレンチを設定した。Ｔ１同様な土層で、Ⅲ層から縄文土器片が出土した。遺構は検出されなかった。

隣接する調査区⑪の調査状況や地形等から東西方向にのびる後背山地に平行するように遺物を包含するⅢ層が広がっている。トレンチ内では遺構は確認されなかったが、Ⅲ層分布範囲内では縄文時代の遺構を確認できる可能性がある。



第59図　田代タテ遺跡調査区位置図

11　農用地総合整備事業下閉伊北区域

田代タテ遺跡（ＫＧ10－2323）隣接地⑭

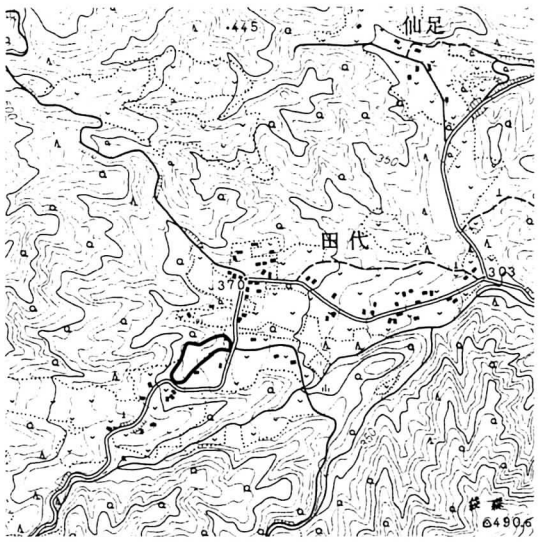
（一部新規遺跡：田代ニタ遺跡）

所在地：田野畑村田代地内

事業者：独立行政法人森林総合研究所農地整備センター東北北海道整備局下閉伊事業所

調査期日：平成20年７月２日㈬

※試掘調査後、一部新規遺跡

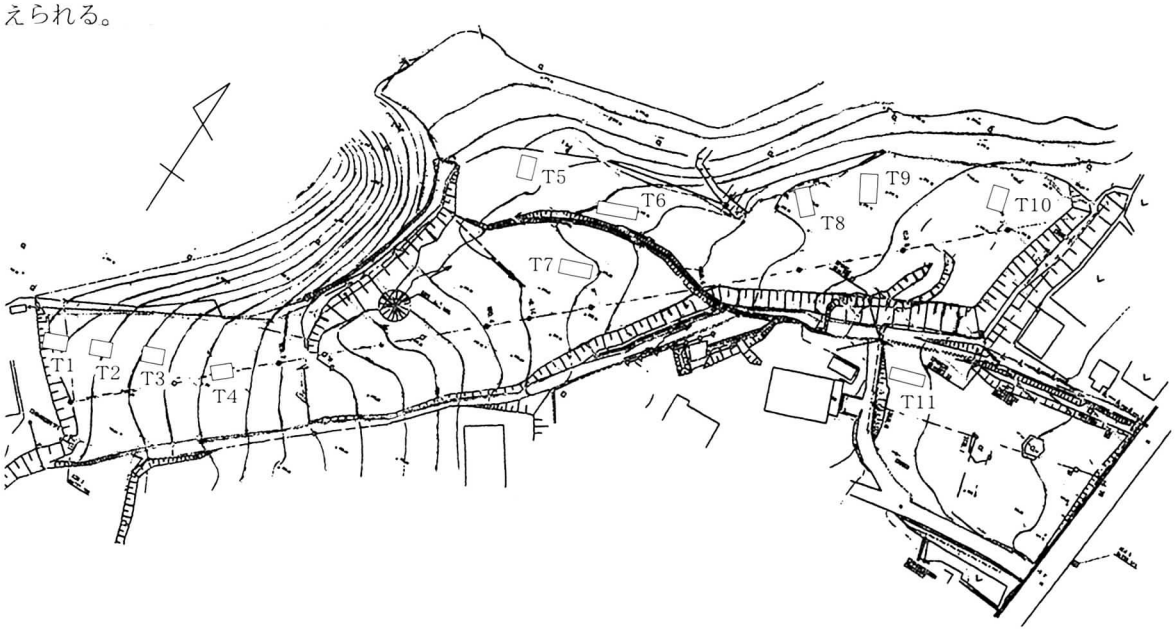


第60図　田代タテ遺跡位置図

調査地は、田野畑村役場の北西約７㎞に位置し、南北方向に連なる700ｍ級山地の東側斜面地に立地している。基本土層は４層に大別され、第Ⅰ層の近現代の撹乱層、第Ⅱ層の黒色土層、第Ⅲ層の暗褐色土層、第４層の崖錐性堆積物で構成されている。場所によって、Ⅱ層中に黄橙色の火山灰質土が介在する場所もある。

11本のトレンチを設定した。Ｔ１は、後背山地付近から斜面移動した物質を地山として発達した土層分布域で、土層堆積の様子は基本的に同じである。斜面上方ほど地山上位の層が厚くなっている。遺構・遺物とも検出されなかった。Ｔ５・６は西側の小谷や北側後背からの堆積物で埋められた地域である。Ｔ６では、周辺部から流れ込んだような火山灰土や谷地に溜まったような黒～暗褐色土が堆積している。遺構遺物ともに検出されなった。Ｔ８～Ｔ10は主に北側後背山地から供給された堆積物で覆われる場所である。Ⅲ層上面で柱穴及び焼成土坑が検出された。Ｔ８では、検出面よりも暗い黒褐色土を埋土とする径50㎝前後の柱穴２基が検出された。遺物は出土しなかった。Ｔ９では、Ｔ８と同一面で柱穴３基と焼成土坑３基が検出された。焼成土坑は楕円形（約70×60㎝）で同心円状の燃焼構造が確認され、内側は浅黄橙色、橙色土、炭化物片で埋められている。焚口や煙道は確認できなかった。遺物は出土しなかった。調査区内で最も低い所に位置するＴ11では、地山上に黒色土（Ⅱ）、暗褐色土（Ⅰ）がこの順に堆積している。遺構遺物とも検出されなった。

以上の調査結果と地元住人の話から、Ｔ８．９付近は近世後半にはすでに建物があったということから、今回の調査で検出された遺構は中近世に属すると思われる。この付近には同時期の遺構がさらに広がると考えられる。



第61図　田代タテ遺跡調査区位置図

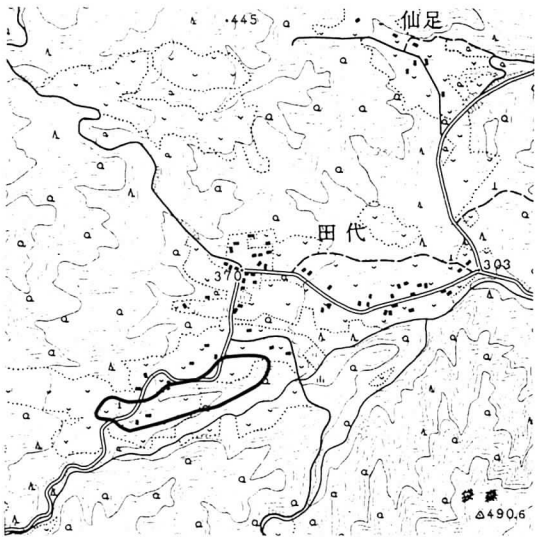
12　農用地総合整備事業下閉伊北区域

田代タテ遺跡（ＫＧ10－2323）隣接地⑳

所在地：田野畑村田代地内

事業者：独立行政法人森林総合研究所農地整備センター東北北海道整備局下閉伊事業所

調査期日：平成20年７月１日㈫

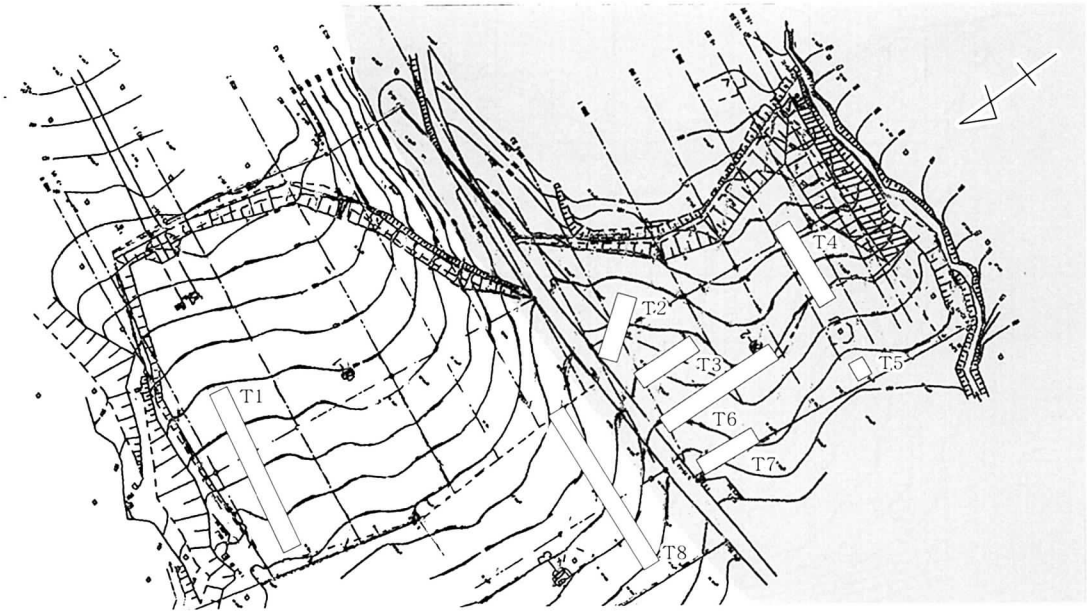


第62図　田代タテ遺跡位置図

調査地は田代タテ遺跡の隣接地で、田野畑役場の北西約7.0㎞に位置している。南北方向に連なる標高700ｍ級の山地の東側の緩斜面上に立地している。農用地総合整備事業実施に先立ち実施した分布調査で遺跡存在の可能性ありとされていた箇所である。便宜上、尾根上の試掘対象範囲をＡ地区、このＡ地区の北側に隣接する凹地部分をＢ地区と仮称する。基本土層は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層漸移層、第Ⅲ層の地山相当の崖錐性堆積物で構成される。Ａ地区では第Ⅲ層の上部にⅠ層相当の暗褐色土が堆積している。Ｂ地区では、第Ⅲ層が第Ⅱ層・第Ⅰで被覆されている。

Ａ地区に７箇所（Ｔ２～７）、Ｂ地区にＴ１・Ｔ８の２箇所の計８箇所にトレンチを設定した。Ｂ地区のＴ１・８では、遺構遺物とも検出されなかった。Ｔ２は全体に牧草地造成時に削平を受けており遺構の遺存状態は良好でなかったが、埋土に縄文土器片・炭化物等を含む住居状遺構を２棟、円形～楕円形の土坑２基を検出した。Ｔ３では、住居状遺構１棟、土坑２基うち１基からは縄文土器が出土、円形状に配置される柱穴状５基が検出されている。Ｔ４は、造成時に50㎝以上の削平を受けていることが確認でき遺構遺物とも検出されなかった。Ｔ５では土坑１基、Ｔ６では土坑３基・柱穴状土坑２基と遺構外から縄文土器片が出土している。Ｔ７では、住居状遺構１基が検出された。

今回の調査範囲内である尾根上の道路南側を中心に遺構と遺物が検出された。北側の谷状低地部では遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。地山内に１ｍ以上の巨礫を含むことから、西側山体から崩落した岩石が溜まるような凹地形である。以上のことから今回の調査範囲の南側尾根部分に遺跡主体部が広がると推定される。



第63図　田代タテ遺跡調査区位置図

13　農用地総合整備事業下閉伊北区域

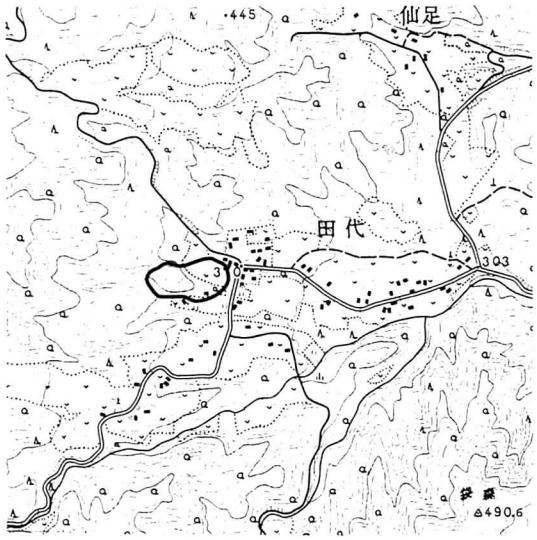
田代小畑遺跡（ＫＧ42－2179）隣接地⑰

所在地：田野畑村田代地内

事業者：独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター東北北海道整備局下閉伊事業所

調査期日：平成20年７月１日(火)、２日(水)

※試掘調査後、一部範囲拡大

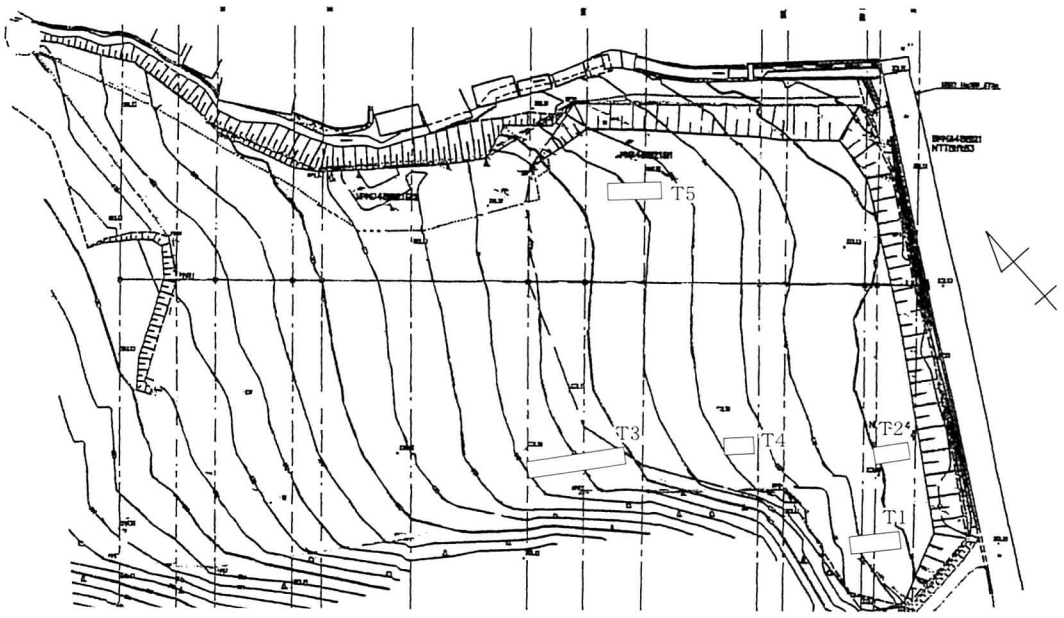


第64図　田代小畑遺跡位置図

田代小畑遺跡は、田野畑村役場の西北西約７kmに位置し、普代川支流の小河川状の沢添いに立地している。今回の調査は農用地整備事業に伴うもので、切り土予定の畑地及び排水路設置予定区間を対象として試掘調査を実施した。現況は南向きの緩斜面で、分布調査で遺跡が広がる可能性があると判断した箇所である。

調査対象区域に５本のトレンチを設定した。（Ｔ１～Ｔ５）。Ｔ５では、30cm程の表土下に地山層とみられる黄褐色土層が確認された。この上部で縄文土器が出土したほか、30cm×20cm程の焼土の広がりを確認した。削平等のため、表土下に地山層となっていたが、住居に伴った焼土の可能性が考えられる。Ｔ１～Ｔ４では表土及び黒色土層が100cm程度堆積しており、一部は沢状の湿地帯であったとみられる。

今回の調査範囲内から縄文時代の遺構と遺物が検出された。田代小畑遺跡から一段下がった範囲であり、遺跡範囲が拡大することが確認された。



第65図　田代小畑遺跡調査区位置図

14　農用地総合整備事業下閉伊北区域

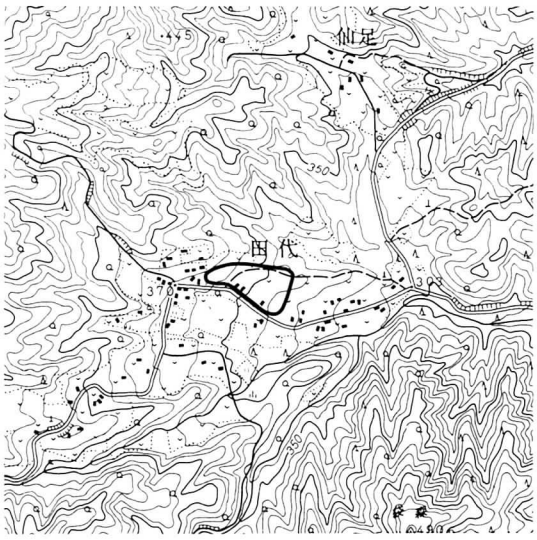
田代イクアエ沢遺跡（ＫＧ10－1378）隣接地⑥

所在地：田野畑村田代地内

事業者：独立行政法人森林総合研究所森林農地整備センター東北北海道整備局下閉伊事業所

調査期日：平成20年７月１日㈫、２日㈬

※試掘調査後、一部範囲拡大

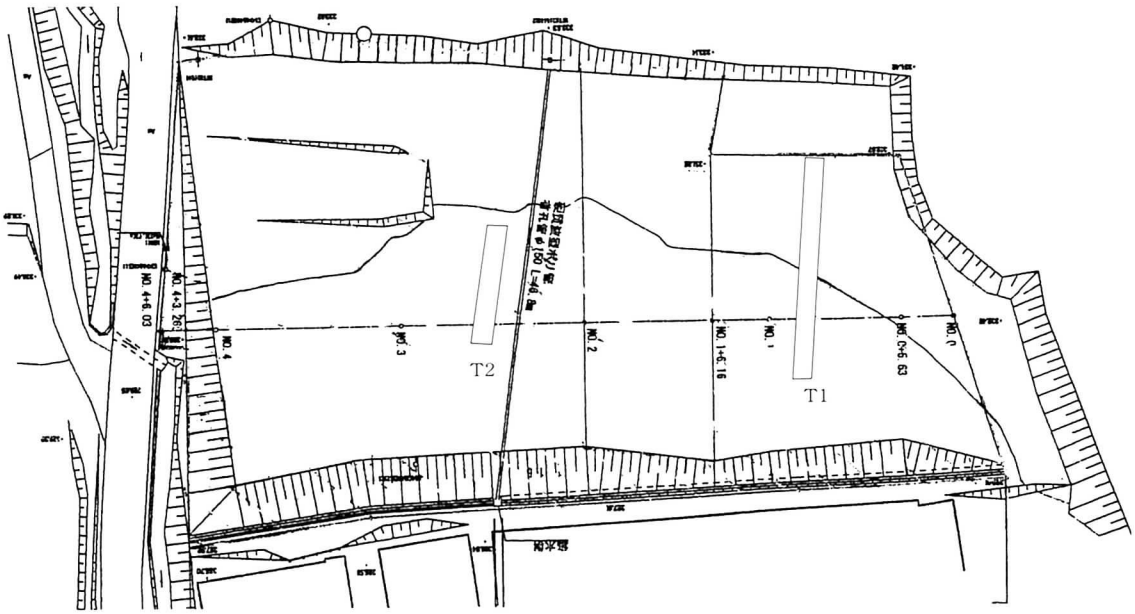


第66図　田代イクアエ沢遺跡位置図

田代イクアエ沢遺跡は、田野畑村役場の西北西約７㎞に位置し、普代川支流の小河川状の沢添いに立地している。今回の調査は農用地整備事業に伴うもので、切り土予定の畑地及び排水路埋設予定区間を対象としている。現況は南向きの緩斜面で、分布調査で遺跡が広がる可能性があると判断した箇所である。

調査対象区域に２本のトレンチを設定した。（Ｔ１、Ｔ２）。Ｔ１では40㎝程度の表土下の地山層とみられる黄褐色土層上面で20×20㎝程度の柱穴状土坑を４基確認した。このうちの３基は東西方向に並んで検出され、掘立柱建物跡を構成するものとみられる。隣接する箇所から焼土も確認された。今回の調査範囲から近接した斜面で鉄滓片がみられたことから、製鉄遺構等に関連する遺構が存在する可能性があると判断できる。Ｔ２では、斜面下部に黒色土層が一部でみられたことから、沢に下る斜面であったとみられる。斜面上部にあたる範囲に遺構等が広がるとみられる。

以上の結果、今回の調査範囲で埋蔵文化財が検出され、田代イクアエ沢遺跡の範囲が拡大することが確認された。



第67図　田代イクアエ沢遺跡調査区位置図

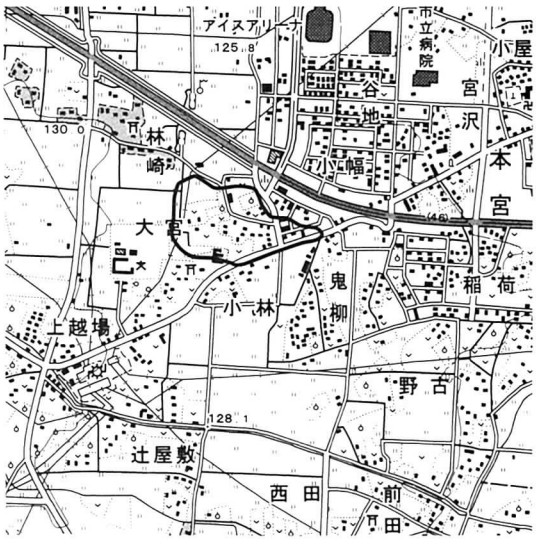
15　地方特定道路整備事業

大宮北遺跡（ＬＥ16－2035）

所在地：盛岡市本宮字本宮

事業者：盛岡地方振興局土木部

調査期日：平成20年10月２日、３日、11月17日

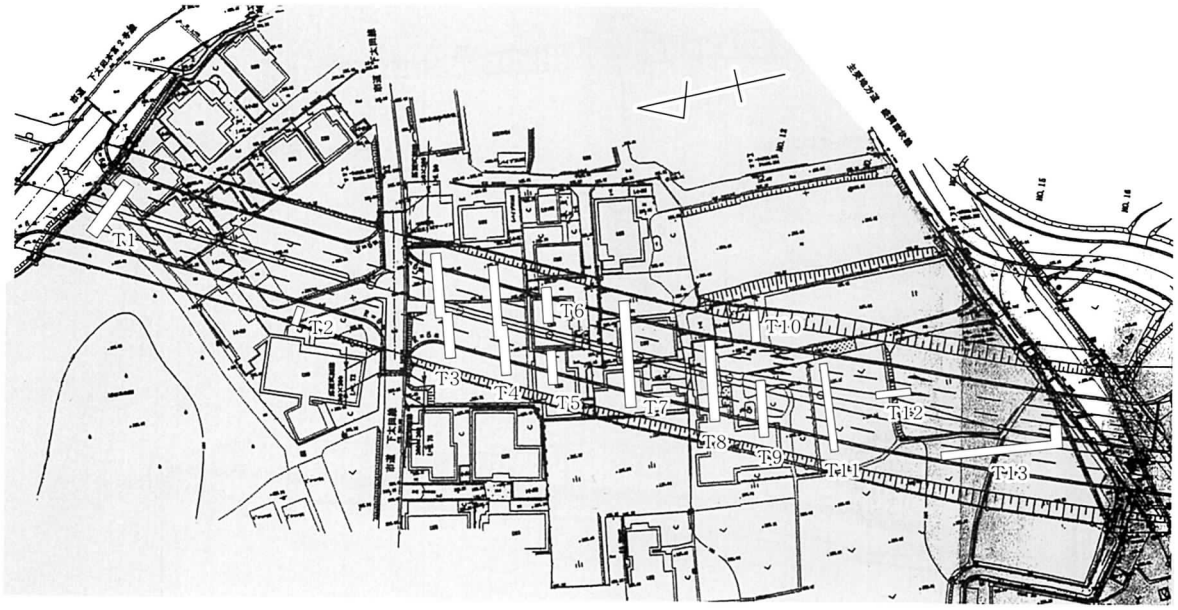


第68図　大宮北遺跡位置図

大宮北遺跡は、盛岡市役所の西南西約3.5㎞に位置し、雫石川右岸の低位段丘面に立地している。９世紀初頭の城柵である志波城跡の西約１㎞ほどに位置し、古代の集落跡として周知されている遺跡である。今回の調査は、西バイパス事業に伴うものである。今回の調査範囲に13本のトレンチを設定した。

Ｔ１で竪穴住居が検出され、埋土に焼土が含まれておりカマドが存在するものと見られる。埋土中から土師器坏、甕や須恵器坏が出土した。坏は赤褐色の内面非黒色のもので、回転糸切り無調整である。坏は外面に墨書が記されているが、小破片のため詳細は不明である。甕は非ロクロ調整のものである。９世紀前半代のものとみられる。Ｔ２では、土坑が検出された。これらのことから、大宮遺跡の該当部分は古代の集落跡とみられる。Ｔ３～Ｔ１３では、Ｔ１及びＴ２で遺構を検出した土層は確認されなかった。これらのトレンチを設定した範囲では、土質から湿地性のものとみられる。そのため、大宮北遺跡は、周囲に小河川が流れ、それに沿った微高地上に遺構等が所在すると考えられる。

以上の結果、大宮北遺跡は小河川の微高地に古代の住居跡等が分布し、古代の集落跡であったとみられる。ただし、その範囲は微高地上に限定されるものと考えられる。（21年度以降本発掘調査対応予定）



第69図　大宮北遺跡調査区位置図

16　緊急地方道路整備事業

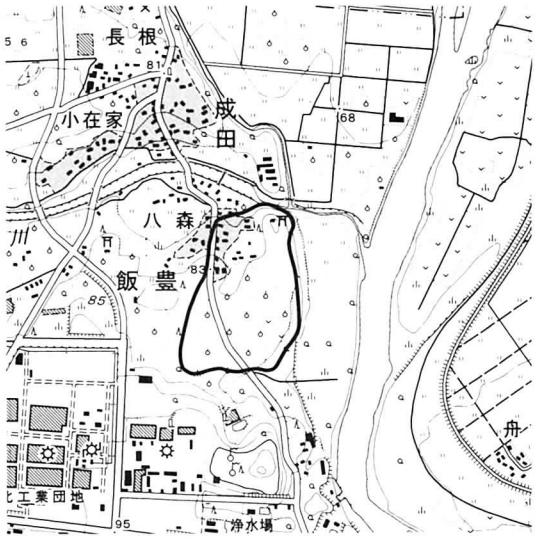
成田岩田堂館遺跡（ME46－1221）

所在地：北上市村崎野26地割～北上工業団地

事業者：県南広域振興局北上総合支局土木部

調査期日：平成20年５月12日

成田岩田堂館跡は、北上市役所の北東約6.1㎞に位置し、北上川右岸の河岸段丘上に立地している。現況は道路及び畑地である。今回の調査は、主要地方道北上東和線（仮称）平成橋工事に伴うものである。平成18年度に当課で一部試掘調査を行い、その結果を受け平成19年度に岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが発掘調査を行っている。

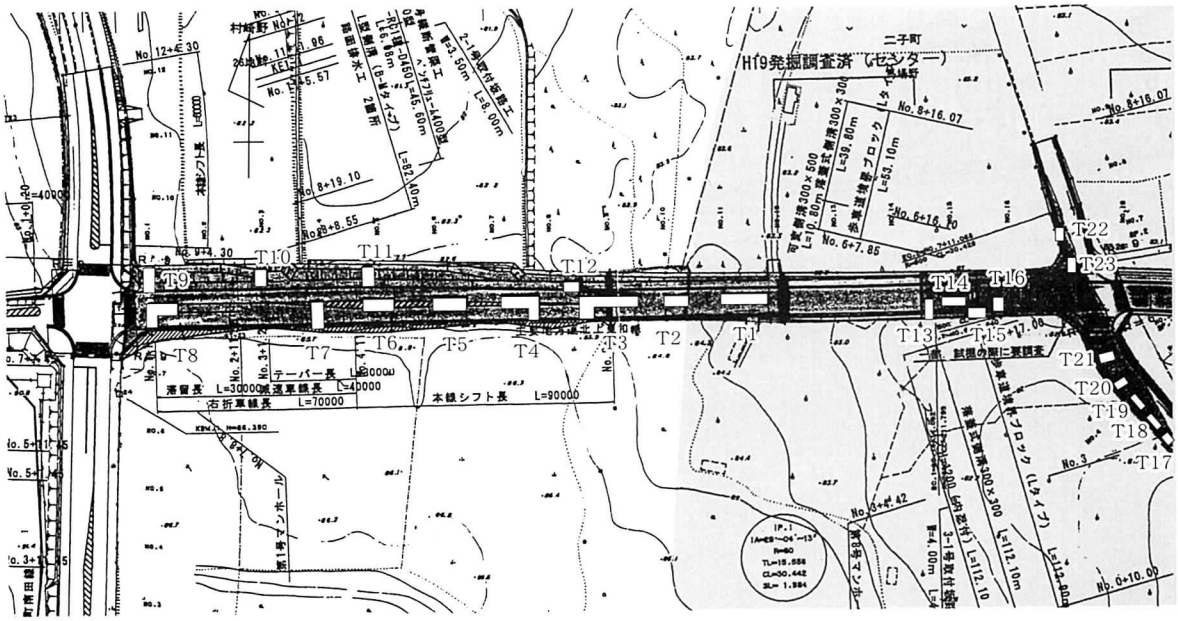


第70図　成田岩田堂館位置図

今回の調査範囲は、前回の試掘調査の際に調査未了とした範囲で、昨年度調査区に隣接した範囲である。調査範囲に23本のトレンチを設定した。

Ｔ１では、黄褐色土層上面で40×50㎝程度の土坑１基と20×20㎝程度の柱穴状土坑を計２基確認した。Ｔ２では、遺構等は検出されなかったものの、Ｔ１と同様の層序が確認されたため遺構が延びることが考えられる。これらの範囲は19年度の本調査範囲に隣接した場所であり、遺構等が連続するものとみられる。Ｔ３の西側からＴ12までのトレンチでは、第Ⅱ層及び第Ⅲ層が確認されず、第Ⅳ層についても堆積層の様相から、削平が及んでいると考えられる。これらの範囲では以前の畑地造成等により地形改変を著しく受けた場所と思われる。現在畑地となっている調査範囲の東側に設定したＴ13～Ｔ23では、以前の畑地造成等により改変されていることが確認された。これらの範囲内では、遺構等は確認されなかった。

以上の調査結果から、今回の調査範囲内の一部で柱穴等の埋蔵文化財が検出された。成田岩田堂館跡の範囲内に、遺構等が広がっていることが確認された。（21年度以降本発掘調査対応予定）



第71図　成田岩田堂館調査区位置図

17　緊急地方道路整備事業

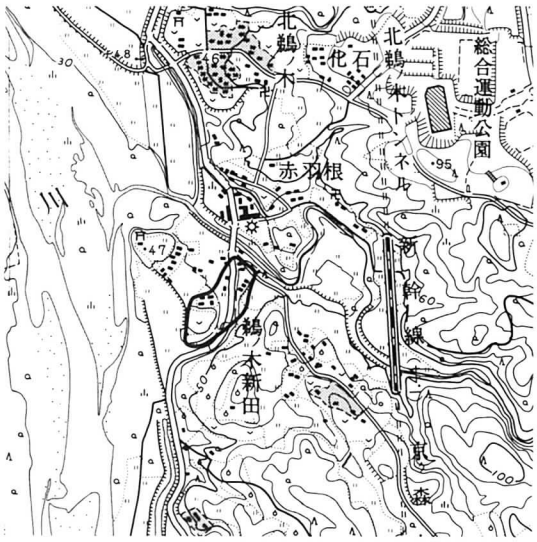
鵜ノ木南台地遺跡（ＮＥ27－1268）

所在地：奥州市水沢区黒石町字鵜ノ木地内

事業者：県南広域振興局土木部

調査期日：平成20年５月20日㈫、６月５日㈭

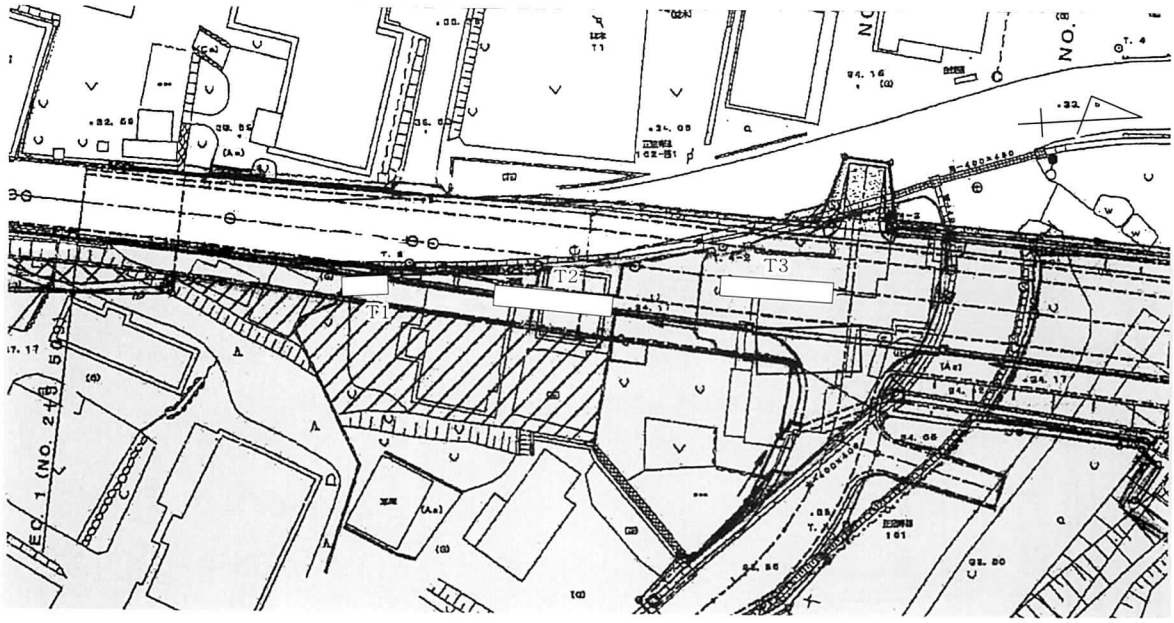
遺跡はＪＲ東日本水沢駅の南東方向約４㎞に位置し、太田代川左岸の河岸段丘部分（平坦部）と丘陵の西側斜面付近（斜面部）に立地している。今回の調査地は遺跡の東端に相当し標高は約34ｍである。平坦部と斜面部で異なるが、基本層序は大きく５層に分層され、第Ⅰ・Ⅱ層は現代の盛土、第Ⅲ層は土器片・焼土を含む黒色土層、第Ⅳ層は漸移層、第Ⅴ層は段丘堆積物となっている。



第72図　鵜ノ木南台地位置図

現道に並行するようにほぼ南北方向にＴ１～Ｔ６の６本のトレンチを設定した。Ｔ１では現地表面から約1.8ｍの深さまで掘削し第Ⅰ～Ⅲ層の分布が認められ、現代の井戸穴を確認したが他の遺構遺物は検出されなかった。Ｔ２は地表面から約1.9ｍを掘削し、第ⅠからⅤ層までの分布が認められた。Ⅲ層全体から縄文土器片と廃棄されたと思われる焼土が検出された。遺構は検出されていない。Ｔ３もＴ２と同様の傾向を示し、遺構は検出されなかったがⅢ層から縄文土器が出土している。現状が畑地となっている斜面部で表土の砂礫質粘土から石鏃と陶磁器片を採取した。

以上のことから、遺構は検出されていないが、平坦部で土器片を含む遺物包含層（遺物等の捨て場）、南側斜面畑地で遺物が出土することが判明した。トレンチの観察から、平坦部の遺物包含層は南側に向かい層厚を増すことが確認された。２地点から推定すると東側の丘陵緩斜面上に遺構主体部が広がる可能性がある。



第73図　鵜ノ木南台地調査区位置図

18　国道397号道路改良事業

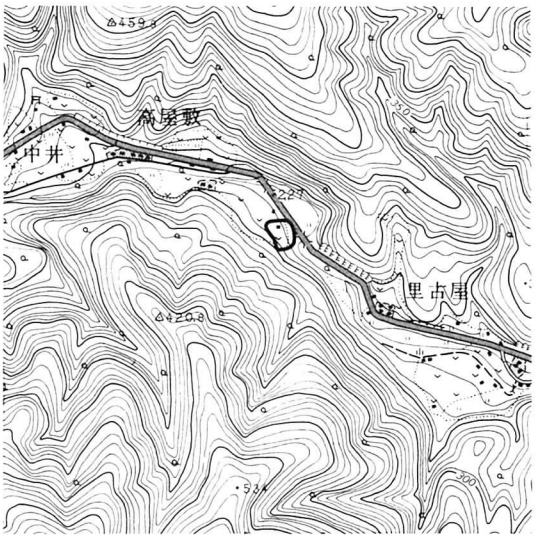
高屋敷Ⅱ遺跡（ＮＦ13－1389）

所在地：気仙郡住田町世田米字高屋敷

事業者：大船渡地方振興局土木部

調査期日：平成20年11月19日～20日

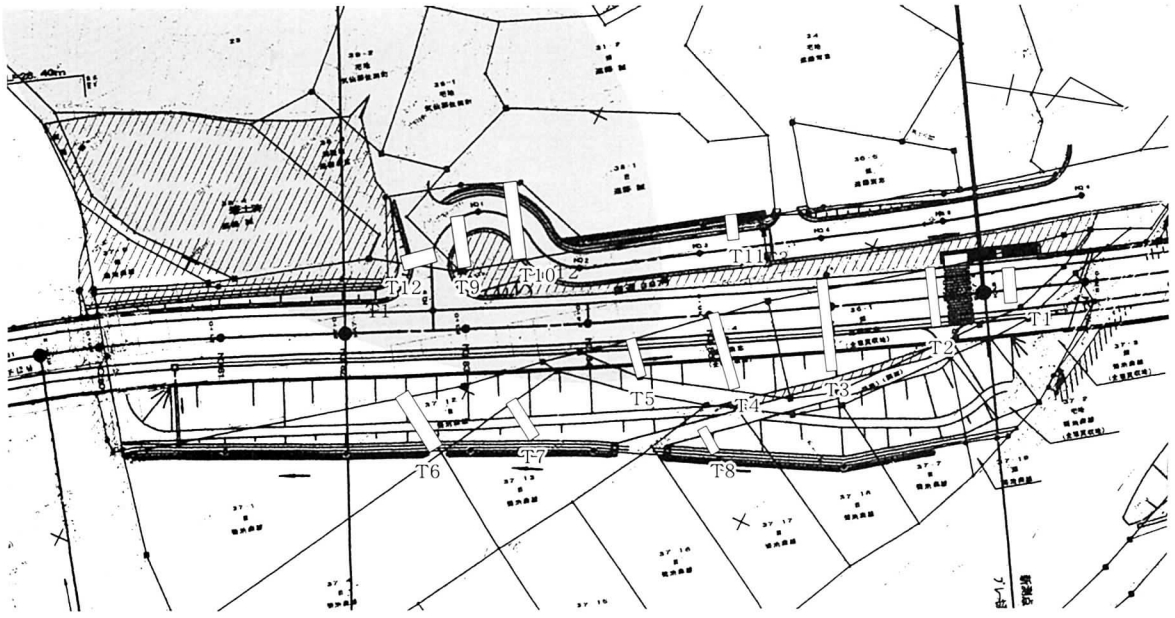
高屋敷Ⅱ遺跡は住田町役場の西方向約8.5㎞に位置する。調査区域は、標高225ｍ前後の南側山体から延びる緩斜面地と大股川による谷底低地部分である。基本土層は６層に区分される。Ⅰ層は人為的堆積土、Ⅱ層は旧表土である。Ⅰｃ層は現道南側水田化に厚く盛土され、本層の下位にⅡａ層が堆積する。Ⅲ層砂礫層は大股川に接する部分に広がる。



第74図　高屋敷Ⅱ遺跡位置図

トレンチは12本設定した。Ｔ１～Ｔ４、Ｔ６～Ｔ８、T11は本遺跡隣接地に設定した。Ｔ６～Ｔ８は水田部分で、Ⅲ層砂礫層上にⅠｂ層、Ⅰａ層の順に堆積している。Ｔ５は本遺跡北縁で、Ⅲ層砂礫層上にⅡｂ層、Ⅰａ層が堆積する。Ｔ９～T11は現道路南側の緩斜面上に設定した。T10ではⅠａ層下にⅠｃ層盛土が厚く堆積する。本層下位にⅡａ層が堆積し、縄文時代後晩期の遺物が出土した。地山は黄褐色土で径３ｍ以上の円形竪穴住居状遺構と見られるプランとそれに接する径20㎝の円形の焼土を検出した。遺構検出の深度は地表面からマイナス２ｍで、この検出面は現道に向かう途中で傾斜を増しトレンチ北側部分で約３ｍとなる。 T11でもⅡａ層が分布し、同様に遺物が出土した。Ⅲ層地山は地表面から約４ｍ下で確認される。T12は民家進入路に設定した。厚い盛土で埋められ、約４ｍ掘り下げたが、重機の掘削能力を超えても旧地表面が確認されないため、調査を中止した。

調査結果から、現道路南側水田部分下位に遺構と遺物包含層が確認された。今回の調査で確認できなかったが、この遺物包含層は現道路下及び東側の盛土施工済箇所にのびる可能性が大きい。調査区北側の大股川に接する水田部分では、遺構は確認されず、遺物も出土しない。（21年度以降本発掘調査予定）



第75図　高屋敷Ⅱ遺跡調査区位置図

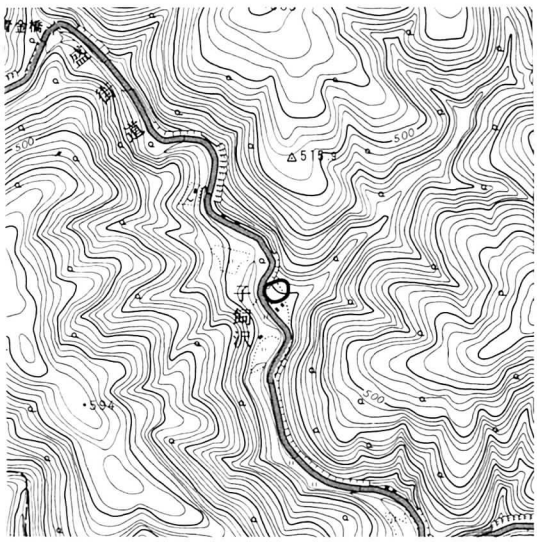
19　津付ダム建設事業

子飼沢高炉跡（ＮＦ13－0143）及び隣接可能性あり

所在地：気仙郡住田町世田米字子飼沢地内

事業者：大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所

調査期日：平成20年12月10日㈬



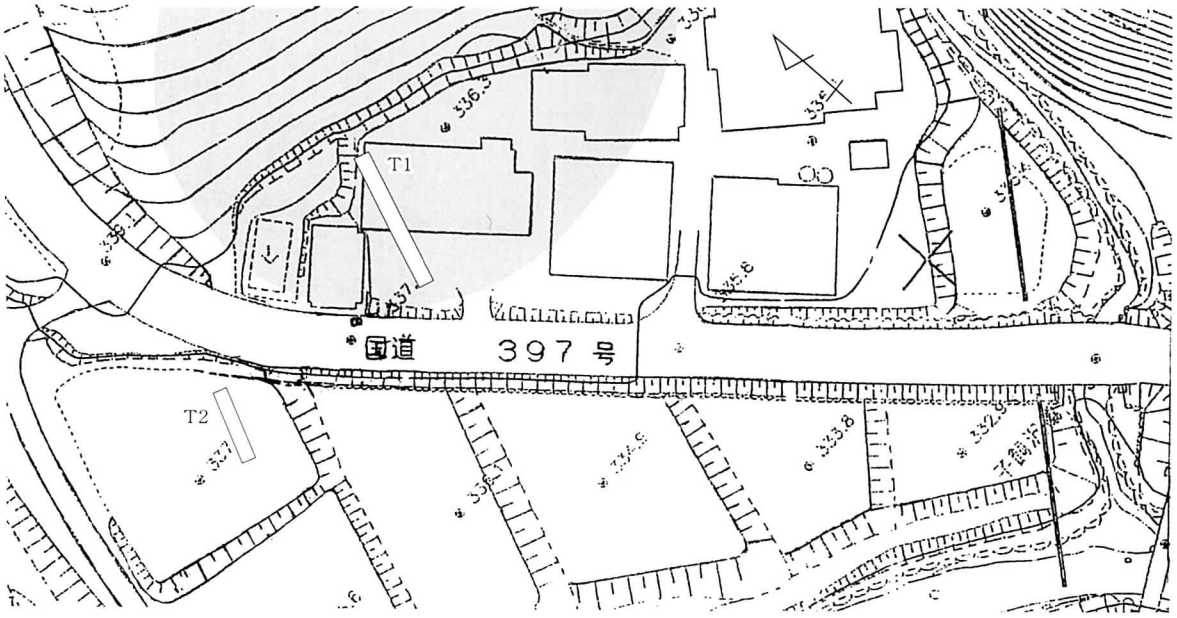
第76図　子飼沢高炉跡位置図

遺跡は、住田町役場の西方約11.5㎞に位置し、大股川まで延びる山の尾根の先端部に立地している。今回の調査は、ダム建設事業に伴うものであり、本遺跡は常時満水位以内に立地していることから、実施したものである。周知の遺跡範囲及び分布調査で可能性ありとされた区域を調査対象箇所とし２本の試掘トレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ２）。

周知の遺跡範囲にＴ１を設定した。Ｔ１を設定した区域は、宅地として使用されていた区域である。Ｔ１では砂利盛土層下位は基本層序どおりであった。第Ⅴ層上面で、径25～40㎝大の円形プランの柱穴状土坑５基、幅30㎝大の規模を有する楕円形プランの土坑２基を検出した。埋土に縄文土器を含む柱穴状土坑２基が含まれている。

隣接可能性ありとされた箇所にＴ２を設定した。水田として利用されていた区域である。トレンチ北端部分には第Ⅳ層・第Ⅴ層が堆積しており、水田造成時に地形改変を受けたものと思われる。トレンチをさらに南側（川側）へ拡張したところ、水田耕作土直下に、５～20㎝の層厚で焼土粒・炭化物を含む暗褐色土層が確認された。この層は、赤いサビが一面に見られることから、鉄分が多く含まれているものと思われる。この層から鍛冶炉炉壁片・鉄滓片が出土したため、精査を継続したがこれら遺物に関連する遺構は確認できなかった。水田造成等の地形改変により、高炉跡に関する遺構が削平を受けている可能性があると判断した。さらに掘り下げたところ、縄文時代の竪穴住居跡が１棟検出され、埋土上面には縄文土器片数点、炭化物粒が含まれていた。Ｔ２においては、竪穴住居跡の他、径40㎝前後の大柱穴状土坑３基が検出され、

以上のことから、今回の調査区は、製鉄関連遺跡と縄文時代の集落跡が複合して所在する遺跡であり、従来の遺跡範囲が南側まで拡大するものと思われる。



第77図　子飼沢高炉跡調査区位置図

20　花巻空港建設事業

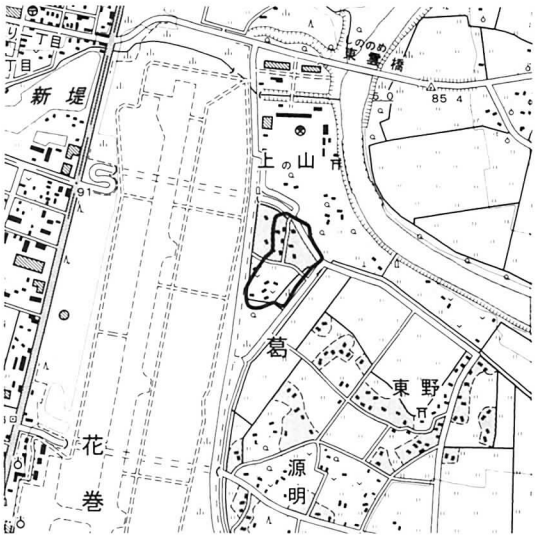
上ノ山遺跡隣接地（ME06－2297）

所在地：花巻市葛

事業者：岩手県花巻空港事務所

調査期日：平成20年11月26日

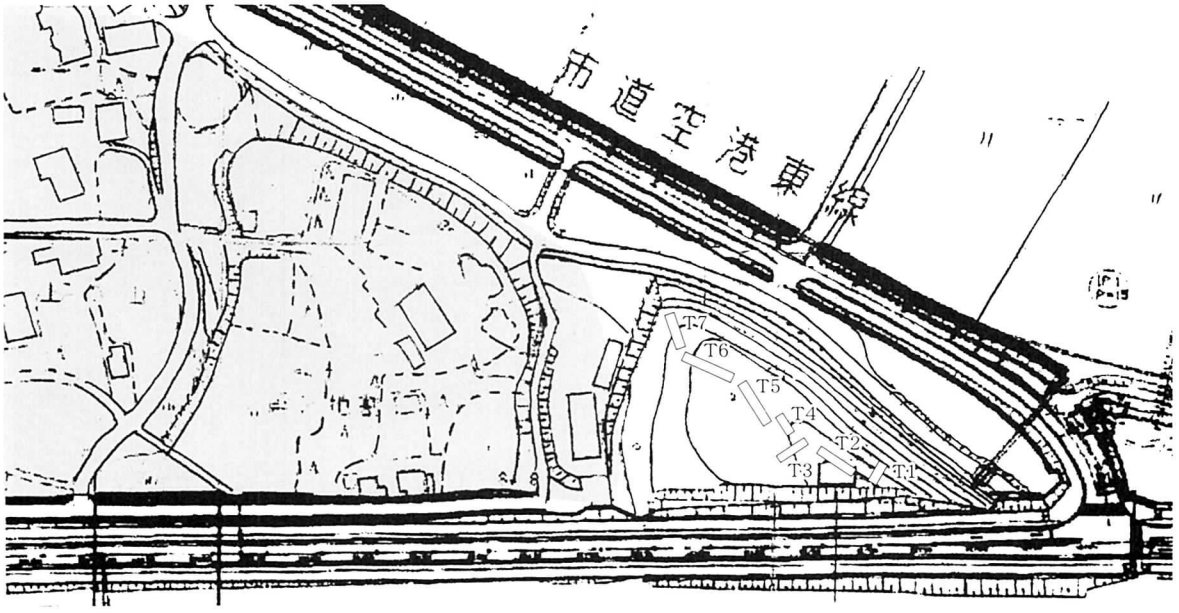
本遺跡は花巻空港の東北東約800ｍに位置し、北上川右岸の河岸段丘上の微高地に立地する。道路を隔てた遺跡の北側には、縄文・古代の複合遺跡の上ノ山遺跡が隣接している。周辺は、これまでの空港整備によって大きく地形改変が進んでいるが、今回の調査地付近は眺望も良好でかつての地形を残している。調査区域の現況は原野で、その標高は90ｍ前後である。



第78図　上ノ山遺跡位置図

調査は東屋と遊歩道の建設予定箇所に幅1.2ｍのトレンチを７本設定し、遺構・遺物の有無を確認した。Ｔ１～Ｔ７のいずれもが表土が薄く、数㎝程度の掘削で地山面があらわれる。各トレンチにおける土層の状況はほぼ同じであったが、Ｔ７北側の第Ⅱ～Ⅲ層において頁岩製の石核が１点出土した。前述の状況から、地山にまで及ぶ後世の掘削（平坦面の造成）があったことは明らかであり、出土した層位の確定は困難であったが、石核自体は旧石器時代に属する可能性を残すものと思われた。しかし、この他に剥片・台石等の石器は確認できなかった。

散策路の２出入口部分では撹乱をうけ、基盤の砂礫層が露出しており、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。（平成21年度以降本発掘調査予定）



第79図　上ノ山遺跡調査区位置図

21　花巻空港建設事業

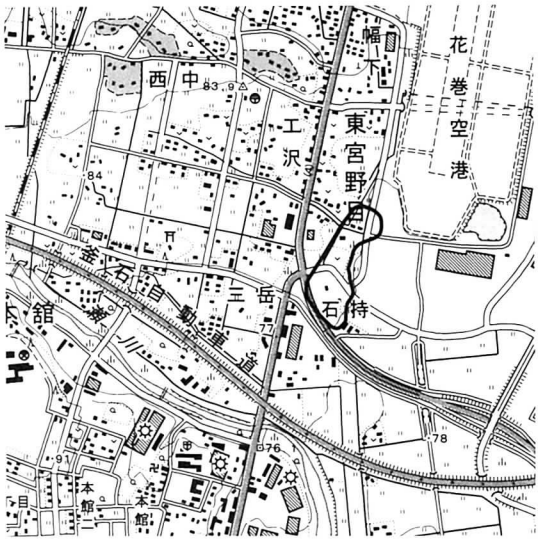
石持Ⅰ遺跡（ME16－2117）

所在地：花巻市東宮野目

事業者：岩手県花巻空港事務所

調査期日：平成20年11月26日

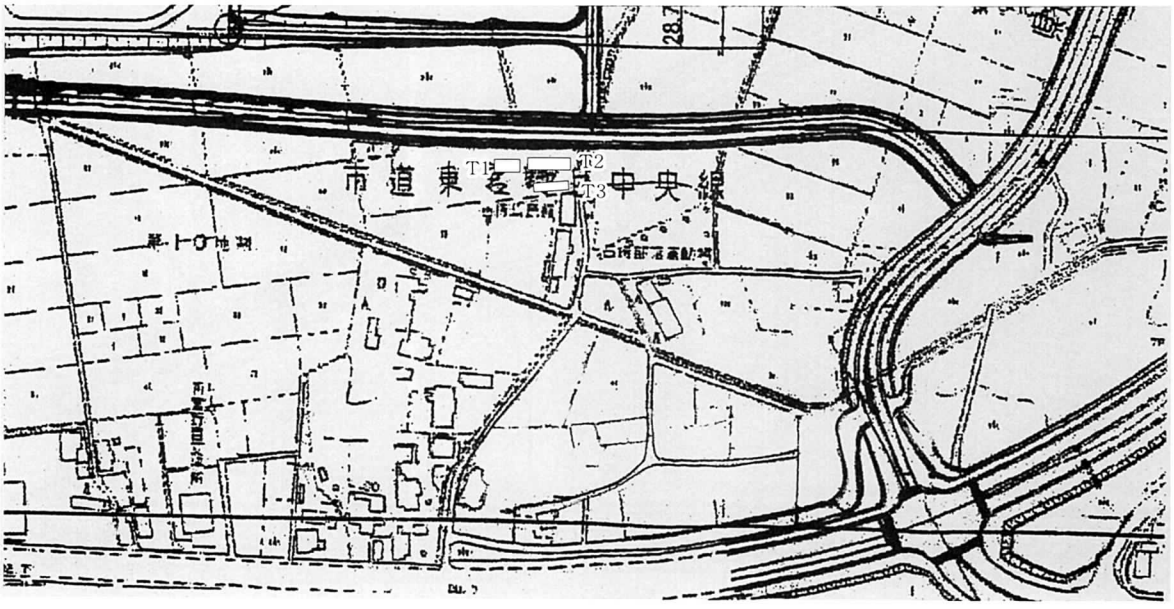
石持Ⅰ遺跡は花巻市役所の北東約３㎞に位置し、北上川によって開析された低地に広がる沖積地の西側に立地する。調査地の現況は休耕田で、周辺の標高は76～78mである。



第80図　石持Ⅰ遺跡位置図

今回の調査は花巻空港整備事業に関わるもの（砂利敷未舗装の駐車場用地箇所）である。平成17年７月には、今回の調査地の南側が同事業により試掘調査されており、その結果から、今回も陥し穴状遺構などの検出が予想された。

調査は重機により幅1.5mのトレンチを２本掘削し、遺構・遺物の有無を確認した。結果、調査地北側の埋没沢部分（Ｔ１）を除くＴ２で幅50～70㎝の縄文時代に属すると思われる陥し穴が２基、Ｔ３では南西から北東方向に走る幅70㎝ほどの溝跡が１条検出された。いずれも遺構の一部分が検出されただけであり、遺構の全体的な規模は不明である。遺物はまったく出土しなかった。（平成21年度以降本発掘調査予定）



第81図　石持Ⅰ遺跡調査区位置図

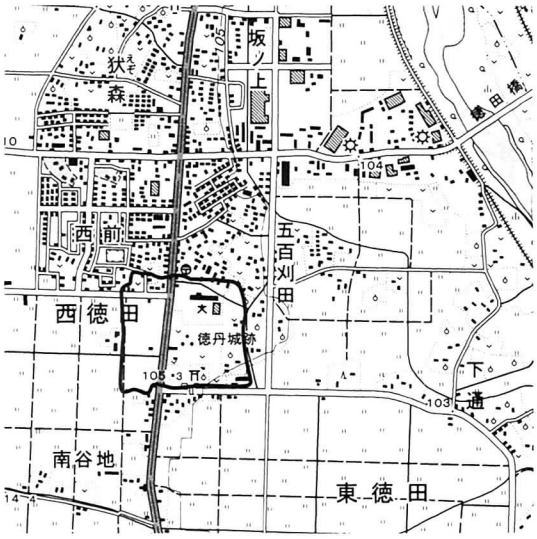
22　経営体育成基盤整備事業徳田第二地区

徳丹城跡（ＬＥ47－1174）隣接地

所在地：紫波郡矢巾町西徳田

事業者：岩手県盛岡地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成20年10月10日

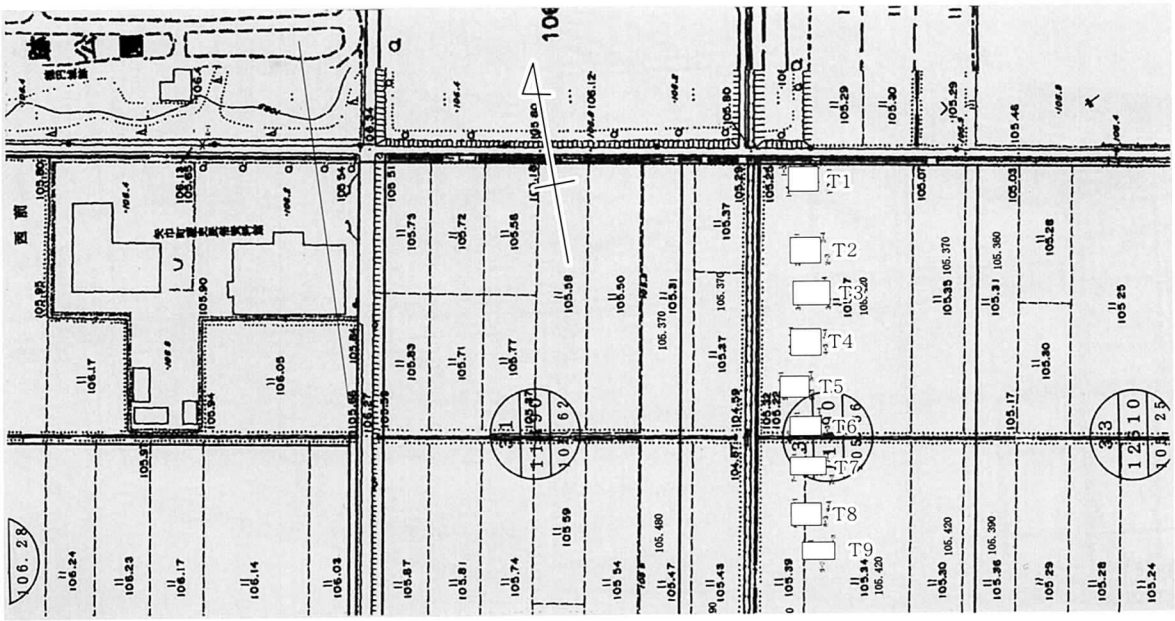


第82図　徳丹城跡位置図

本遺跡は矢巾町役場の東南東約1.4㎞に位置し、北上川右岸の低位段丘上に立地している。今回の調査は、経営体育成基盤整備事業によるもので、平成19年５月に分布調査を行い、埋蔵文化財が所在する可能性ありと回答した地点である。本地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である徳丹城跡（ＬＥ47－1174）に隣接する場所であることから、試掘調査を実施したものである。前回の試掘調査で溝跡が確認されたことから、田面調整の工法を検討するため、今回一部の遺構について調査を行ったものである。徳丹城跡は、９世紀初頭（812年）に創建された古代の城柵跡であり、国史跡に指定されている。

今回の調査範囲に９本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ９）。いずれのトレンチからも昨年度の試掘調査で確認された溝跡が検出されており、これらの溝跡は東西方向に延びることが確認された。西端のＴ９では、溝跡が旧地形の湿地帯と一連となり、掘り込みが消失する状況が確認された。このことから、溝は徳丹城の西側に広がる湿地帯からの導水路の機能を持ち、人為的に掘り込まれたと考えられる。

溝の上幅は２～４ｍで、徳丹城に近い部分では４ｍ弱の一定幅を保つが、西端の起点部分に向かい徐々に狭まることがわかる。深さは0.8m程度である。溝跡の埋土はいずれも自然堆積で、Ⅱ層から土器が出土している。土器はロクロ成形の内面非黒色処理のもので、底部は回転糸切り無調整である。体部下端に手持ちヘラケズリが行われている。色調は橙色である。９世紀前半代のものと考えられ、この溝が徳丹城機能時である９世紀初頭から９世紀前半代には掘削され機能していたことがわかる。



第83図　徳丹城跡調査区位置図

23　経営体育成基盤整備事業南日詰地区

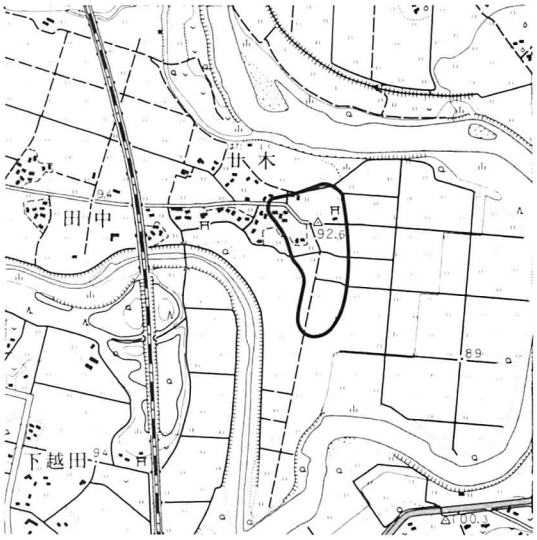
下川原Ⅰ遺跡（LE77－2159）

所在地：紫波郡紫波町南日詰

事業者：盛岡地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成20年８月７日

下川原Ⅰ遺跡はＪＲ東日本日詰駅の南東方向約2.5kmに位置し、標高は約90mの低位段丘面上に立地している。今回の調査区の南西側約700m地点には、一段高い段丘面上にのる西田遺跡が所在する。

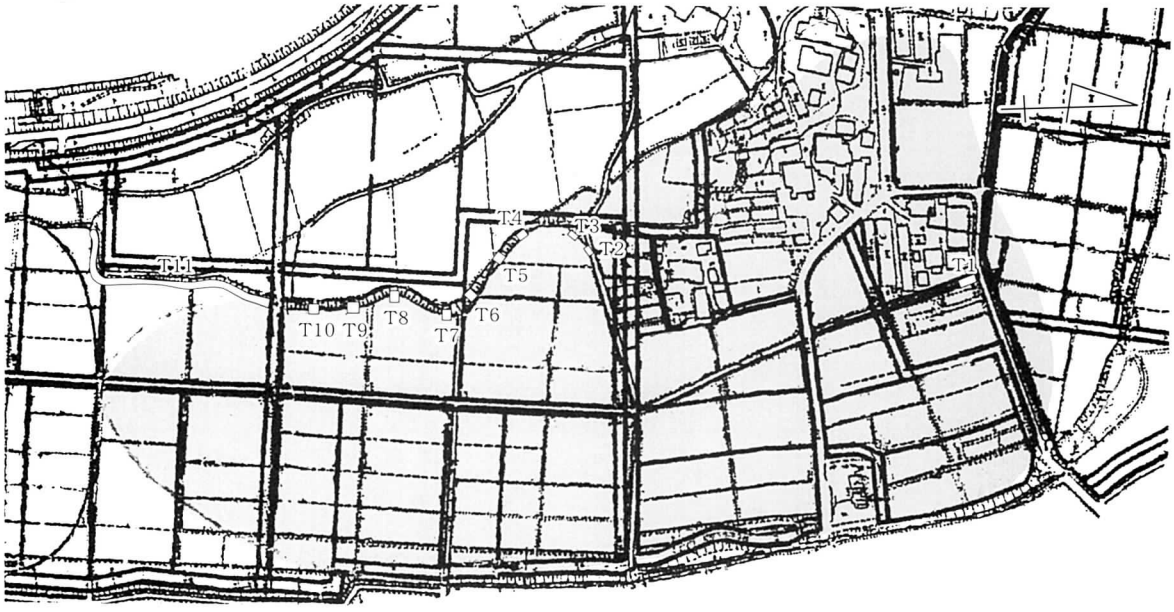


第84図　下河原Ⅰ遺跡位置図

道路部分の調査区Ａは今年度本発掘調査を実施した北側に位置し、全長約100mである。水田土留め部分の調査区Ｂは同じ発掘調査範囲がのる面の西側縁で、全長340mでおよそ南北方向に延びる。

トレンチを11本設定した（Ｔ１～Ｔ11）。調査区Ａの最北端部に２ｍ×８ｍのＴ１を設定した。Ⅳ層上面で柱穴状遺構を６基検出した。直径は30～40cmで、黒褐色土で埋められている。トレンチ内では規則的な配置は見られず、遺物も出土していない。調査区ＢではＴ２～Ｔ10とＴ11を設定した。前者は２ｍ×４ｍ規模で、当該段丘面縁（約１ｍ幅）から西側低位面と約３ｍ差で接する段丘崖状の部分に設定した。いずれのトレンチでもⅢ層が斜面北側に厚く堆積するが、遺物は包含されず、遺構も検出されなかった。Ｔ11は当該段丘面縁に沿って約130mにわたり設定した。現地表面はほぼ平坦であるが、検出面はわずかに南側に傾斜している。遺構は竪穴住居状遺構２棟、溝跡５条、柱穴状遺構１基が調査区北側半分で検出された。住居状遺構１（ＳＩ１）は、カマドと見られる部分と北側にのびる煙道、西側の平面の一部が検出された。カマドと推定される部分には、50cm×60cmの範囲内に半頭大の礫が４～５個に埋まっており、周辺から土師器片などが出土している。北側と西側の平面形から想定される住居状遺構の規模は一辺が約７ｍである。溝跡４条はおよそ東西方向に延び、住居状遺構の北側と南側調査区で検出された。検出面での幅は1.3～1.8mである。南寄りで検出された溝跡１条は南北方向に延び、幅60～40cmで南端は不鮮明となる。いずれの遺構の埋土からも遺物は出土していない。

調査区Ｂの北側部分210mの区間を除き、調査区Ａと調査区Ｂ南側約130mの範囲では上記のような遺構が確認され、検出された遺構の一部は現在進行中の本調査で検出されている遺構と関連があると推測される。



第85図　下河原Ⅰ遺跡調査区位置図

24　中山間地域総合整備事業中居地区

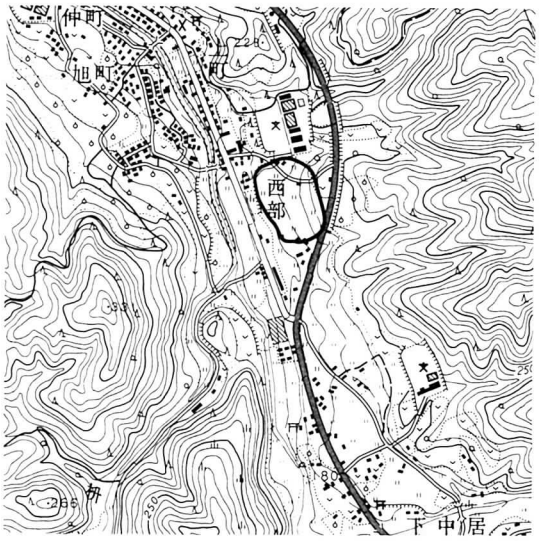
西部遺跡（MF09－0319）

所在地：花巻市大迫町外川目

事業者：県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成20年10月20日、21日

西部遺跡は、花巻市役所の西南西約17㎞に位置する。今回の調査は、中山間地域総合整備事業中居地区に伴うもので、道排水路部分と切り土田面を対象として実施した。遺跡は西向きの斜面に立地し、現況は水田である。本遺跡南側の丘陵部分には下仲居Ⅰ～Ⅲ遺跡が所在し縄文時代中期の遺物等が出土している。

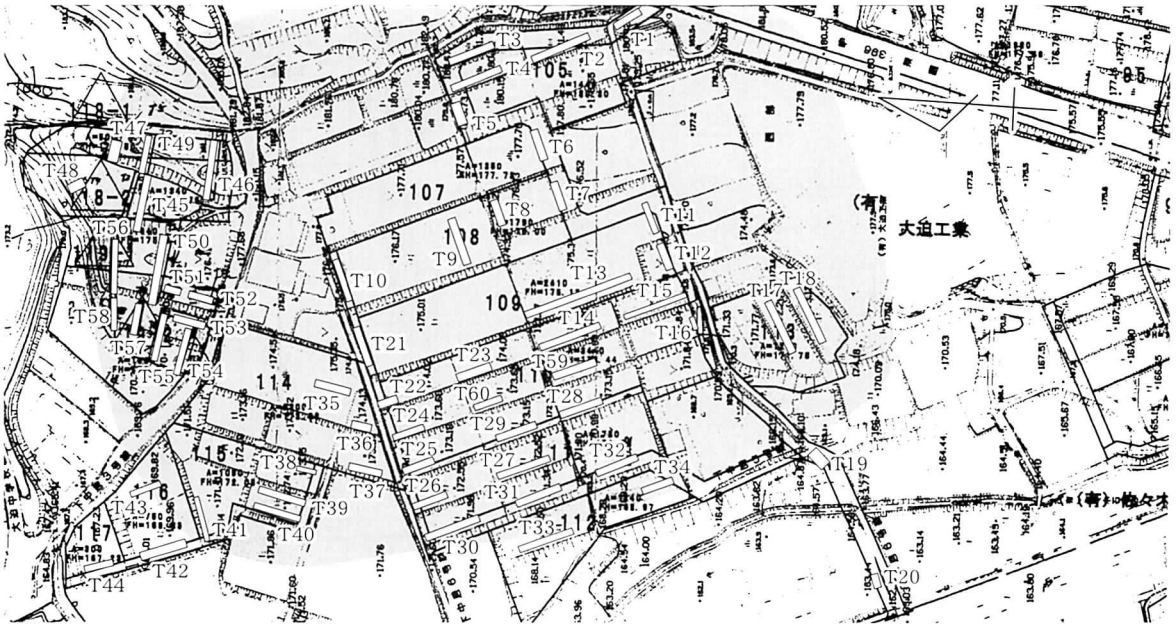


第86図　西部遺跡位置図

今回の調査範囲に60本のトレンチを設定した（Ｔ１～Ｔ60）。現在の宅地の西側緩斜面に設定したＴ21～Ｔ30及びＴ35～Ｔ42及びＴ59の範囲では、縄文時代前期とみられる土器及び土坑が確認された。いずれも、現表土下の黒褐色土層下の暗褐色土層上面で確認された。縄文土器を埋土に含む土坑は、径が100㎝前後のものや40㎝前後のものがあり、埋土は黒色土層である。Ｔ37では、石組の遺構が確認された。これらのことから、竪穴住居等も周辺に所在するものと思われる。以上のことから、この緩斜面には縄文時代の集落跡が所在すると考えられる。Ｔ24付近の一部のトレンチでは、埋土の様相の異なる径20㎝前後の土坑が確認された。周辺の状況から、これらの土坑は金の採掘に伴うものと考えられる。削平等により、検出面とした第Ⅲ層が分布しないこの範囲でも、地山とみられる黄褐色土層上面で遺構を確認することができた。宅地が所在する北側に設定したＴ50～Ｔ58では、Ｔ54の斜面上部で竪穴住居に伴うとみられる焼土等も確認されたほか、９世紀中葉頃とみられる土師器片等が出土している。このことから、今回の遺跡範囲の一部には古代の集落跡も存在すると考えられる。

今回の埋蔵文化財が確認された範囲より斜面上方では、削平等の影響を受け第Ⅲ層が存在せず、第Ⅳ層上面でも埋蔵文化財は確認されなかった。南側には山からの沢が見られ、湿地帯となる範囲であった。

以上の結果、今回の調査範囲内から埋蔵文化財が確認された。西部遺跡は縄文時代前期から中期の集落跡と古代の集落跡であると考えられる。一部には、金の採掘坑跡も所在している。遺跡は現在の宅地周辺を中心に、河岸段丘上の丘陵地の段丘縁付近まで分布していると見られる。段丘縁は現在の田面にもその地形的特徴を残していると考えられる。（平成21年度以降本調査対応予定）



第87図　西部遺跡調査区位置図

25　経営体育成基盤整備事業古城２期地区

水尻遺跡（ＮＥ46－0370）

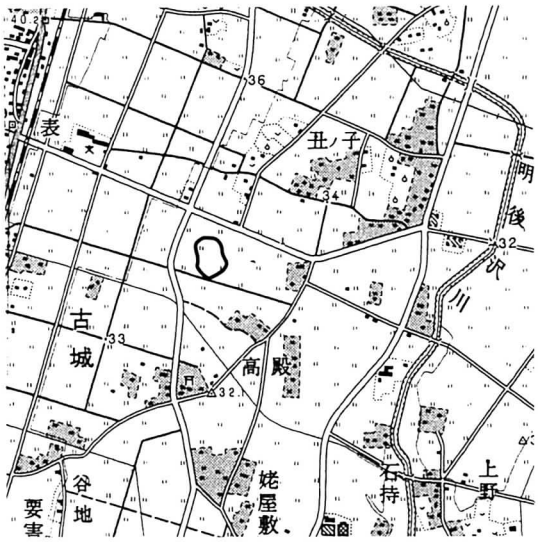
所在地：奥州市前沢区古城字水尻

事業者：県南広域振興局農政部農地整備課農村整備室

調査期日：平成20年11月10日～11日

※試掘調査後、一部範囲拡大

調査区域はＪＲ東日本陸中折居駅の南方向約２㎞に位置する。北上川左岸の低位段丘上にある。標高は約32mである。本調査はほ場整備工事に伴い行われるものである。



第88図　水尻遺跡位置図

基本土層は４層に区分される。Ⅰ層は耕作土及び過去の水田造成等の人為的堆積土、Ⅱ層は地形改変から免れた旧表土、Ⅲ層は、低い面では青灰色粘土～砂礫、高い面では褐色系の粘土、砂礫である。

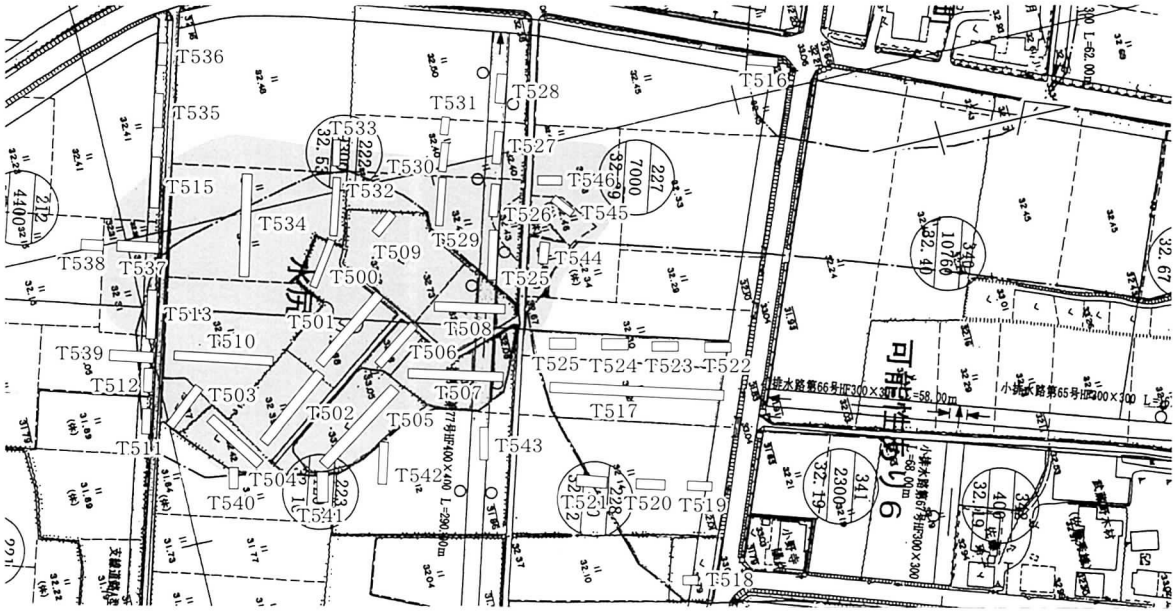
トレンチは47本設定した。T500，501，505，506，508，509は遺跡内微高地に設定した。

Ⅰａ層下位にⅠｂ層が堆積し、Ⅱ層は部分的に分布する。T501ではⅢ層上面で土坑１基、溝跡２条、柱穴23個を検出した。溝跡はともに北東方向にのび、幅１ｍと30㎝である。後者の埋土から摩耗した土器小片が出土した。T544，545，546は北側の微高地状の水田面に設定した。

T544ではⅠａ層直下のⅢ層砂礫で土坑１基、柱穴１個、溝跡１条を検出した。土坑は径50㎝、溝跡は幅が90㎝以上で南北方向にのびる。T511～514、T535～539は農道南側の水田面に設定した。

T537ではⅠａ層直下のⅢ層黄褐色土で土坑１基、溝跡１条、柱穴１基を検出した。土坑は径100㎝で黒褐色埋土から土器小片１点が出土した。溝跡は幅120㎝で東西方向にのびる。

本調査により検出された遺構の分布から、調査区中央部の微高地を含む周辺まで本遺跡が広がることが確認された。



第89図　水尻遺跡調査区位置図

26　経営体育成基盤整備事業古城２期地区

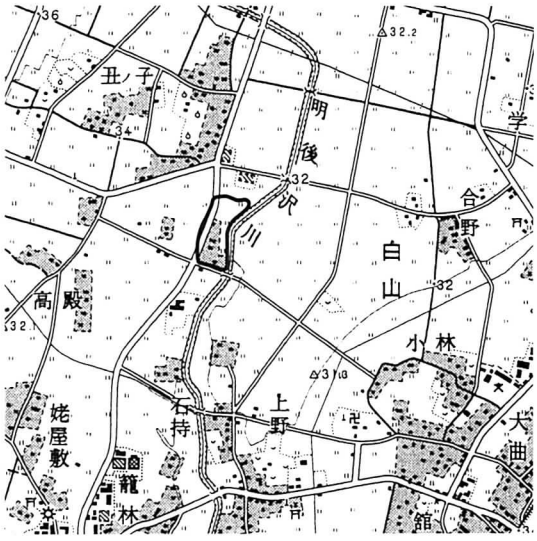
古城方八丁遺跡（ＮＥ46－1307）

所在地：奥州市前沢区古城字宿ノ前

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成20年11月10日、11日

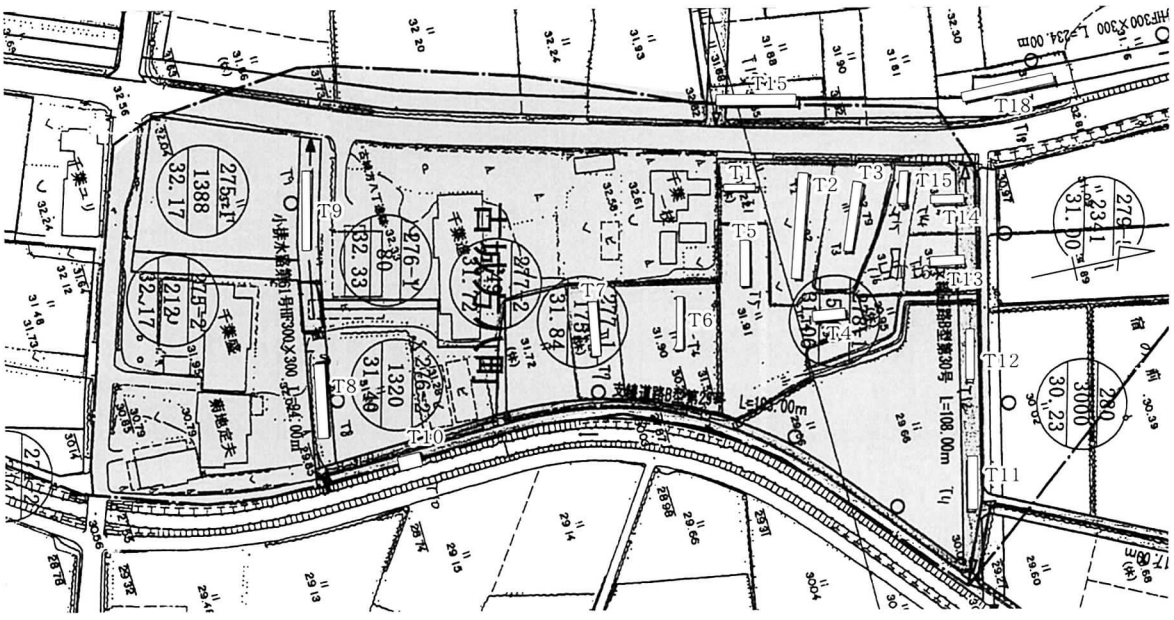
古城方八丁遺跡は、奥州市役所の南約7.8㎞に位置し、北上川右岸の河岸段丘上に立地している。周囲の水田面より、標高の高い微高地上に遺跡は所在する。今回の調査は、経営体育成基盤整備古城地区に伴うもので切り土の田面及び道排水路部分を対象として実施した。



第90図　古城方八丁遺跡位置図

調査対象範囲に19本のトレンチを設定した。（Ｔ１～Ｔ19）Ｔ１～Ｔ３では、古代の土器及び柱穴を第Ⅲ層上面で確認した。Ｔ３で焼土等が確認されたことから、竪穴住居等の存在が推測される。Ｔ５～Ｔ７を設定した範囲では、表土下に第Ⅱ層及び第Ⅲ層の残存が良好でなく、第Ⅳ層が確認され、その上面で遺構を確認した。この範囲では、以前の水田造成時に削平を受けたとみられるが、一部で柱穴等の残存が確認された。現道を挟んだ西側に設定したＴ18及びＴ19では、それぞれ溝跡や柱穴、土坑が確認された。これらの範囲は、他の水田面より標高が高く、削平を受けなかった範囲と考えられる。Ｔ８及びＴ９では、削平のため表土下に第Ⅳ層が確認され、一部がグライ化している状況が確認された。Ｔ10～Ｔ16を設定した範囲は、第Ⅳ層が砂礫を多く含んでおり、旧河道等と見られる。

これらの調査結果から、遺構が確認された現在の宅地部分は周囲より標高の高い箇所となっている。古城方八丁遺跡では、このような状況から微高地上に遺跡が所在すると考えられる。（21年度以降本調査対応予定）



第91図　古城方八丁遺跡調査区位置図

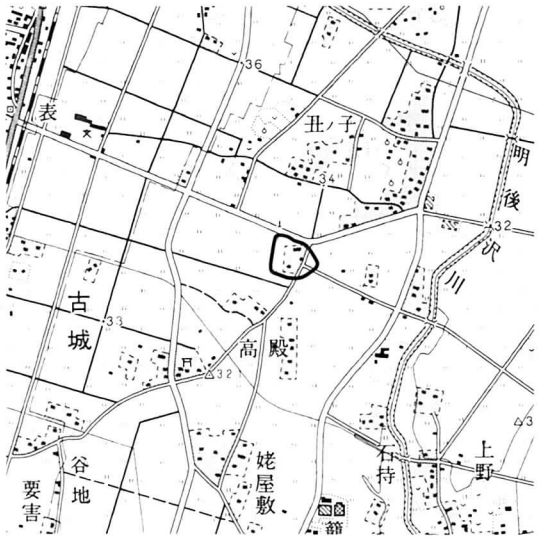
27　経営体育成基盤整備事業古城２期地区

四反田Ⅱ遺跡（ＮＥ46－1301）

所在地：奥州市前沢区古城

事業者：県南広域振興局農政部農地整備課農村整備室

調査期日：平成20年11月10日～11日



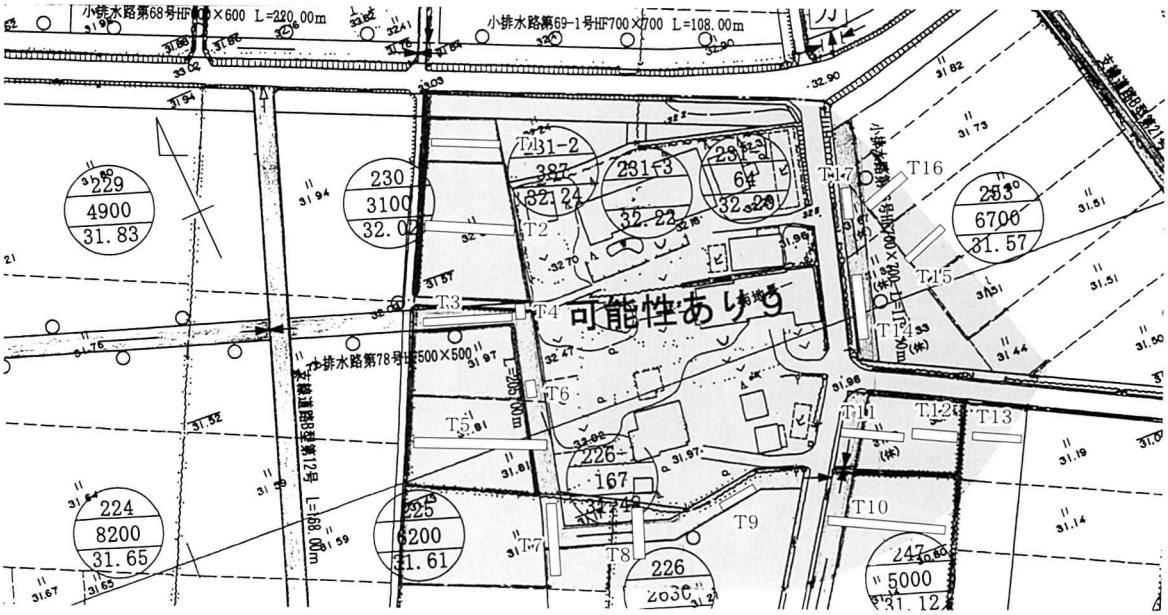
第92図　四反田Ⅱ遺跡位置図

調査区域はＪＲ東日本陸中折居駅の南東方向約２㎞に位置する。北上川左岸の標高は32ｍの低位段丘上にあり、水尻遺跡の東側にある相当する。本調査はほ場整備工事に伴い試掘調査を行ったものである。

基本土層は４層に区分される。Ⅰ層は人為的堆積土、Ⅱ層は旧表土で、Ⅱ層は一部のトレンチで確認される。

トレンチは16本設定した。Ｔ１～Ｔ４ではⅢ層が灰白土や青灰白土である。河道跡等低い部分での堆積物と思われる。Ｔ５、６ではⅠａ層耕作土下位にⅢ層黄褐色土が堆積する。Ｔ５では柱穴２個、溝跡３条が検出された。溝はいずれも南北方向にのび、幅は120㎝と70㎝、70㎝で、埋土は黒褐色土である。柱穴は20㎝で、溝跡と同様な埋土である。Ｔ６では土坑１基、溝跡１条を検出した。土坑は径50㎝、溝跡は東西方向にのび、幅は70㎝である。これらのトレンチを設定した水田は、東に隣接する屋敷地に連続する微高地と考えられ、屋敷地内からは土器片が出土することから遺跡範囲がこの水田まで広がっているとみられる。Ｔ７は、Ｔ５の水田面より約30㎝低く、さらに現田面から30㎝下のⅡ層から流れ込みとみられる土師器小片が少量出土する。屋敷地東側の水田にT10～T17のトレンチを設定した。T13ではⅠａ層下位にⅢ層砂礫層が確認されたが、他のトレンチでは暗褐色土が観察された。遺構は検出されず、遺物も出土しない。

今回の調査により可能性あり９としてくくられた地形面である屋敷地と西に隣接する一部の水田面は、新規の遺跡として確認したものである。（21年度以降本調査対応予定）



第93図　四反田Ⅱ遺跡調査区位置図

28　経営体育成基盤整備事業古城２期地区

高殿Ⅰ遺跡（ＮＥ46－1301）

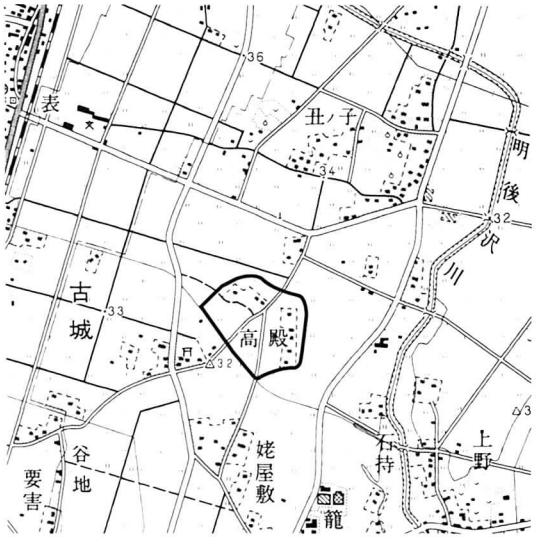
所在地：奥州市前沢区古城

事業者：県南広域振興局農政部農地整備課農村整備室

調査期日：平成20年11月10日～11日

※試掘調査後、Ⅰ、Ⅱに分離

遺跡は、ＪＲ東日本陸中折居駅の南東方向約2.3㎞に位置する。北上川左岸の標高31～32ｍの低位段丘上に立地する。今回の調査対象区は境田遺跡の北側の屋敷地周辺部に相当する。本調査はほ場整備工事に伴い事前に試掘調査を実施したものである。

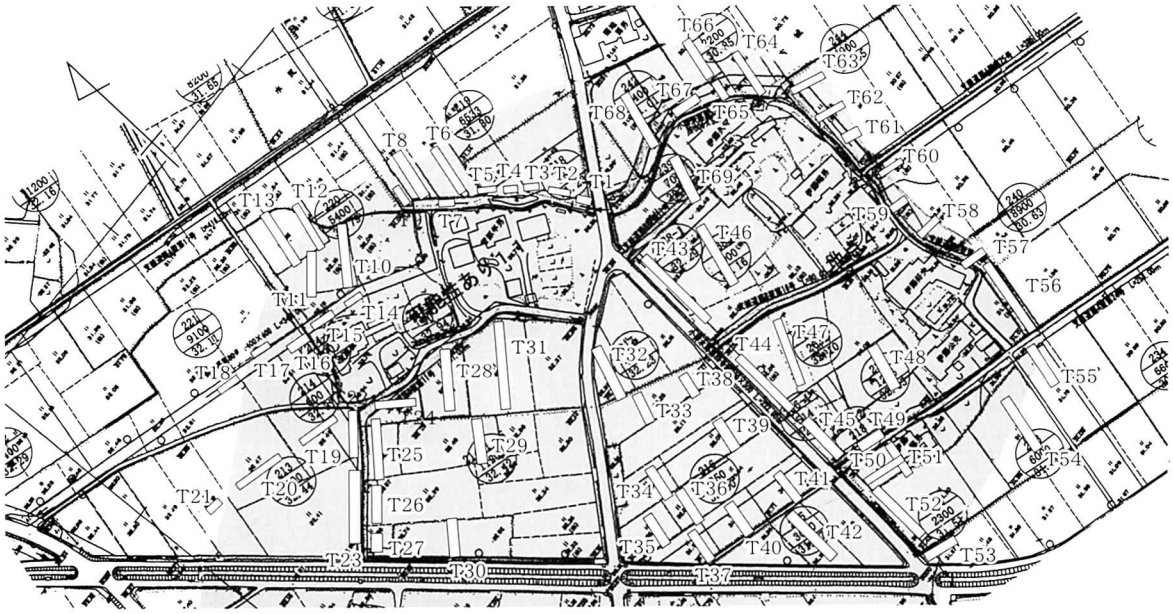


第94図　高殿Ⅰ遺跡位置図

基本土層は６層に区分される。Ⅰ層は人為的堆積土、Ⅱ層は旧表土で、Ⅳ層は地山である。Ⅲ層は旧河道等の低地堆積物で、一部のﾄﾚﾝﾁのⅢｂ層暗褐色土から少量の遺物が出土する。

トレンチは69本設定した。北側排水路の東側範囲にＴ１～Ｔ５、Ｔ９、西側範囲にT14～T18を設定した。東側範囲トレンチは低い水田面に設定した。Ⅰａ層下位にⅢａ～Ⅳ層が堆積する。Ｔ７ではⅢｂ層が65㎝と厚く堆積し、須恵器、土師器小片が少量出土する。南側に隣接する屋敷地からの流れ込み等によるものと見られる。西側範囲部分のトレンチではⅠａ層下位にⅣ層黄褐色土が堆積するが、遺構は検出されず、遺物も出土しない。T10～T13は西側水田に設定した。北側に隣接する水田面より約50㎝高い。Ⅰａ、１ｂ、Ⅱ層がⅣ層黄橙色土層上に堆積する。いずれのトレンチからも遺構は検出されず、遺物も出土しない。

事前協議等で可能性あり11とされた今回の調査範囲には遺跡は確認できないが、南側屋敷地内のＴ７から遺物が出土することと、微高地であることから当該地区は新規の遺跡の可能性が高い。（21年度以降本調査対応予定）



第95図　高殿Ⅰ遺跡調査区位置図

29　経営体育成基盤整備事業白山地区

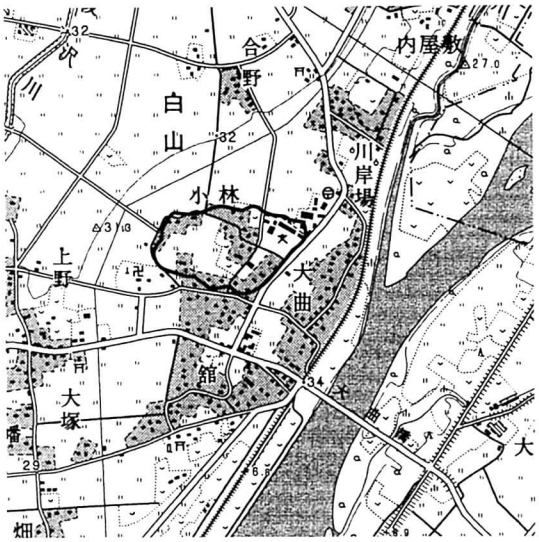
小林繁長遺跡（ＮＥ47－1046）

所在地：奥州市前沢区白山字小林・古宿地内

事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成21年３月11日㈬～12日㈭

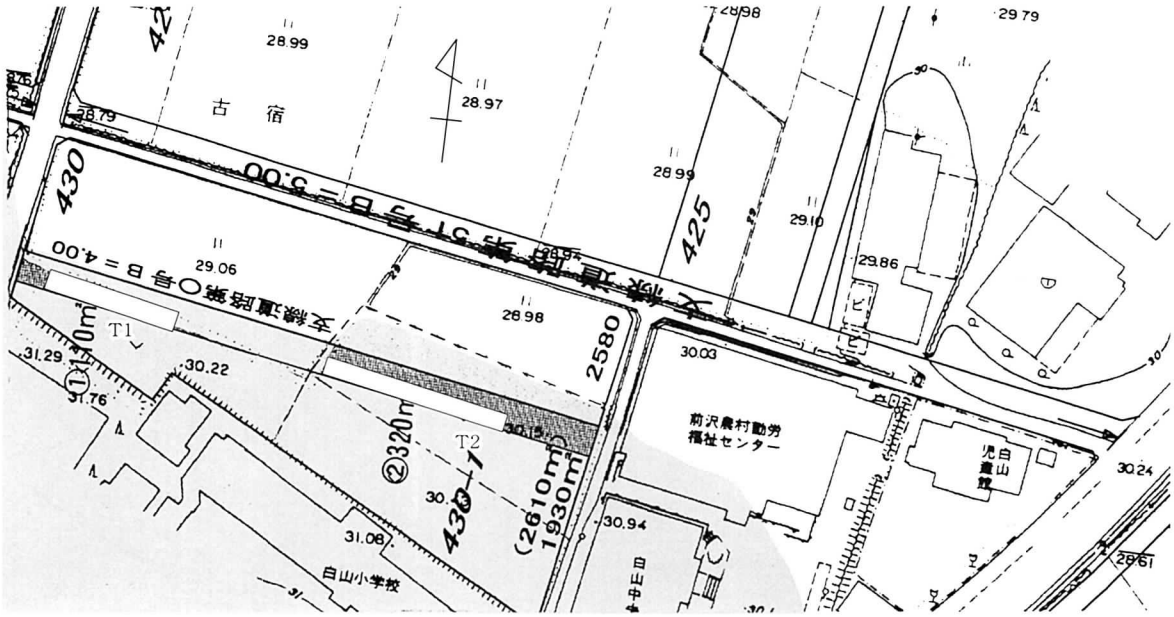
遺跡は、奥州市役所の南南東約8.4㎞に位置し、北上川右岸の自然堤防上に立地している。今回の調査は、平成20年度発掘調査区域に隣接する現道にパイプラインを敷設する工事に伴うものであるが、生活道路であるため事前の試掘調査を実施することができず、工事立会対応とした範囲が対象である。



第96図　小林繁長遺跡位置図

今回の調査では、調査対象区全体については工事立会調査を実施し、遺構が確認された箇所については、試掘トレンチ扱いとして試掘調査を実施した。試掘トレンチは、Ｔ１～Ｔ３である。Ｔ１においては、溝跡１条と柱穴１基が検出された。溝跡の埋土は極暗褐色で、土師器片を含んでいたが、溝跡の上場南側部分はカクランを受けていた。溝跡の幅は約110㎝であった。柱穴は40㎝大の円形で、埋土には土器片が含まれていたが、構築時期は不明である。Ｔ２では、径90㎝大の土坑１基が検出され、埋土には縄文時代中期前葉と推測される土器が含まれていた。Ｔ３は、現舗装道路部分である。縄文時代の土器片を含む土坑２基、土師器片を含む柱穴状土坑１基が検出された。土坑の西側の一部は、かつての道路擁壁工事埋設に伴うものと推測される工事で、カクランを受けていた。

以上のことから、本遺跡範囲は、現状より拡大するものと思われる。



第97図　小林繁長遺跡調査区位置図

30　経営体育成基盤整備事業白山地区

八幡遺跡（ＮＥ46－2317）

所在地：奥州市前沢区白山字八幡

事業者：県南広域振興局農政部農地整備課農村整備室

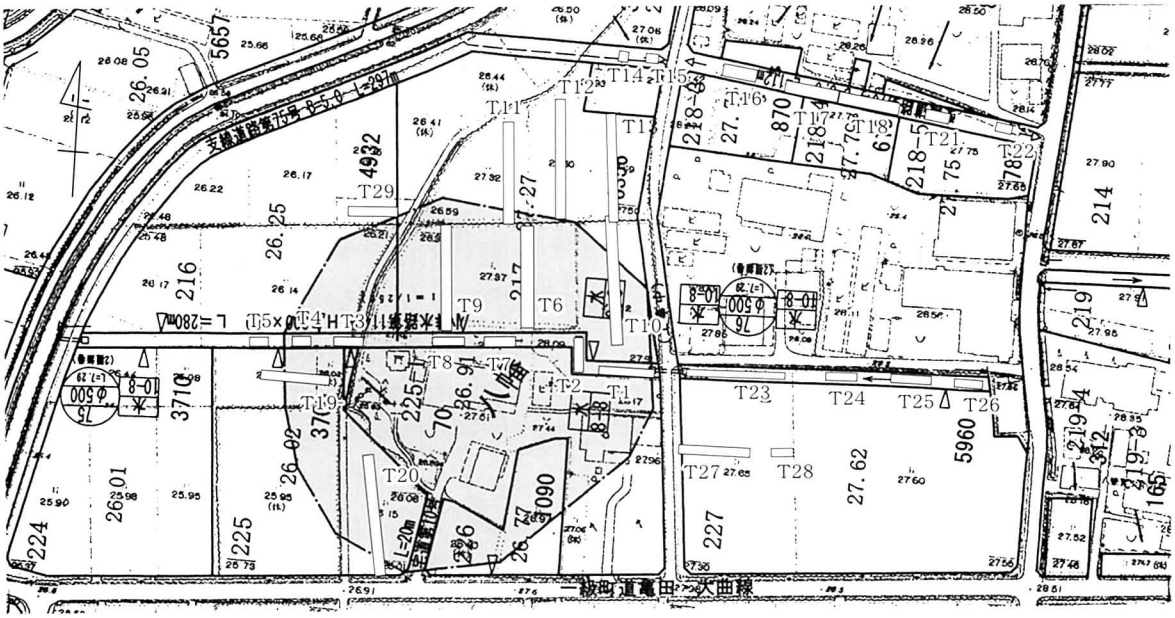
調査期日：平成20年11月４日～６日

調査区域はＪＲ東日本前沢駅の北東方向約2.6㎞に位置している。北上川左岸の標高約28ｍの低位段丘上に立地している。本調査はほ場整備工事に伴い試掘調査を実施したものである。

基本土層は５層に区分される。１層は過去の水田造成等の人為的堆積土、Ⅱ・Ⅲ層は地形改変を受けなかった旧表土，Ⅳ層地山は、低い面では青灰色粘土～砂礫、高い面では褐色系のシルト～粘土である。

第98図　八幡遺跡位置図

今回トレンチを29本設定した。Ｔ７、Ｔ８は遺跡内民家北側畑に設定した。部分的に１ａ層下位にⅡ層が堆積する。Ｔ８ではⅢ層上面で２ｍ×１ｍ以上の住居状遺構の一部とみられる四角形のプランを検出した。埋土から土器小片が１点出土した。Ｔ６・Ｔ９～Ｔ13は畑北側水田に設定した。Ｔ11では１ａ層下位にⅡ、Ⅲ層が、他のトレンチではⅣ層が堆積する。Ｔ６では２ヵ所で楕円形状プランの一部を検出した。埋土から磨耗した土器小片が１点出土した。Ｔ３～Ｔ５、Ｔ19、Ｔ20、Ｔ29は低い水田面に設定した。旧河道跡と見られ、１ａ層下位にはｵﾘｰﾌﾞ褐色土、青灰色砂礫等が堆積する。遺物は出土せず、遺構も検出されない。Ｔ14～Ｔ18、Ｔ21、Ｔ22は北側隣接地休耕田に設定した。周辺地形より50㎝～１ｍ低く、１ａ層がⅣ層灰黄褐色土層上に堆積する。遺物は出土せず、遺構も検出されない。Ｔ23～Ｔ26、Ｔ27、Ｔ28は遺跡東側隣接地水田面に設定した。北側民家寄り部分では一部で１ａ層下位にⅡ層が残存する。Ｔ27、Ｔ28では地山深度が深くなり、旧地形面が南に向けて低くなると推測される。Ｔ23で直径１ｍの楕円土坑を検出した。検出遺構した遺構の埋土を除き、29本のトレンチからは遺物は出土していない。Ｔ６～Ｔ９、Ｔ12、Ｔ13、Ｔ23では遺構が検出されている。これらの調査調査結果から、遺跡範囲は北側及び南側に広がる可能性が高いと推測される。（21年度以降本発掘調査予定）



第99図　八幡遺跡調査区位置図

31　経営体育成基盤整備事業都鳥・都鳥２期地区

川端遺跡（ＮＥ25－0240）

所在地：奥州市前沢区南都田字大道

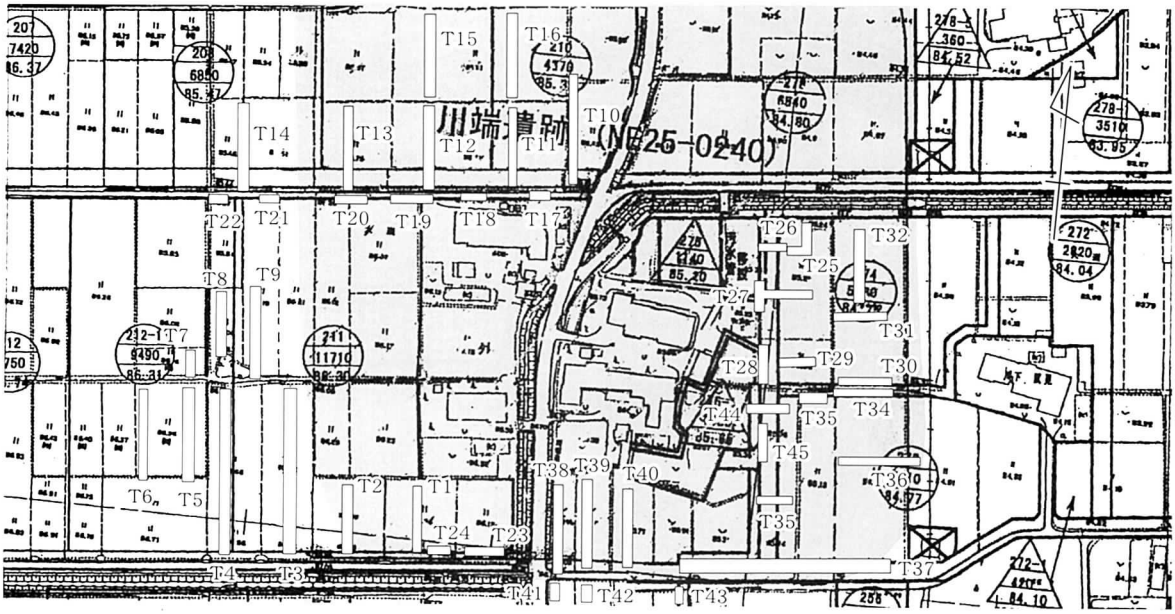
事業者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期日：平成20年10月28日～31日、11月７日

遺跡は奥州市役所の成南西方向約5.0kmに位置し、胆沢扇状地の低位段丘面である水沢段丘面上の微高地上に立地している。遺跡の現況は、宅地及びその周辺の水田・畑地である。今回の調査は、ほ場整備事業に係るもので、切土予定の田面、排水路及び農道敷設予定箇所を対象とした。調査対象箇所に45本のトレンチを設定下（Ｔ１～Ｔ45）。

第100図　川端遺跡位置図

宅地として利用されている微高地の南側水田に設定したＴ１、Ｔ４、Ｔ23、Ｔ24からは柱穴10基、溝跡１条、住居状遺構１棟が検出された。Ｔ１で検出された住居状遺構は、１ｍ×80cmの規模しか残存しておらず、水田造成時の工事による削平を受けているものと思われ、遺構の残存状況は良好ではないと判断した。検出された柱穴は円形を示し、その規模は、概ね径20～30cmであった。Ｔ23で検出された土坑の埋土上面には土師器片が含まれていた。Ｔ37では、自然の沢跡から縄文土器片が１点出土したが、摩滅が顕著なことなどから、流れ込んだものと判断した。遺跡隣接地に設定したＴ41の耕作土から土器片が出土した。摩滅がかなり顕著で時期は不明である。宅地南側の現畑地に設定したＴ38～Ｔ43では、第Ⅲ層の黒色土層に植物根等が多く含まれており、水性堆積によるものと思われる。第Ⅳ層の地山面は南に向かって傾斜し、一部グライ化している箇所もあった。



第101図　川端遺跡調査区位置図

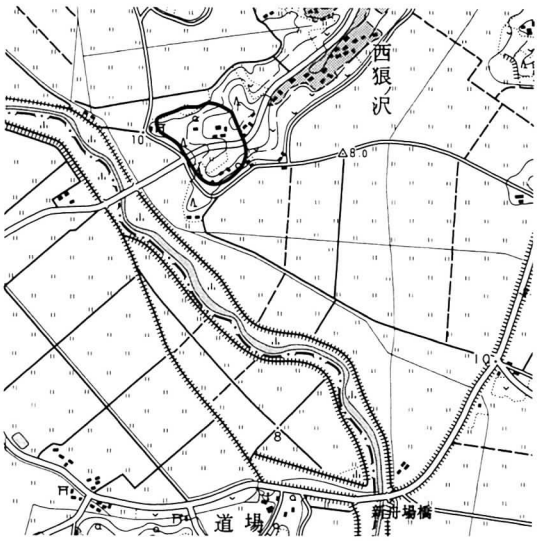
32　経営体育成基盤整備事業事業夏川第２期地区

石崎貝塚（OE58－1002）及び隣接地

所在地：一関市花泉町永井字西狼ノ沢地内

事業者：県南広域振興局一関総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成20年10月23日

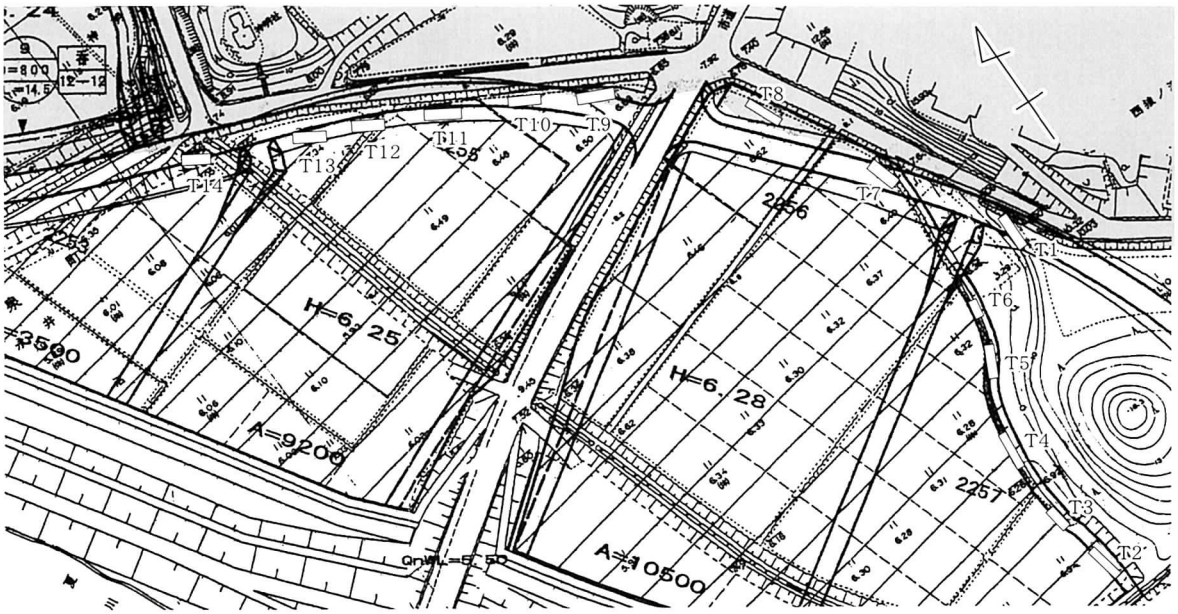


第102図　石崎貝塚位置図

遺跡は、花泉支所から南東約７㎞に位置し夏川左岸の標高７ｍ±の沖積地及び丘陵の末端部に立地している。現況は水田及び雑種地である。今回の調査は農業用排水路を新たに設置するため、周知の埋蔵文化財包蔵地及びその隣接地で試掘調査を実施したものである。

施工予定地に従いＴ１からT14のトレンチを設定した。Ｔ１部分は、約10㎝±の腐植土を除去した段階で縄文土器片が数片出土したためそれ以上の掘削は行わなかった。次に、埋蔵文化財が確認された場合の代替としていた箇所にＴ２からT14のトレンチを設定した。現況は水田となっており、遺跡の末端裾の部分に相当している。水田造成の際に盛土造成されている。旧表土に相当する第Ⅲ層黒色土下部の地山面で埋蔵文化財の調査を行ったが、遺構遺物とも確認されなかった。

今回主に調査を行った遺跡の隣接地に相当する水田部分（沖積地相当）では埋蔵文化財は存在しないと思われる。遺跡の中心部は、Ｔ１トレンチを含む丘陵地上にあるものと思われる。



第103図　石崎貝塚調査区位置図

33　経営体育成基盤整備事業夏川地区

貝鳥貝塚（OE57－0136）隣接地

所在地：一関市花泉町油島字貝鳥地内

事業者：一関総合支局農林部農村整備室農村建設課

調査期日：平成20年10月23日㈭

本遺跡はＪＲ東日本油島駅の南方向約1.7㎞に位置する。調査区域は夏川左岸にあり、蝦島小学校の所在する低平な丘陵から半島状にのびる台地及びその周辺の沖積面に相当する。標高は沖積面で約10ｍである。

本調査は夏川２期地区のほ場整備に伴い実施されたものであり、本遺跡の南端とその南側に隣接する部分で試掘調査を行った。

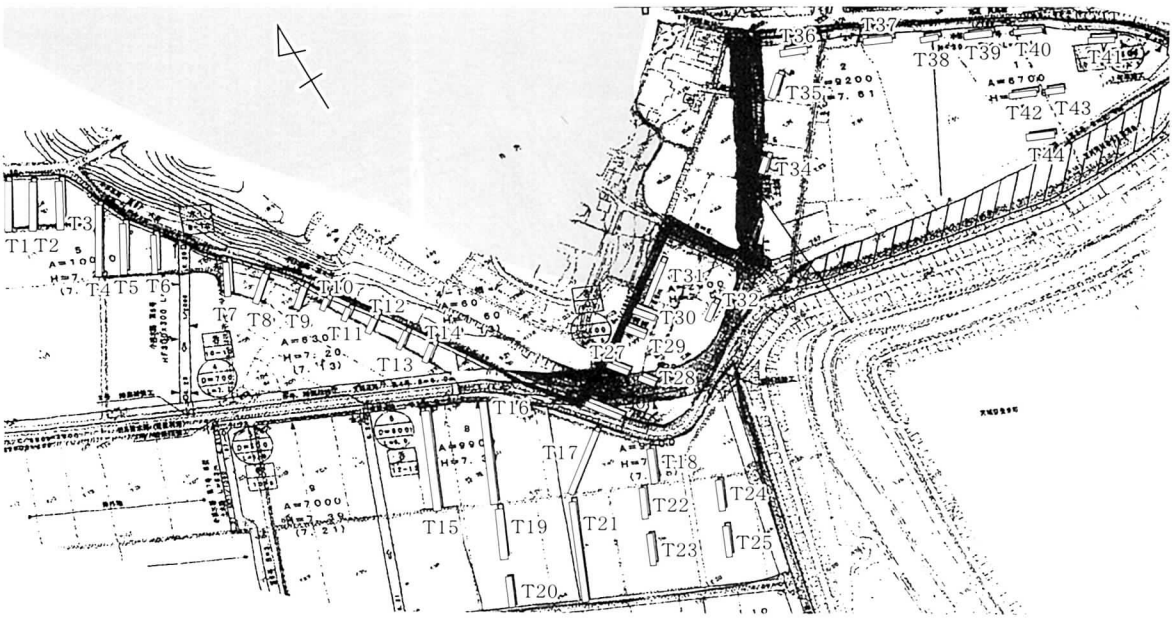
第104図　貝鳥貝塚遺跡位置図

基本土層は４層に区分される。Ⅰ層は水田表土及び旧耕作土、Ⅱ層は盛土で全体的に低い所で確認される。Ⅲ層は旧表土で、夏川に起因する粘土質な堆積物である。部分的に湿地的な部分に堆積した黒色の有機質な堆積物が観察され、白色火山灰がブロック状に介在することがある。Ⅳ層地山は泥質堆積物で、新鮮な部分では青灰色を呈する。Ｔ９周辺の台地に隣接する部分では小砂礫層が確認される。

トレンチは44本設定した。Ｔ２は調査区西側部分にあたる。Ⅲ層直上にⅠ層がのる。トレンチ北端のⅢ層中には白色火山灰が約30㎝厚で堆積する。Ｔ９は台地に隣接する部分で、Ⅲ層から薄手の土器小破片が１点出土した。遺構は検出されず、遺跡本体部分からの流れ込みと考えられる。Ｔ15では水田表土（Ⅰ）下に盛土（Ⅱ）、地山（Ⅲ）がこの順に堆積する。Ⅱ層は約30㎝と厚く盛られている。Ｔ16～Ｔ44は同様な地形面が続き、各トレンチ内の層厚は変化するものの、層順は変わらない。

遺物は一部のトレンチで出土したが、遺構は全てのトレンチで検出されない。

調査結果から、調査区域の本遺跡東南端部分は、遺跡本体がのる面より低い場所にあり、遺跡範囲がここまで広がらない。遺跡に隣接する調査区は地形面が異なり、遺跡が存在しないと考えられる。



第105図　貝鳥貝塚遺跡調査区位置図

34　骨寺村荘園景観保全農地整備事業

骨寺村荘園遺跡（ＮＥ72－2283）

所在地：一関市厳美町字中川、駒形、要害、沖要害、若神子

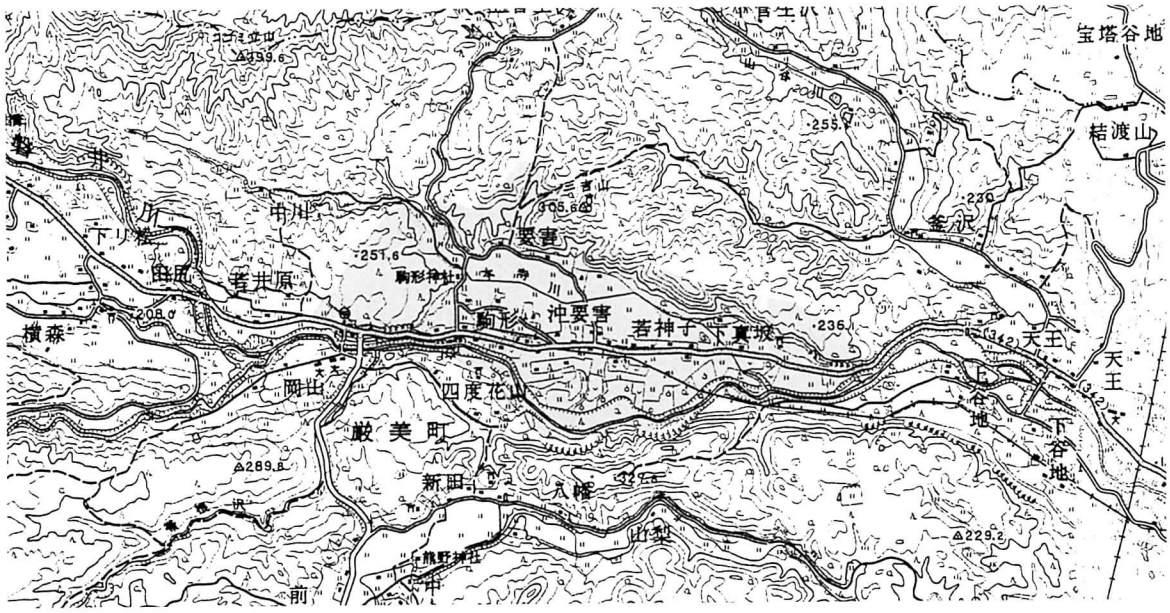
事業者：岩手県県南広域振興局一関総合支局農林部農村整備室

調査期日：平成20年10月20日～11月14日

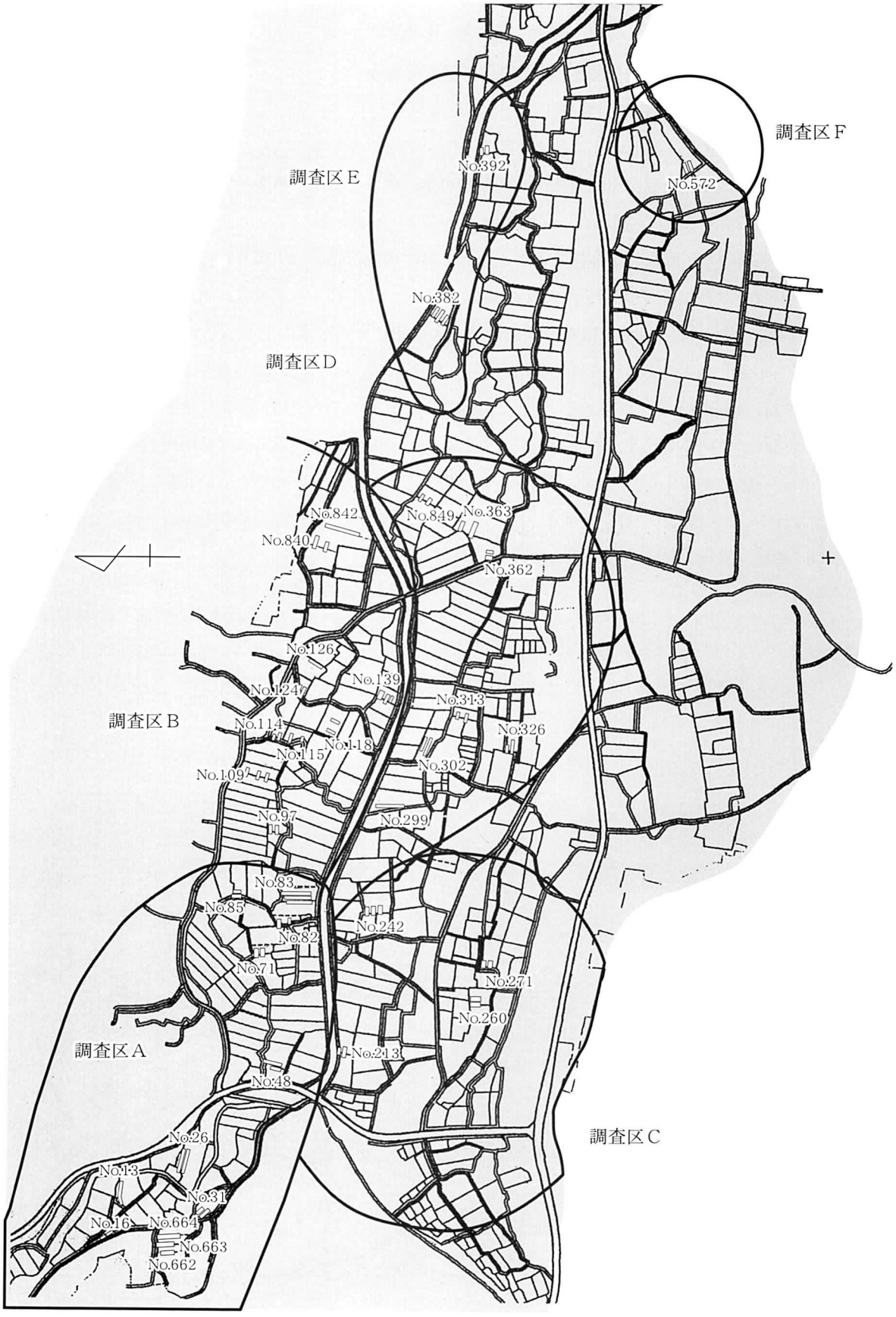
骨寺村荘園遺跡（ＮＥ72－2283）は、本寺地区の水田、宅地、丘陵等のほとんどを含む広い範囲が遺跡となっている。今回の試掘調査は、遺跡地内のほ場整備事業に伴うもので、事業予定地内での遺構、遺物の有無を確認するために実施した。

試掘調査は、現状の水田面より工事施工後の水田面の高さの差が15㎝以上低くなる水田を対象とした。

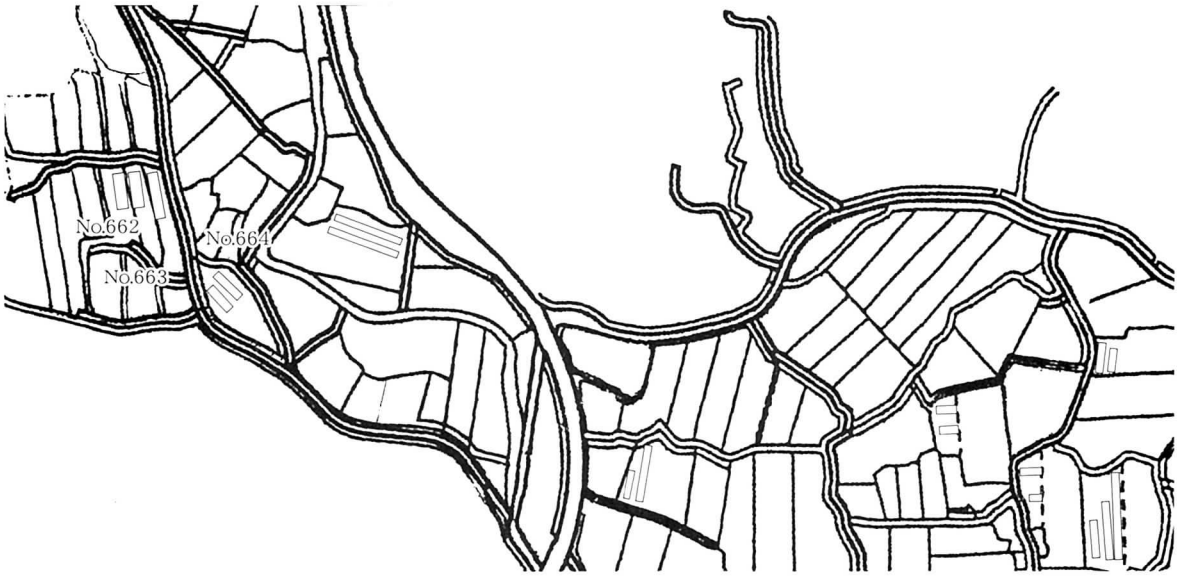
水田面の工事前後の高低差に表土の厚さ15㎝を加えた数値が工事により削平される深さとなるため、その深さまでを対象とした。36ヶ所の水田が対象となり、各水田に１～３本のトレンチを設定して調査を進めた。その結果、４ヶ所の水田より柱穴等の遺構と若干の遺物が見つかった。隣り合う水田No.662、No.663、No.664では、土坑24、柱穴51、溝１が見つかった。水田No.663の北側の黒色土層より縄文土器片が見つかっている。ここには昭和30年代まで民家があったということもあり、見つかった遺構はその当時のものとも思われるが、同じ所から縄文土器片が見つかっており、これらのことより新しい遺構と古い遺構とが混在していることが推測される。水田No.139では、土坑１、柱穴20が見つかったが、遺物は見つからなかった。これら以外の水田から、遺構、遺物は見つからなかった。



第106図　骨寺村荘園遺跡調査区位置図



第107図　骨寺村荘園遺跡調査区位置図



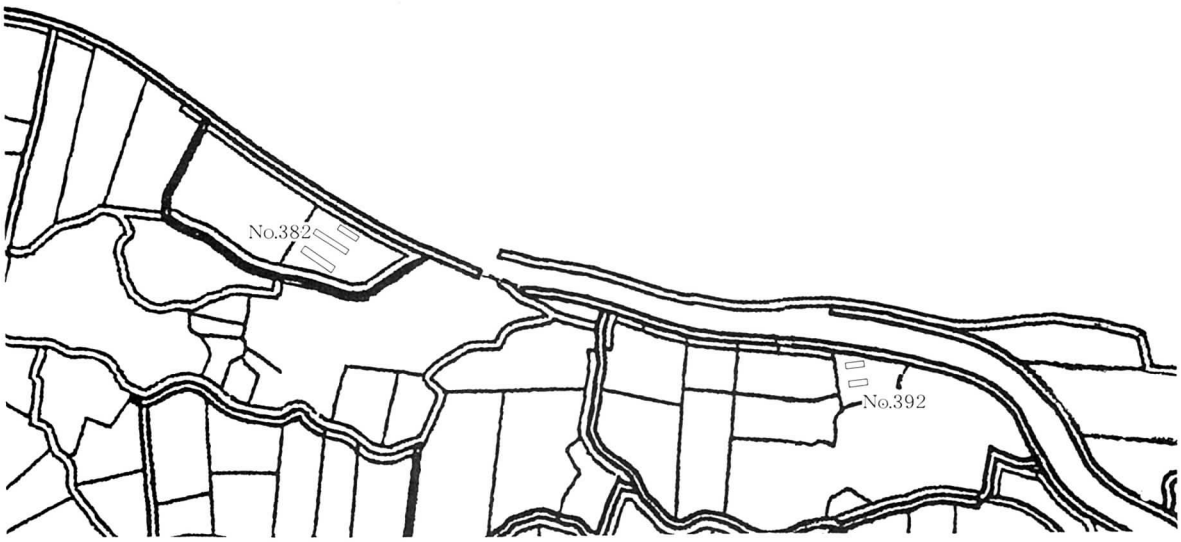
調査区Ａ

調査区Ｂ

調査区Ｃ

第108図　骨寺村荘園遺跡調査区位置図

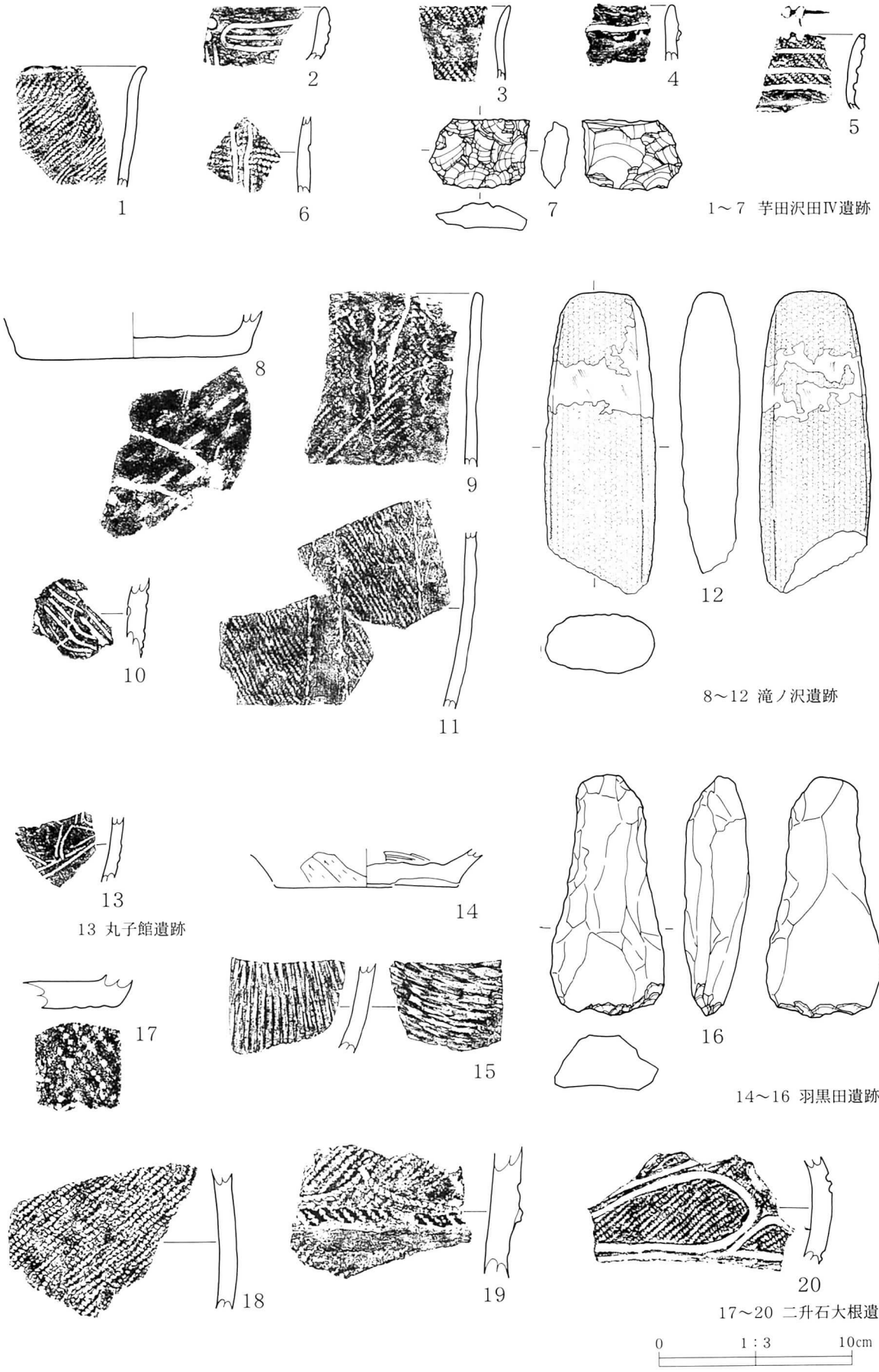
調査区Ｄ



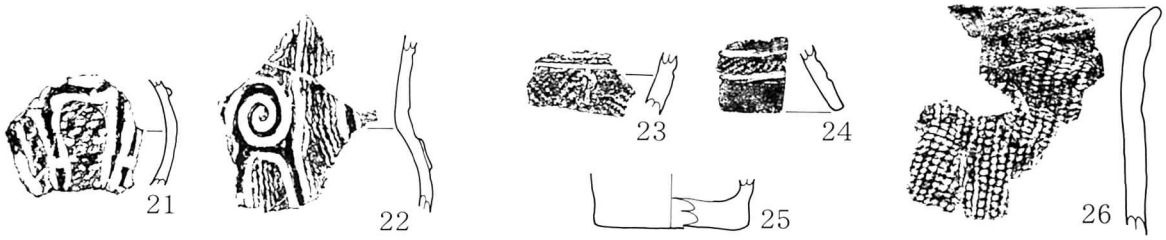
調査区Ｅ

調査区Ｆ

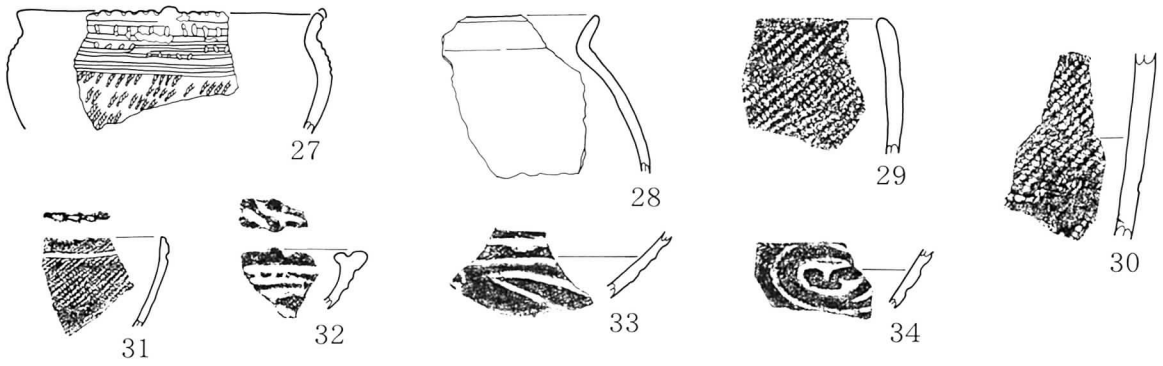
第109図　骨寺村荘園遺跡調査区位置図



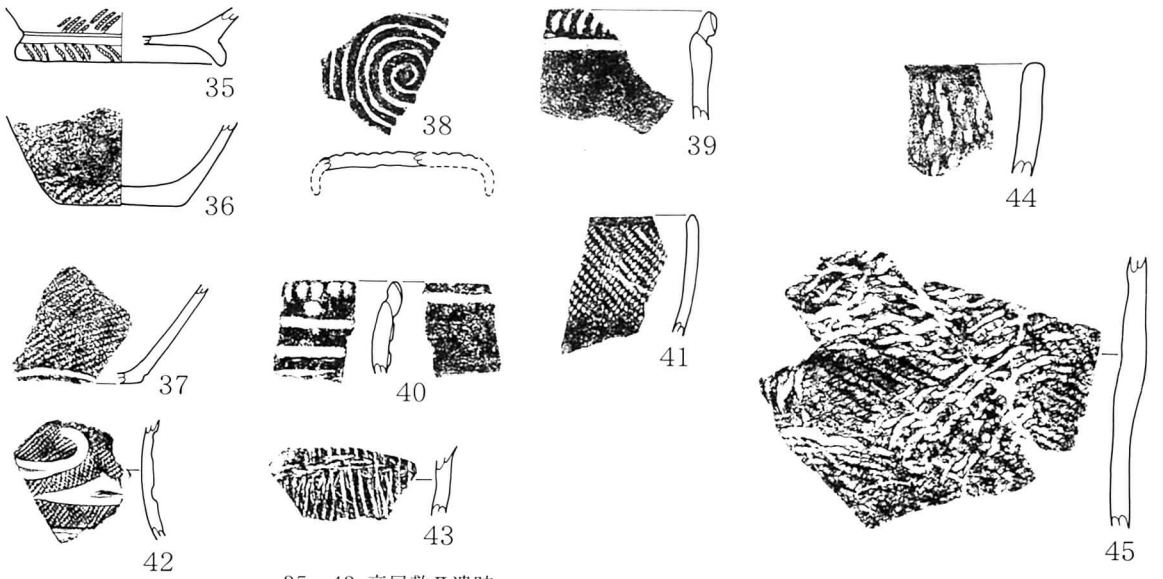
第110図　試掘調査出土遺物（1）



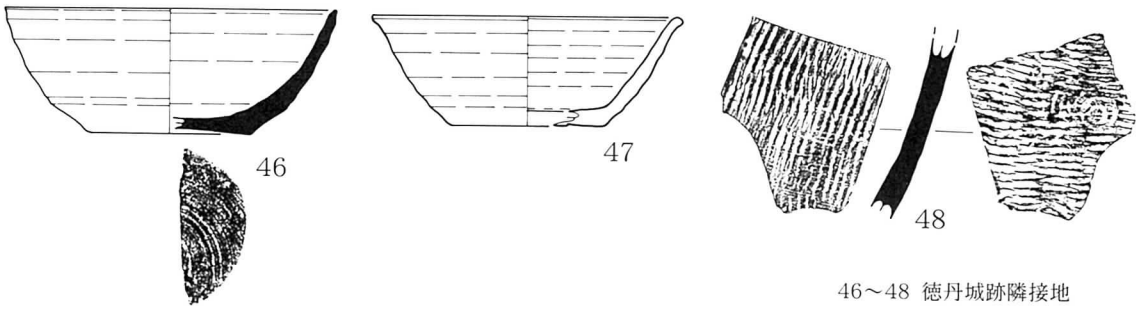
21・22 新田Ⅱ遺跡　　23～26 田代タテ遺跡



27～34 鵜ノ木南台地遺跡



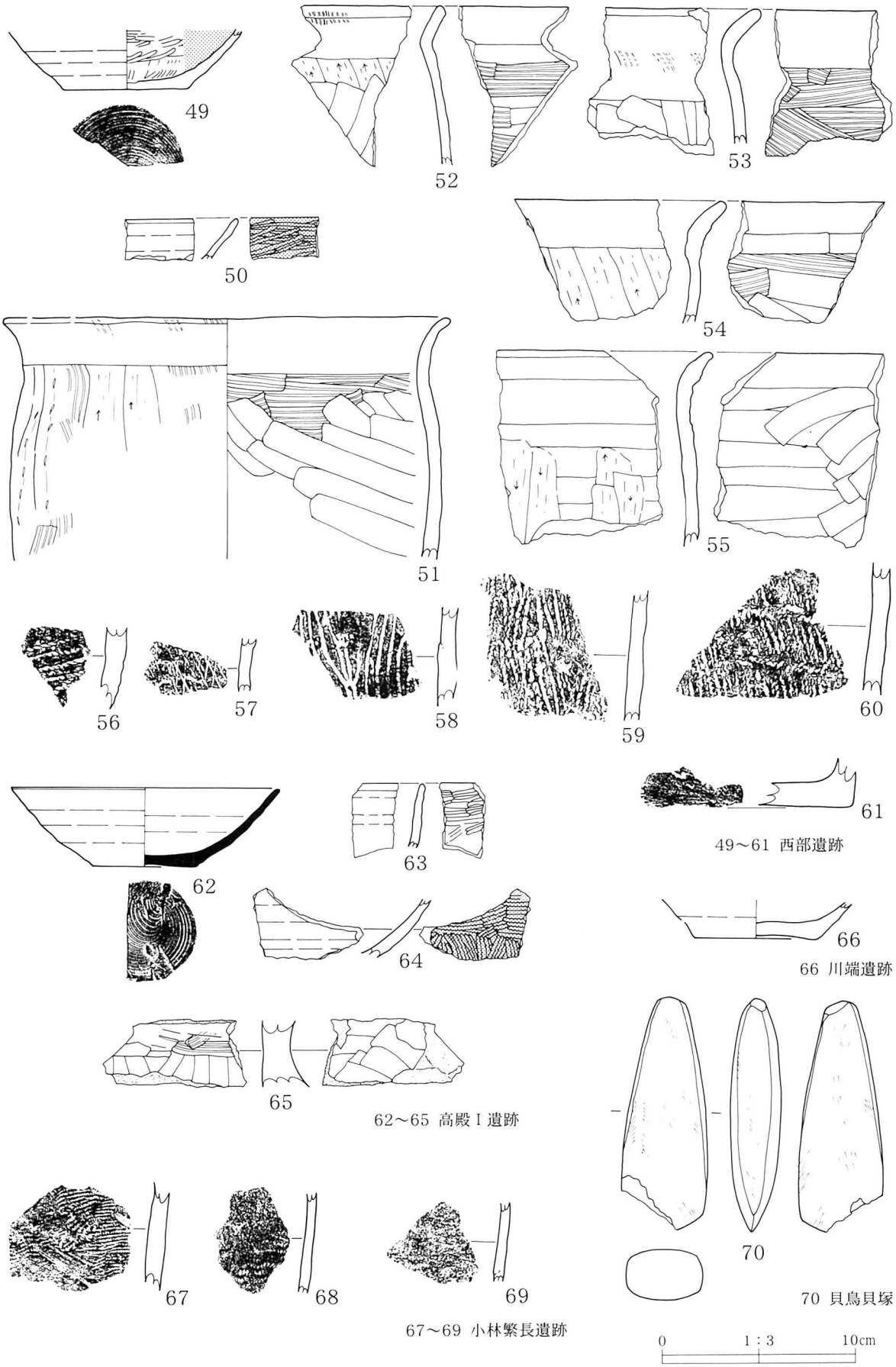
35～43 高屋敷Ⅱ遺跡　　44・45 子飼沢高炉跡



46～48 徳丹城跡隣接地

0　1：3　10cm

第111図　試掘調査出土遺物（2）



第112図　試掘調査出土遺物（3）

番号	遺跡名	層位	種別	器種	特　　徴
1	芋田沢田、遺跡	Ｔ２～４Ⅱ層黒色土～漸移層	縄文	鉢	口縁破片
2	〃	〃	〃	〃	〃
3	〃	Ｔ１	〃	〃	〃
4	〃	Ｔ１	〃	〃	〃
5	〃	Ｔ２～４Ⅱ層黒色土～漸移層	〃	〃	〃
6	〃	〃	〃	〃	〃
7	〃	Ｔ５　２層	石器	不定形	剥片
8	滝ノ沢遺跡	Ｔ３　漸移層	縄文	深鉢	底部網代痕
9	〃	〃　〃	〃	〃	口縁破片
10	〃	〃　〃	〃	〃	胴部破片
11	〃	〃　〃	〃	〃	
12	〃	表採	〃	磨製石斧	前面剥落？
13	丸子館遺跡	Ｔ４	〃	鉢	胴部破片
14	羽黒田遺跡	Ｔ８　竪穴住居状埋土	土師器	甕	底部
15	〃	Ｔ８　竪穴住居状埋土上面	須恵器	甕	胴部破片
16	〃	Ｔ１　包含層	石器	打製石斧	249.7ｇ
17	二升石大根遺跡	Ｔ12　包含層	縄文	深鉢	胴部破片
18	〃	〃	〃	〃	〃
19	〃	〃	〃	〃	〃
20	〃	〃	〃	〃	底部網代痕
21	新田遺跡	竪穴住居状埋土	〃	小型鉢	胴部破片
22	〃	〃	〃	〃	〃
23	田代タテ遺跡	Ｔ19　４層	〃	〃	〃
24	田代タテ遺跡	Ｔ２	〃	高台付鉢	台部片
25	田代タテ遺跡	Ｔ２	〃	鉢	底部
26	田代小畑遺跡		〃	深鉢	口縁破片
27	鵜の木南台地	Ⅱ層	〃	浅鉢	口縁破片　内外面煤付着
28	〃	〃	〃	〃	口縁破片
29	〃	〃	〃	〃	口縁破片　煤付着部分有り
30	〃	〃	〃	深鉢	胴部破片
31	〃	〃	〃	浅鉢	口縁部
32	〃	上段畑	〃	〃	口縁部
33	〃	〃	〃	〃	胴部破片
34	〃	〃	〃	〃	胴部破片
35	高屋敷Ⅱ遺跡	Ｔ10	〃	浅鉢	底部（高台部）
36	〃		〃	鉢	底部
37	〃	Ｔ10	〃	浅鉢	胴部下～底部
38	〃	〃	弥生土器	蓋	渦文
39	〃	〃	縄文	鉢	口縁部
40	〃		〃	鉢	口縁部　端部に刻みあり
41	〃		〃	深鉢」」	口縁部
42	〃	Ｔ10	〃	浅鉢	胴部
43	〃		〃	深鉢	同部
44	子飼沢高炉跡	Ｔ２　黒色土	〃	〃	口縁部
45	〃	Ｔ２　竪穴住居状埋土上面	〃	〃	胴部
46	徳丹城跡	溝	須恵器	坏	ロクロ　あかやき
47	〃	〃	土師器	坏」	ロクロ
48	〃	〃	須恵器	甕	胴部
49	西部遺跡	Ｔ13　１号住居炉跡	土師器	坏	内黒　ミガキ　底部回転糸きり痕
50	〃	Ｔ13　１号住居跡	〃	坏	口縁　内黒　ミガキ
51	〃	Ｔ13　１号住居炉跡	〃	甕	口縁部
52	〃	〃　〃	〃	〃	〃
53	〃	〃　〃	〃	〃	〃
54	〃	〃　〃	〃	〃	〃
55	〃	〃　〃	〃	〃	〃
56	〃		縄文	鉢	胴部
57	〃		〃	鉢	〃
58	〃		〃	深鉢	〃
59	〃		〃	〃	〃
60	〃		〃	〃	〃
61	〃		〃	〃	底部
62	高殿遺跡	Ｔ568	須恵器	坏	同～底部
63	〃	〃	土師器	〃	口縁
64	〃	〃	〃	〃	内黒
65	〃	〃	須恵器系陶器	甕	頸部
66	川端遺跡	Ｔ23	土師器	坏	底部
67	小林繁長遺跡	ＳＫ01	縄文	深鉢」	胴部破片
68	〃	〃	〃	〃	〃
69	〃	〃	〃	〃	〃
70	貝鳥貝塚	Ｔ９	石器	磨製石斧	206.3ｇ
71	上ノ山遺跡	Ｔ７　褐色土	旧石器	石核	511.7ｇ　　写真掲載

第113図　試掘調査掲載遺物一覧表

平成20年度　試掘調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
1	平成20年4月15日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	倉沢10区Ⅰ遺跡	花巻市
2	平成20年4月16日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	羽黒田遺跡隣接地	花巻市
3	平成20年4月21日	河川災害復旧事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	上川端Ⅰ遺跡	花巻市
4	平成20年4月24日～25日	66kv送電線「宮釜線補償金工事」事業	東北電力株式会社岩手支店長	木戸井内Ⅳ遺跡	宮古市
5	平成20年4月30日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム建設事務所長	下嵐江Ⅰ遺跡	奥州市
6	平成20年5月7日	県南青少年の家キャンプ場第2炊事場流し配水管改修工事	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課長	柏山館跡	金ヶ崎町
7	平成20年5月12日	緊急地方道路整備事業	県南広域振興局北上総合支局土木部長	成田岩田堂館跡	北上市
8	平成20年5月14日	主要地方道盛岡環状線土沢地区歩道設置工事	盛岡地方振興局土木部長	土沢遺跡	滝沢村
9	平成20年5月15日	一般国道4号石鳥谷拡幅工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	村境塚遺跡	花巻市
10	平成20年5月20日	緊急地方道路整備事業　主要地方道一関北上線	県南広域振興局土木部長	鵜ノ木館	奥州市
11	平成20年5月20日	緊急地方道路整備事業　主要地方道一関北上線	県南広域振興局土木部長	日坂森遺跡	奥州市
12	平成20年5月22日	一般国道45号普代バイパス事業	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	中村遺跡	普代村
13	平成20年5月26日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所長	玉貫前遺跡	奥州市
14	平成20年5月29日～30日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑥	遠野市
15	平成20年5月29日～30日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑦	遠野市
16	平成20年6月6日	一級河川梁川　河川等災害復旧事業	盛岡地方振興局土木部長	川目A遺跡	盛岡市
17	平成20年6月10日	地域づくり緊急改善事業　笹間地区	県南広域振興局花巻総合支局土木部長	館Ⅰ遺跡	花巻市
18	平成20年6月19日	交通安全施設整備事業	宮古地方振興局土木部長	長根寺Ⅲ遺跡	宮古市
19	平成20年6月17日～18日	一般国道106号都南川目道路工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり③	盛岡市
20	平成20年6月24日～25日	一般国道4号　北上拡幅改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	丸子館遺跡	北上市
21	平成20年7月1日～2日	農用地総合整備事業	独立行政法人森林総合研究所　下閉伊北事務所長	田代タテ遺跡及び隣接地4箇所	田野畑村
22	平成20年7月1日～2日	農用地総合整備事業	独立行政法人森林総合研究所　下閉伊北事務所長	田代小畑遺跡隣接地	田野畑村
23	平成20年7月1日～2日	農用地総合整備事業	独立行政法人森林総合研究所　下閉伊北事務所長	田代イクアエ遺跡及び隣接地5箇所	田野畑村
24	平成20年7月3日	通常砂防事業	釜石地方振興局土木部長	横瀬遺跡	釜石市
25	平成20年7月3日	緊急地方道路整備事業	釜石地方振興局土木部長	可能性あり④	釜石市
26	平成20年7月4日	緊急地方道路整備事業	釜石地方振興局土木部長	可能性あり⑤	釜石市
27	平成20年7月8日～9日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑥	遠野市
28	平成20年7月8日～9日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑦	遠野市
29	平成20年7月15日～16日	緊急地方道路整備事業　主要地方道北上東和線	県南広域振興局北上総合支局土木部長	舟渡Ⅰ遺跡	北上市
30	平成20年7月17日	緊急地方道路整備事業	県南広域振興局北上総合支局土木部長	三坊木遺跡	北上市
31	平成20年7月28日	新田野地区予防治山事業	二戸地方振興局土木部長	上町遺跡	二戸市
32	平成20年7月29日	一般国道4号北上拡幅改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	滝ノ沢遺跡	北上市
33	平成20年7月29日	一般国道4号北上拡幅改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	丸子館跡	北上市
34	平成20年7月29日	地域づくり緊急改善事業　緊急改善事業	県南広域振興局花巻総合支局土木部長	保沢川遺跡隣接地	花巻市
35	平成20年8月1日	広域公園整備事業	盛岡地方振興局土木部長	御所野ⅢA遺跡隣接地	雫石町

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
36	平成20年8月4日～5日	一般国道45号宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅲ遺跡	宮古市
37	平成20年8月5日	一般国道45号宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅱ遺跡	宮古市
38	平成20年8月5日	一般国道45号宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	駒込Ⅰ遺跡	宮古市
39	平成20年8月5日	馬淵川沿岸（二期）農業水利事業	農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	穴牛遺跡隣接地	二戸市
40	平成20年8月5日	馬淵川沿岸（二期）農業水利事業	農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	中穴牛遺跡	二戸市
41	平成20年8月5日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	不動館跡隣接地	二戸市
42	平成20年8月7日	経営体育成基盤整備事業（南日詰地区）	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	下川原Ⅰ遺跡	紫波町
43	平成20年8月18日	一般国道45号宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅰ遺跡	宮古市
44	平成20年8月18日	一般国道45号宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅲ遺跡	宮古市
45	平成20年8月20日	県単治山事業（崩壊地復旧）	宮古地方振興局林務部長	山崎館跡	宮古市
46	平成20年8月22日	中山間地域総合整備事業	二戸地方振興局農政部農村整備室長	駒板4遺跡	軽米町
47	平成20年8月22日	中山間地域総合整備事業	二戸地方振興局農政部農村整備室長	まつっこ遺跡	軽米町
48	平成20年8月26日	津付ダム建設事業	大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所長	落合Ⅱ遺跡	住田町
49	平成20年8月26日	津付ダム建設事業	大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所長	落合Ⅲ遺跡	住田町
50	平成20年8月28日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム建設事務所長	坪渕Ⅰ遺跡	奥州市
51	平成20年8月29日	一般国道4号上堂自歩道事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	上堂頭遺跡	盛岡市
52	平成20年9月1日	経営体育成基盤整備事業　南日詰地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	下川原Ⅱ遺跡	紫波町
53	平成20年9月1日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	大宮北遺跡	盛岡市
54	平成20年10月2日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	大宮遺跡	盛岡市
55	平成20年9月2日～5日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所長	平根原Ⅰ遺跡	奥州市
56	平成20年9月2日～5日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所長	平根原Ⅱ遺跡	奥州市
57	平成20年9月5日	地域づくり緊急改善事業	県南広域振興局花巻総合支局土木部長	大谷地Ⅲ遺跡	花巻市
58	平成20年9月10日	中山間地域総合整備事業　大槌地区	大船渡地方振興局農林部長	和野遺跡隣接地	大槌町
59	平成20年9月11日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）舌崎地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	雨滝遺跡	二戸市
60	平成20年9月17日	交通安全施設整備事業	宮古地方振興局土木部長	長根寺Ⅲ遺跡	宮古市
61	平成20年9月17日	復旧治山事業（古川戸地区）	盛岡地方振興局長	古川戸遺跡隣接地	葛巻町
62	平成20年9月26日	新農業水利システム保全整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	柏原館遺跡	奥州市
63	平成20年9月26日	中山間地域総合整備事業　町井地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室長	奈良野遺跡	花巻市
64	平成20年9月29日	一般国道4号渋民バイパス改築工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	昼久保Ⅱ遺跡	盛岡市
65	平成20年9月29日	新農業水利システム保全整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり1	奥州市
66	平成20年9月29日	新農業水利システム保全整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり2	奥州市
67	平成20年9月29日	新農業水利システム保全整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり3	奥州市
68	平成20年9月29日	新農業水利システム保全整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり4	奥州市
69	平成20年9月29日	新農業水利システム保全整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	藤の森古墳	奥州市
70	平成20年9月30日	新農業水利システム保全整備事業　白岩地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	丸太Ⅱ遺跡	奥州市
71	平成20年9月30日	中山間地域総合整備事業　野田地区	久慈地方振興局農政部農村整備室長	平清水Ⅲ遺跡	野田村

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
72	平成20年10月1日	林業地域総合整備事業	二戸地方振興局土木部長	門前遺跡	一戸町
73	平成20年10月1日	緊急地方道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	高柳遺跡及び隣接地	滝沢村
74	平成20年10月2日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	大宮遺跡	盛岡市
75	平成20年10月2日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	小林遺跡	盛岡市
76	平成20年10月2日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	水門遺跡	盛岡市
77	平成20年10月6日～7日	総合流域防災事業	盛岡地方振興局土木部長	西鹿渡遺跡	盛岡市
78	平成20年10月7日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所長	広瀬Ⅱ遺跡隣接地	雫石町
79	平成20年10月8日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	沼館遺跡	奥州市
80	平成20年10月8日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	別当遺跡隣接地	奥州市
81	平成20年10月8日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	沼ノ上Ⅱ遺跡	奥州市
82	平成20年10月8日～9日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	沼ノ上Ⅰ遺跡	奥州市
83	平成20年10月10日	経営体育成基盤整備事業　徳田第二地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	徳丹城跡隣接地	矢巾町
84	平成20年10月14日	中山間地域総合整備事業　大清水地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	まつっこ遺跡	軽米町
85	平成20年10月14日	中山間地域総合整備事業　大清水地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	梁ヶ沢、梁ヶ沢2遺跡	軽米町
86	平成20年10月15日	総合流域防災事業（砂防）	久慈地方振興局土木部長	中清水Ⅰ遺跡	久慈市
87	平成20年10月14日～15日	津付ダム建設事業	大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所長	子飼沢Ⅱ遺跡	住田町
88	平成20年10月14日～15日	津付ダム建設事業	大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所長	可能性あり③	住田町
89	平成20年10月16日	県南青少年の家キャンプ場第2炊事場流し配水管改修工事	教育委員会事務局生涯学習文化課総括課長	柏山館跡	金ヶ崎町
90	平成20年10月16日～17日	経営体育成基盤整備事業　徳田第二地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	徳丹城跡隣接地	矢巾町
91	平成20年10月16日～17日	経営体育成基盤整備事業　徳田第二地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	川村遺跡隣接地	矢巾町
92	平成20年10月16日～17日	経営体育成基盤整備事業　徳田第二地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	下通遺跡隣接地	矢巾町
93	平成20年10月17日	広域公園整備事業	盛岡地方振興局土木部長	町場Ⅱ遺跡隣接地	雫石町
94	平成20年10月20日～21日	中山間地域総合整備事業　中居地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室長	西部遺跡	花巻市
95	平成20年10月20日～21日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	沼ノ上Ⅰ遺跡	奥州市
96	平成20年10月21日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北天間Ⅰ遺跡	奥州市
97	平成20年10月22日	経営体育成基盤整備事業　黒岩第1地区	県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室長	三坊木遺跡	北上市
98	平成20年10月23日	経営体育成基盤整備事業　夏川第2期地区	県南広域振興局一関総合支局農林部農村整備室長	貝鳥貝塚遺跡隣接地	一関市
99	平成20年10月23日	経営体育成基盤整備事業　夏川第2期地区	県南広域振興局一関総合支局農林部農村整備室長	石崎遺跡	一関市
100	平成20年10月23日	経営体育成基盤整備事業　土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部遠野農林センター所長	可能性あり	遠野市
101	平成20年10月23日～24日	経営体育成基盤整備事業　土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部遠野農林センター所長	五日市Ⅱ	遠野市
102	平成20年10月23日～24日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	塩ヶ森Ⅳ遺跡	雫石町
103	平成20年10月23日～24日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	御所野Ⅲ A 遺跡	雫石町
104	平成20年10月23日～24日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	御所野Ⅲ B 遺跡	雫石町
105	平成20年10月23日～24日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	御所野Ⅴ遺跡	雫石町
106	平成20年10月23日～24日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	塩ヶ森Ⅸ遺跡	雫石町
107	平成20年10月23日	北上川上流流域下水道事業	北上川上流流域下水道事務所長	広瀬Ⅱ遺跡隣接地	雫石町

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
108	平成20年10月24日	中山間地域総合整備事業	中山間地域総合整備事業猿沢地区	板倉遺跡隣接地	一関市
109	平成20年10月27日	一般国道４号改築工事　渋民バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	沢田Ⅳ遺跡	盛岡市
110	平成20年10月27日	一般国道４号改築工事　渋民バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	武道・遺跡及び可能性あり	盛岡市
111	平成20年10月27日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性ありNo.７－②	金ヶ崎町
112	平成20年10月27日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北長根道合遺跡及び可能性ありNo.８	金ヶ崎町
113	平成20年10月28日～31日	経営体育成基盤整備事業　都鳥地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	国分遺跡	奥州市
114	平成20年10月30日	中山間地域総合整備事業　野田地区	久慈地方振興局農政部農村整備室長	野田城遺跡	野田村
115	平成20年10月30日	中山間地域総合整備事業　野田地区	久慈地方振興局農政部農村整備室長	平清水Ⅰ遺跡	野田村
116	平成20年10月31日	経営体育成基盤整備事業　都鳥地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	国分遺跡隣接可能性あり	奥州市
117	平成20年10月28日～31日	経営体育成基盤整備事業　都鳥地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	川端遺跡	奥州市
118	平成20年10月31日	林道整備事業	宮古地方振興局土木部長	上三田貝Ⅲ遺跡	岩泉町
119	平成20年10月31日	林道整備事業	宮古地方振興局土木部長	上三田貝Ⅳ遺跡及び隣接地	岩泉町
120	平成20年11月４日～５日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	上麻生城跡	奥州市
121	平成20年11月４日～６日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	八幡遺跡隣接地	奥州市
122	平成20年11月５日～６日	経営体育成基盤整備事業　土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部遠野農林センター所長	五日市Ⅰ	遠野市
123	平成20年11月５日～６日	経営体育成基盤整備事業　土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部遠野農林センター所長	五日市Ⅱ	遠野市
124	平成20年11月６日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	迎畑遺跡隣接地	奥州市
125	平成20年11月７日	経営体育成基盤整備事業　都鳥地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	川端遺跡	奥州市
126	平成20年11月７日	経営体育成基盤整備事業　都鳥地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	堤遺跡	奥州市
127	平成20年11月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	内ノ町遺跡	奥州市
128	平成20年11月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	水尻遺跡	奥州市
129	平成20年11月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	古城方八丁遺跡	奥州市
130	平成20年11月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり６	奥州市
131	平成20年11月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり５	奥州市
132	平成20年11月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり８	奥州市
133	平成20年11月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり９	奥州市
134	平成20年11月10日～11日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり11	奥州市
135	平成20年11月13日～14日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり５	奥州市
136	平成20年11月13日～14日	経営体育成基盤整備事業　古城２期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり８	奥州市
137	平成20年11月17日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	大宮北遺跡	盛岡市
138	平成20年11月17日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	小林遺跡	盛岡市
139	平成20年11月17日	経営体育成基盤整備事業　下門岡地区	県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室長	境遺跡	北上市
140	平成20年11月17日～18日	地方特定道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	水門遺跡	盛岡市
141	平成20年11月18日	経営体育成基盤整備事業　徳田第二地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	可能性あり①	矢巾町
142	平成20年11月18日	畑地帯総合整備事業　奥中山地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	大塚遺跡	一戸町
143	平成20年11月18日	畑地帯総合整備事業　奥中山地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	大塚Ⅱ遺跡	一戸町

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
144	平成20年11月19日～20日	一般国道397号高屋敷道路改良工事	大船渡地方振興局土木部長	高屋敷Ⅱ遺跡	住田町
145	平成20年11月20日～21日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑥	遠野市
146	平成20年11月20日～21日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑦	遠野市
147	平成20年11月21日	一般国道４号石鳥谷拡幅工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	愛郷遺跡	花巻市
148	平成20年11月21日	馬淵川沿岸（二期）農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	中穴牛遺跡	二戸市
149	平成20年11月21日	馬淵川沿岸（二期）農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	上穴牛遺跡	二戸市
150	平成20年11月21日	馬淵川沿岸（二期）農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	天神下Ⅰ遺跡	二戸市
151	平成20年11月21日	馬淵川沿岸（二期）農業水利事業	東北農政局馬淵川沿岸農業水利事業所長	柿ノ木平遺跡	二戸市
152	平成20年11月25日	経営体育成基盤整備事業　土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部遠野農林センター所長	五日市Ⅱ	遠野市
153	平成20年11月25日～26日	経営体育成基盤整備事業　土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部遠野農林センター所長	五日市Ⅰ隣接可能性あり	遠野市
154	平成20年11月26日	一般県道土淵達曽部線土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局土木部遠野土木センター所長	下土淵遺跡	遠野市
155	平成20年11月25日	一般県道土淵達曽部線土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局土木部遠野土木センター所長	蓮池遺跡	遠野市
156	平成20年11月25日	一般県道土淵達曽部線土淵地区	県南広域振興局花巻総合支局土木部遠野土木センター所長	阿部館遺跡隣接地	遠野市
157	平成20年11月25日	和賀中部農業水利事業	東北農政局和賀中部農業水利事業所長	愛宕山遺跡隣接地	北上市
158	平成20年11月26日	花巻空港整備事業	花巻空港事務所長	上ノ山遺跡隣接地	花巻市
159	平成20年11月26日	花巻空港整備事業	花巻空港事務所長	石持Ⅰ遺跡	花巻市
160	平成20年11月27日	一般国道46号盛岡西バイパス工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	夕覚遺跡	盛岡市
161	平成20年12月１日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）舌崎地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	道の下Ａ遺跡	二戸市
162	平成20年12月１日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）舌崎地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	雨滝遺跡	二戸市
163	平成20年12月１日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）舌崎地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	石造遺跡	二戸市
164	平成20年12月３日	緊急地方道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	高屋敷Ⅳ遺跡	滝沢村
165	平成20年12月３日～４日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北天間Ⅰ遺跡	奥州市
166	平成20年12月３日～４日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北天間Ⅱ遺跡	奥州市
167	平成20年12月４日	経営体育成基盤整備事業　江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	沼の上Ⅰ遺跡	奥州市
168	平成20年12月４日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性ありNo.９	金ヶ崎町
169	平成20年12月４日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北長根道合遺跡及び可能性ありNo.８	金ヶ崎町
170	平成20年12月４日	新農業水利事業システム保全整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	樺山遺跡	北上市
171	平成20年12月５日	経営体育成基盤整備事業　中居地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室長	西部遺跡	花巻市
172	平成20年12月５日	経営体育成基盤整備事業　中居地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室長	下中居Ⅱ遺跡	花巻市
173	平成20年12月５日	経営体育成基盤整備事業　中居地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室長	下中居Ⅲ遺跡隣接地	花巻市
174	平成20年12月８日	緊急地方道路整備事業	二戸地方振興局土木部長	川袋遺跡	二戸市
175	平成20年12月８日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性ありNo.９	金ヶ崎町
176	平成20年12月８日	経営体育成基盤整備事業　大清水地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	駒板４遺跡	軽米町
177	平成20年12月９日	経営体育成基盤整備事業　大清水地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	まつっこ遺跡	軽米町
178	平成20年12月９日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	上大谷地遺跡	金ヶ崎町
179	平成20年12月８日～９日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北長根道合遺跡及び可能性ありNo.８	金ヶ崎町

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地
180	平成20年12月9日	一関遊水地事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	古館遺跡	一関市
181	平成20年12月10日	津付ダム建設事業	大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所長	子飼沢高炉跡及び隣接地	住田町
182	平成20年12月10日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑦	遠野市
183	平成20年12月11日	経営体育成基盤整備事業　黒岩第1地区	県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室長	三坊木遺跡	北上市
184	平成20年12月11日	経営体育成基盤整備事業　江釣子第1地区	県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室長	下糠塚古館遺跡	北上市
185	平成20年12月11日	経営体育成基盤整備事業　江釣子第1地区	県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室長	横堰Ⅰ遺跡	北上市
186	平成20年12月12日	農用地総合整備事業	独立行政法人森林総合研究所　下閉伊北事務所長	大岩遺跡	岩泉町
187	平成20年12月15日		県南広域振興局農林部農村整備室長		奥州市
188	平成20年12月16日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	上大谷地遺跡	金ヶ崎町
189	平成20年12月16日	経営体育成基盤整備事業　和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北長根道合遺跡及び可能性ありNo.8	金ヶ崎町
190	平成20年12月18日	経営体育成基盤整備事業　御所野地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	塩ヶ森Ⅳ遺跡	雫石町
191	平成20年12月18日	一般国道45号宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅲ遺跡	宮古市
192	平成20年12月18日	一般国道45号宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅳ遺跡	宮古市
193	平成20年12月24日	経営体育成基盤整備事業　彦部佐比内地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	小深田遺跡	紫波町
194	平成20年12月25日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	新田Ⅱ遺跡	遠野市
195	平成20年12月25日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑥	遠野市
196	平成20年12月25日	東北横断自動車道　釜石秋田線（遠野～東和間）新直轄事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり⑦	遠野市
197	平成20年12月18日	一般国道45号宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	金浜Ⅳ遺跡	宮古市
198	平成21年1月21日	基幹河川改修事業	盛岡地方振興局土木部長	法誓寺Ⅰ遺跡	滝沢村
199	平成21年1月30日	経営体育成基盤整備事業　彦部佐比内地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	小深田遺跡	紫波町
200	平成21年2月2日	緊急地方道路整備事業	岩泉土木事務所長	真木沢Ⅲ遺跡	田野畑村
201	平成21年2月12日	経営体育成基盤整備事業　都鳥地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	川端遺跡	奥州市
202	平成21年2月12日	経営体育成基盤整備事業　古城2期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	水尻遺跡	奥州市
203	平成21年2月17日	地方特定道路整備事業	県南広域振興局花巻総合支局土木部長	太田中央遺跡	花巻市
204	平成21年2月17日	交番・駐在所建設事業	警察本部警務部会計課長	蝦夷窪遺跡及び隣接地	川井村
205	平成21年2月19日	一般国道45号　宮古道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	八木沢ラントノサワⅡ遺跡	宮古市
206	平成21年2月27日	道路改築事業	盛岡地方振興局土木部長	上田山遺跡	盛岡市
207	平成21年3月3日	道路改築事業	盛岡地方振興局土木部長	上田山遺跡	盛岡市
208	平成21年3月4日	経営体育成基盤整備事業　前田野地区	県南広域振興局一関総合支局千厩農林センター所長	市道遺跡	一関市
209	平成21年3月6日	経営体育成基盤整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	瀬谷子遺跡	奥州市
210	平成21年3月9日	主要地方道一関北上線緊急道路整備事業（柵の瀬地区）	県南広域振興局一関総合支局土木部長	古舘遺跡	一関市
211	平成21年3月11日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	小林繁長遺跡	奥州市
212	平成21年3月11日～12日	経営体育成基盤整備事業　白山地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	小林繁長遺跡	奥州市
213	平成21年3月13日	交通安全施設整備（歩道）事業	二戸地方振興局土木部長	沢尻向遺跡隣接地	軽米町

平成20年度　分布調査一覧

1　三陸縦貫自動車道　高田道路

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり①					平成20年４月22日	
2		可能性あり②					平成20年４月22日	
3	ＮＦ57－2241	瓜畑遺跡	縄文		散布地	陸前高田市高田町中和野地内	平成20年４月22日	周知
4		可能性あり③					平成20年４月22日	
5	ＮＦ65－0015	佐野Ⅰ遺跡	縄文		散布地	陸前高田市高田町中和野地内	平成20年４月22日	周知

2　三陸縦貫自動車道　吉浜道路

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ＮＧ11－1260	中居遺跡	縄文		散布地	大船渡市三陸町吉浜字中井地内	平成20年４月23日	周知

3　三陸縦貫自動車道　普代バイパス

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ＫＧ02－0109	中村遺跡	縄文		散布地	下閉伊郡普代村第12地割字中村地内	平成20年３月10日	周知
2	ＪＧ92－2272	普代遺跡	縄文		散布地	下閉伊郡普代村第13地割字羅賀地内	平成20年３月10日	周知
3		可能性あり①				下閉伊郡普代村第13地割字羅賀地内	平成20年３月10日	

4　三陸縦貫自動車道　中野バイパス

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ＫＧ43－1288	大牛内Ⅳ遺跡	縄文		散布地	下閉伊郡岩泉町小本字大牛内地内	平成20年３月17日	周知

5　河川等災害復旧事業

県南広域振興局土木部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1							平成20年４月21日	なし

6　道路整備事業

久慈地方振興局土木部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり１				洋野町鉄山地内	平成20年５月23日	
2		可能性あり２				洋野町鉄山地内	平成20年５月23日	

7　中山間地域総合整備事業　広田地区

大船渡地方振興局農林部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ＮＦ89－2052		縄文	土器片	散布地	陸前高田市広田町地内	平成20年５月27日～28日	新規
2	ＮＦ89－1078		縄文	土器片	散布地	陸前高田市広田町地内	平成20年５月27日～28日	新規
3	ＮＦ89－1057		縄文	土器片	散布地	陸前高田市広田町地内	平成20年５月27日～28日	新規
4		可能性あり１				陸前高田市広田町地内	平成20年５月27日～28日	

8　一般国道４号北上拡幅　　国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ＭＥ75－2302	平林Ⅰ遺跡	平安		散布地	北上市相去町字平林地内	平成20年６月４日	周知
2	ＭＥ75－2324	平林Ⅱ遺跡	平安		散布地	北上市相去町字平林地内	平成20年６月４日	周知
3	ＭＥ75－2370	相去城跡	中世		城館跡	北上市相去町地内	平成20年６月４日	周知
4	ＭＥ85－1229	和田尻遺跡	縄文		散布地	北上市相去町字和田尻地内	平成20年６月４日	周知
5	ＭＥ85－1229	和田前遺跡	縄文		散布地	北上市相去町字和田尻地内	平成20年６月４日	周知
6		可能性あり①				北上市相去町字和田尻地内	平成20年６月４日	周知

9　一般県道土淵達曽部線整備事業　　県南広域振興局花巻総合支局遠野土木センター所長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ＭＦ35－2365	蓮池遺跡	古代・近世		散布地	遠野市土淵町土淵	平成20年６月４日	周知

10　一般国道340号土淵地区道路改築事業　　県南広域振興局花巻総合支局遠野土木センター所長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり①					平成20年６月４日	
2		阿部館遺跡・下土淵遺跡隣接地					平成20年６月４日	なし
3	ＭＦ36－1158	火石遺跡隣接地				遠野市土淵町野崎第10地割地内	平成20年６月４日	周知
4	ＭＦ36－1231	栃内野崎遺跡隣接地				遠野市土淵町栃内字野崎地内	平成20年６月４日	周知

11　中山間地域総合整備事業　すいせい地区　　県南広域振興局農林部農村整備室長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1							平成20年６月５日	遺跡なし

12　森林管理道畑福線開設工事　　盛岡地方振興局土木部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
							平成20年７月17日	遺跡なし

13　中山間地域総合地域整備事業　野田地区　　久慈地方振興局農政部農村整備室長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
							平成20年７月17日	遺跡なし

14　やまのみち地域づくり交付金事業　毛無森線　　二戸地方振興局土木部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ＪＥ46－1177	焼切Ⅱ	縄文		散布地	二戸市浄法寺町焼切地内	平成20年８月11日～12日	周知
2	ＪＥ46－1189	焼切Ⅳ	縄文		散布地	二戸市浄法寺町焼切地内	平成20年８月11日～12日	周知
3	ＪＥ46－2273	焼切Ⅸ	縄文		散布地	二戸市浄法寺町焼切地内	平成20年８月11日～12日	周知
4		可能性あり１				二戸市浄法寺町焼切地内	平成20年８月11日～12日	周知

15　やまのみち地域づくり交付金事業　安孫・平糠線　　二戸地方振興局土木部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1	ＪＦ60－0200	東Ⅴ及び隣接地	縄文			一戸町平糠字東地内	平成20年８月11日～12日	
2	ＪＦ60－0242	東Ⅳ	縄文		散布地	一戸町平糠字東地内	平成20年８月11日～12日	周知

16　県単交通安全施設整備事業　　二戸地方振興局土木部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり				軽米町字笹渡地内	平成21年１月29日	なし

17　道路特殊改良事業　　県南広域振興局土木部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり				奥州市江刺区梁川字札押地内	平成21年１月28日	

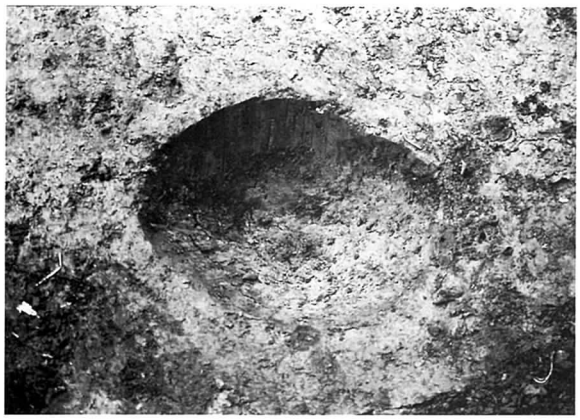
18　道路特殊改良事業　　釜石地方振興局土木部長

No.	遺跡コード	遺跡名	時代	遺構・遺物	種別	所　在　地	調査日	備考
1		可能性あり				下閉伊郡大槌町地内	平成21年３月12日	

平成20年度　発掘調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	検出遺構	面積
1	平成20年4月21日～25日　計5日間	66kv送電線「宮釜線補償金工事」	東北電力株式会社岩手支店長	隠里Ⅲ遺跡	宮古市	土坑2基、炭窯2基	792㎡
2	平成20年6月23日～27日	中山間地域総合整備事業野田地区	久慈地方振興局農政部農村整備室長	中新山遺跡	野田村	柱穴等	340㎡
3	平成20年10月17日	県南青少年の家キャンプ場第2炊事場流し配水管改修工事	教育委員会事務局生涯学習文化課総括課長	柏山館跡	金ヶ崎町	柱穴5基	80㎡
4	平成21年1月7日～9日、13日～14日	経営体育成基盤整備事業黒岩第1地区	県南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室長	三坊木遺跡	北上市	竪穴住居跡1棟	100㎡
5	平成21年1月21日～22日	経営体育成基盤整備事業江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北天間Ⅰ遺跡	奥州市	溝跡1条	50㎡
6	平成21年1月22日～23日	経営体育成基盤整備事業和賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	北長根道合遺跡	金ヶ崎町	溝跡2条、土坑2基	100㎡
7	平成21年2月23日～25日	新農業水利システム保全整備事業　稲瀬地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	樺山遺跡	北上市	遺物包含層	10㎡
8	平成21年3月23日～24日	経営体育成基盤整備事業白山地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	小林繁長遺跡	奥州市	土坑2基、柱穴状土坑1基	15㎡

Ⅲ　写真図版



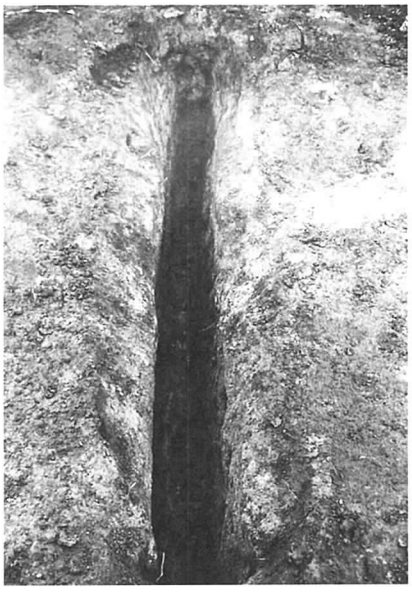
八坂遺跡・柱穴

三坊木遺跡・竪穴住居跡（東から）

三坊木遺跡・西側カマド

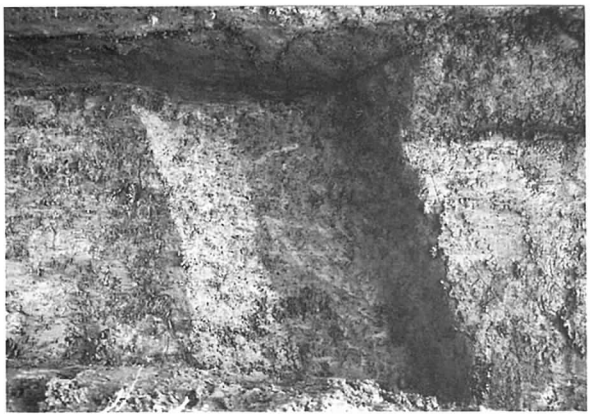
三坊木遺跡・西側カマド袖部

三坊木遺跡・南側カマド

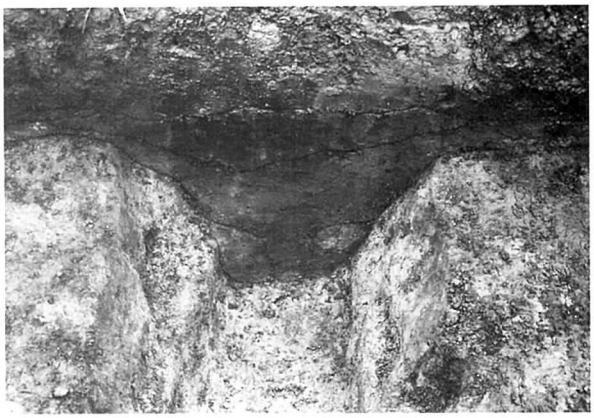


三坊木遺跡・陥し穴

写真図版１　検出遺構(1)

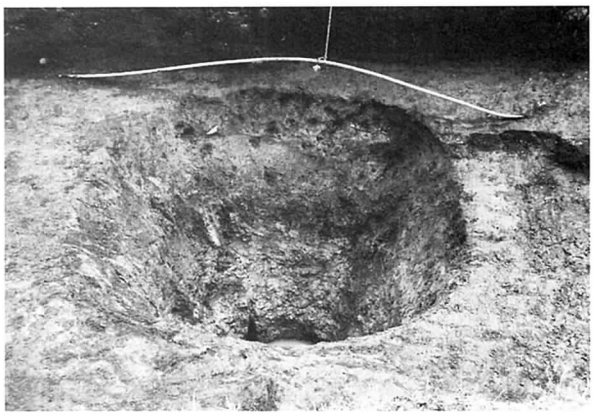


北天間Ⅰ遺跡溝跡



北長根道合遺跡溝跡

中新山遺跡・柱穴



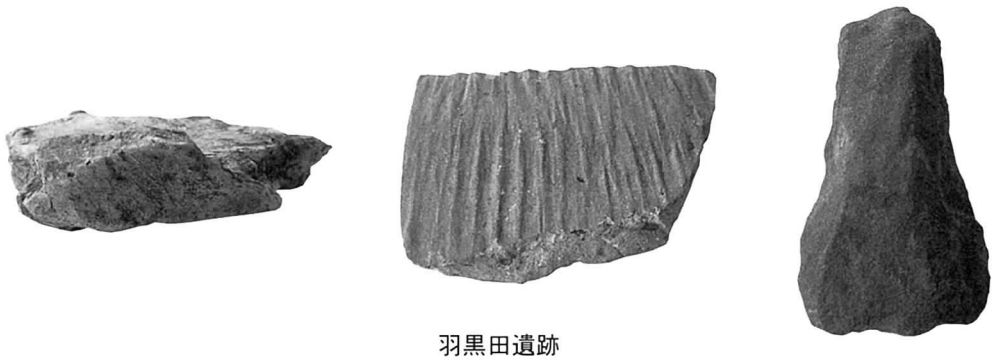
中新山遺跡・井戸

隠里Ⅲ遺跡・調査区

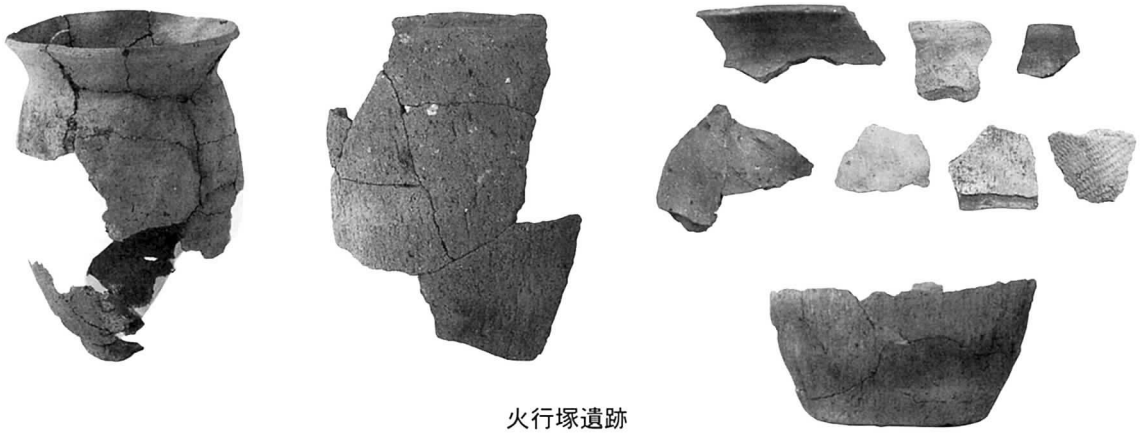
隠里Ⅲ遺跡・調査区

写真図版２　検出遺構(2)

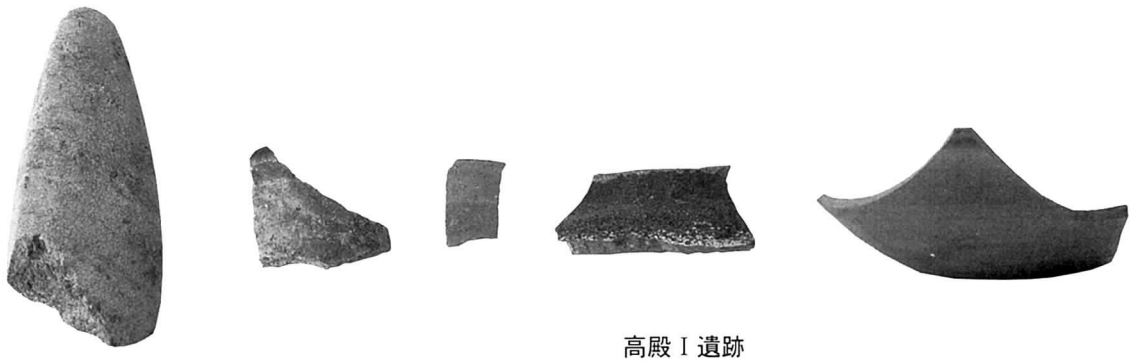
芋田沢田Ⅳ遺跡　　鵜ノ木台地南遺跡



羽黒田遺跡



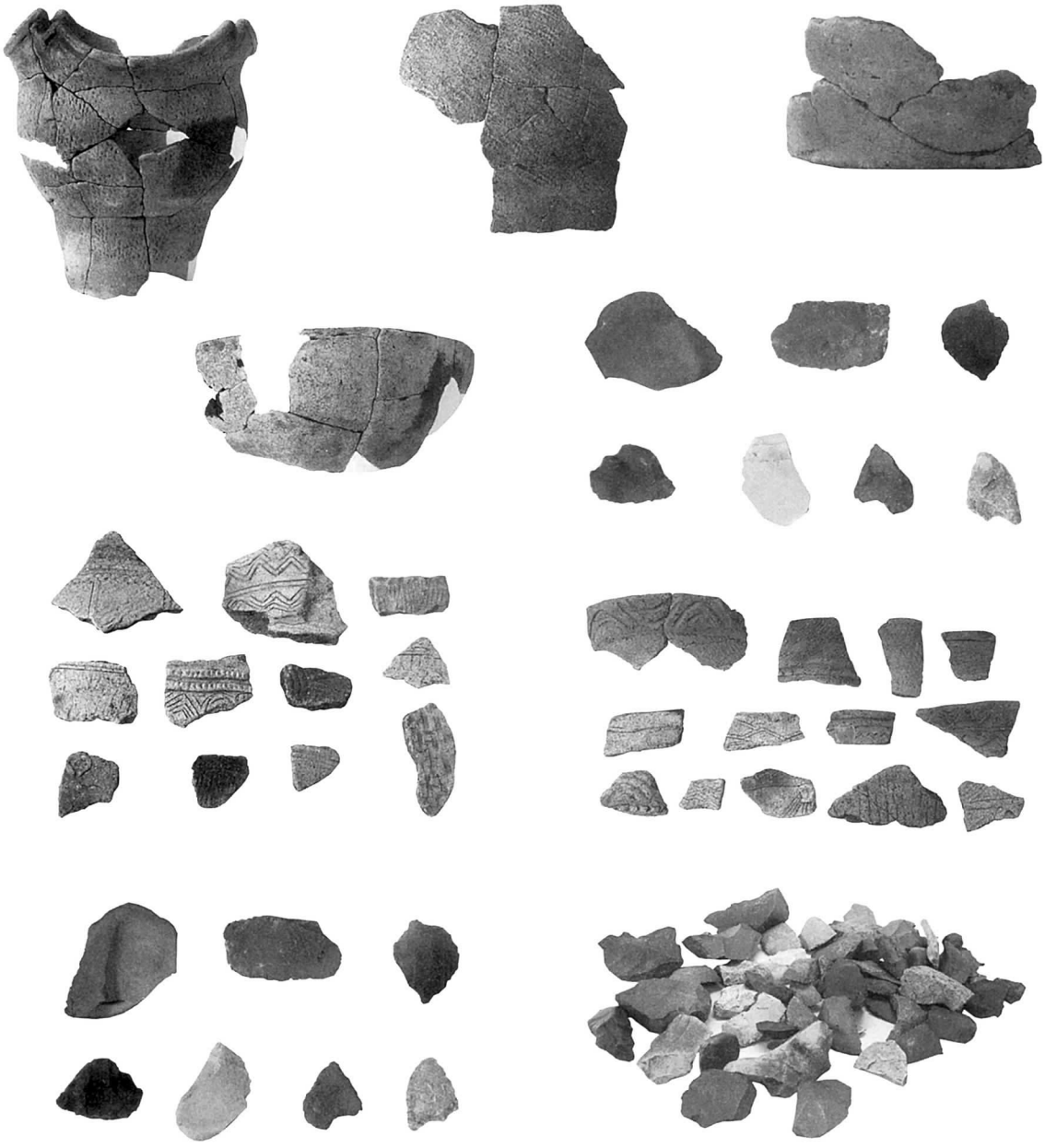
火行塚遺跡



高殿Ⅰ遺跡

貝鳥貝塚

写真図版３　出土遺物(1)

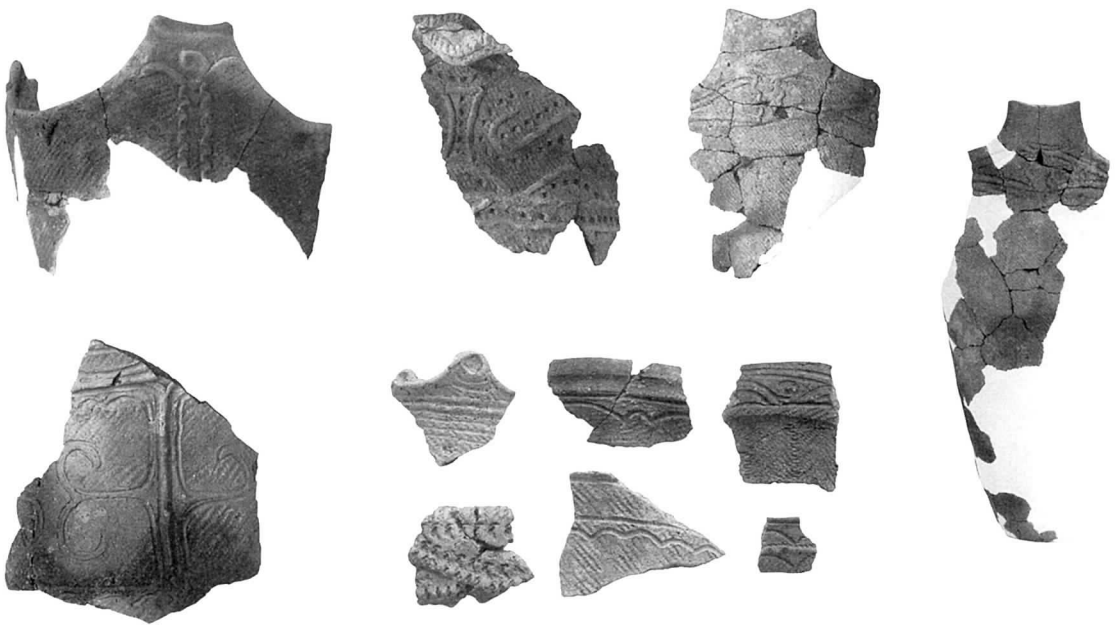


樺山遺跡

丸子館遺跡　　子飼沢遺跡

写真図版４　出土遺物(2)

高屋敷Ⅱ遺跡



松屋敷遺跡

新田Ⅱ遺跡　　川端遺跡

写真図版５　出土遺物(3)

三坊木遺跡

写真図版 6　出土遺物(4)

徳丹城跡隣接地

二升石遺跡

北長根道合遺跡

田代遺跡

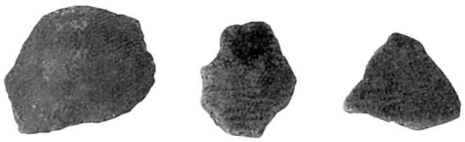
北天間Ⅰ遺跡

写真図版７　出土遺物(5)

西部遺跡

山ノ上遺跡

滝ノ沢遺跡



小林繁長遺跡

中新山遺跡

写真図版８　出土遺物(6)

岩手県文化財調査報告書第129集

岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成20年度）

発行日　平成22年３月29日
発　行　岩手県教育委員会
　　岩手県盛岡市内丸10番１号
編　集　岩手県教育委員会生涯学習文化課
印　刷　大更印刷株式会社
　　岩手県八幡平市21－16－9